

MEDIAEDGE

User's Guide

V.1.30J

canopus

ご使用前に

■絵表示について

本製品を安全に正しくお使いいただくために、以下の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

人が死亡または重傷を負う恐れのある内容を示しています。



注意

けがをしたり財産に損害を受ける恐れのある内容を示しています。



この記号はしてはいけないことを表しています。



この記号はしなければならぬことを表しています。



この記号は気をつける必要があることを表しています。



警告



● 信頼性や安全性が必要な環境で使用しない
医療機器や人命に関わるシステムでは、絶対にご利用にならないでください。製品の性質上、これらのシステムへの導入は適しません。



● パソコン筐体内部に組み込む製品の取り付けおよび取り外しに関して

製品の取り付けおよび取り外しを行う場合必ずパソコン本体および周辺機器の電源を切り、さらに電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行ってください。

パソコン本体および周辺機器の電源を入れたまま製品を取り付けたり取り外したりした場合、製品やパソコン本体、周辺機器および周辺機器に接続されている機器の一部が破壊される恐れがあります。また、パソコン本体および周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜かずパソコン本体や周辺機器の筐体(電源ユニットなど)、機器の金属部分に触れた場合には感電する恐れがあります。



● 静電気に関して

製品に静電気が流れると製品上の部品が破壊される恐れがあります。各コネクタや部品面には直接手を触れないでください。

静電気は衣服や人体からも発生します。製品に触れる前に、一旦接地された金属製のものに触れてください(体内の静電気を放電することになります)。



● 製品を分解しない

本体カバーを外したり、本機を改造しないでください。火災や感電、故障の原因となります。内部の点検・修理は、販売店か当社にお問い合わせください。



● 指定以外の電圧で使用しない

AC 100~240V以外の電源電圧では、使用しないでください。定格以外の電源電圧で使用すると火災や故障の原因となります。



● 指定以外の電源を使用しない

指定以外のACアダプターやカー電源を使用しないでください。火災や故障の原因となります。



● ACアダプターのコードを大切に

コードに重いものをのせたり、熱機器に近づけたりしないでください。コードが損傷して火災や感電、故障の原因となります。

また、コードを加工したり、無理に曲げたり引っ張ったりすると、火災や感電の原因となります。コードが痛んだ場合には、販売店か当社にお問い合わせください。

注意



● 製品の取扱いに関する注意事項

製品は指定された位置に指示通り取り付けてください。指示通りに取り付けられていない場合、製品の金属部分とパソコンの金属部分が接触してショートするなどの要因で、製品やパソコン本体・周辺機器の破壊や火災の恐れがあります。

製品を取り扱うときは手など皮膚を傷つけないよう十分にご注意ください。ハードウェアの仕様上、製品のパネル、コネクタ、エッジ、裏面は金属のピンが、突出していることがあります。

製品を取り付けたり取り外したりするときは、製品全体を軽く包み込むようにお持ちください。動作中の製品は熱により非常に熱くなります。長時間使用した製品に手を触れる際には、十分にご注意ください。



● パソコン筐体内部に組み込む製品の消費電流に関する注意事項

複数の拡張ボードをパソコンに取り付けるときは、ご購入製品を含めたすべての製品の消費電流の合計がパソコンの最大供給電流を超えていないことを必ず確認してください。全ボードの消費電流の合計がパソコンの最大供給電流を超えたりするなどの動作条件を満たさない環境で使用し続けると、システムが正常に動作しない場合やシステムに負荷がかかり、パソコンが故障する原因となる恐れがあります。

消費電流のわからない製品については、その製品の取扱説明書をご覧ください。メーカーに直接お問い合わせいただいております。



● 他社製品と併用されるときの注意事項

他社製品と併用されるとご購入製品が正常に動作しないことがあり、そのためにシステムが本来の目的を達成することができないこともあります。あらかじめ、製品単体の環境で購入製品が正常に動作することをご確認ください。また、他社製品との併用によって購入製品が正常に動作しないのであれば、その他社製品と購入製品との併用はお止めください。



● ACアダプターを抜くときはコードを引っ張らない

ACアダプターを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。コードを引っ張って抜くとコードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



● めれた手でACアダプターにさわらない

めれた手でACアダプターを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電や火災、故障の原因となります。



● 温度が高くなる場所に置かない

直射日光の当たるところや発熱する器具の近くなどに置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となること、また本体が変形・変色することがあります。



● 指定以外の方法で設置しない

本製品を指定以外の方法で設置しないでください。本機をラック内などの密閉された場所に置くことや布やビニール等でくるんだ状態で使用しないでください。熱がこもり火災や故障の原因となります。



● 長期間使用しないときには

本製品を長期間しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

■ ご購入製品を使用される際の注意事項

ここでは、ご購入製品を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明しています。ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、カノープスシステムプロダクツサポートまでお問い合わせください。

カノープスシステムプロダクツサポート
TEL. 03-3516-2548 (10:00~12:00、13:00~17:00)
※土、日、祝日および当社指定休日を除く
FAX. 03-3516-2549 (24時間受付)
※回答は土、日、祝日および当社指定休日を除く



ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしました。万が一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの事がありましたら、当社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6) 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (7) カノープス、Canopusおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
- (8) MEDIAEDGEはカノープス株式会社の商標です。
- (9) MS、Microsoft、Windowsは米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。
- (10) MEDIAEDGE-STB ファームウェアは、JPEG 画像の読み込みに、Independent JPEG Group の成果の一部を用いています。



表記について

- 本書は、MEDIAEDGEのユーザーズガイドです。
- 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイルも必ずお読みください。
- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書れています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
- 本書ではMicrosoft® Windows® 2000 operating systemをWindows 2000と表記します。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラスト及び画面写真が異なる場合があります。画面写真は開発中のものです。



警告

■ 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニタに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

MEDIAEDGE

User's Guide

Version 1.30J

October 11,2002

Copyright © 2001-2002 Canopus Co., Ltd.

All rights reserved.

目次

第 1 章 確認 1

1. はじめに	2
1-1. 使用許諾契約書について.....	2
1-2. ご使用に当たっての留意事項.....	2
1-3. パッケージ内容の確認	2
■ MEDIAEDGE-SVS 同梱物	3
2. 動作環境について	4
2-1. パソコン本体について	4
2-2. 対応 OS について	4
2-3. 当社ホームページについて.....	4
2-4. オンラインユーザー登録について.....	4
3. 用語解説	5
3-1. 用語について	5
■ MEDIAEDGE システム (MEDIAEDGE System)	5
■ MEDIAEDGE サーバー (MEDIAEDGE Server)	5
■ MEDIAEDGE クライアント (MEDIAEDGE Client)	5
■ MEDIAEDGE サーバーコンソール (MEDIAEDGE Server Console)	5
■ MEDIAEDGE データベース (MEDIAEDGE Database)	5
■ MEDIAEDGE ストリームサーバー (MEDIAEDGE Stream Server)	5
■ MEDIAEDGE-STB.....	6
■ MEDIAEDGE-PCT.....	6
■ MEDIAEDGE-SWT.....	6

第 2 章 MEDIAEDGE-STB 7

1. MEDIAEDGE のシステム構成.....	8
1-1. MEDIAEDGE-STB を使用したシステムの概要.....	8
2. MEDIAEDGE の各部の名称と機能.....	9
2-1. MEDIAEDGE-STB のフロントパネル.....	9

2-2. MEDIAEDGE-STB のリアパネル.....	10
2-3. MEDIAEDGE-STB のリモコン.....	11

第3章 インストール..... 13

1. 準備する	14
1-1. この章での説明について.....	14
1-2. OSインストール時の設定について.....	14
■ IP アドレスの設定	16
■ DNS サーバーの設定	17
■ DHCP サーバーの設定	21
1-3. DBMS のインストールについて	25
■ SQL Server 7.0 のインストール.....	25
■ SQL Server 7.0 のインストール後の確認	29
■ MSDE および SQL Server 7.0 の[SA]のパスワード設定について	30
■ SQL Server 2000(Standard Edition)のインストール.....	31
■ SQL Server 2000(Standard Edition)のインストール後の確認	35
2. インストール	36
2-1. MEDIAEDGE-SVS のインストール.....	36
2-2. DHCP の設定	40
■ ベンダ固有情報設定ツールの起動.....	40
■ DHCP 設定の手順	40
2-3. MEDIAEDGE-STB を接続する.....	42
■ メニュー映像の確認	43
■ 映像コンテンツの選択と確認	43
■ MEDIAEDGE-STB のファームウェアのバージョン確認	44
■ MEDIAEDGE-STB の内部設定値の初期化.....	44
3. DHCPを使用しない場合のインストールと動作確認.....	45
3-1. DHCPを使用しない場合の設定方法の概要.....	45
3-2. OSのインストールと設定	46
3-3. DBMS のインストール	46
3-4. MEDIAEDGE-SVS のインストール.....	46
3-5. ベンダ固有情報設定ツールの起動.....	47
3-6. DHCP ベンダ固有情報の仮設定	48
3-7. MEDIAEDGE-STB を仮接続し、IP アドレスを調べる	49

3-8. MEDIAEDGE-STB を設定して本接続する	50
3-9. サーバーの IP アドレスを指定する	54
3-10. サンプルメニューを編集する	55
3-11. サーバーアドレスの MEDIAEDGE-STB 設定	56
3-12. 動作を確認する	56
4. MEDIAEDGE-PCT のインストールと動作確認	57
4-1. サーバーのセットアップ	57
4-2. MEDIAEDGE-PCT のインストール	58
4-3. MEDIAEDGE-PCT を使用する	60
5. MEDIAEDGE-SWT のインストールと動作確認	62
5-1. サーバーのセットアップ	62
5-2. MEDIAEDGE-SWT のインストール	62

第 4 章 アンインストール 63

1. アンインストール	64
1-1. ドングルの停止と取り外し	64
1-2. アプリケーションのアンインストール	66

第 5 章 MEDIAEDGE を設定する 69

1. はじめに	70
1-1. 用語について	70
■ VOD (ビデオ・オン・デマンド) 再生	70
■ スケジュール再生	70
■ サーバー	70
■ クライアント	70
■ コンテンツ	71
■ コンテンツコンポーネント	71
■ チャネル	71
■ スケジュール	71
■ カテゴリ	71
1-2. VOD 再生とスケジュール再生	72
1-3. コンテンツについて	72
1-4. クライアントのメニュー画面について	73

2. 設定ツールと手順について.....	74
2-1. 設定に使用するツールについて.....	74
■サーバーコンソール.....	74
■コンテンツインストーラー.....	75
■サーバー設定ツール.....	75
■STB 設定ツール.....	75
■ベンダ固有情報設定ツール.....	75
■登録情報抽出ツール.....	75
■STB ファームウェアアップデートツール.....	76
2-2. サーバーコンソールの表示確認.....	77
2-3. コンテンツの登録.....	78
2-4. スケジュール再生の設定.....	85
■サーバー設定.....	85
■チャンネルカテゴリの登録.....	86
■チャンネルの登録.....	86
■スケジュールカテゴリの登録.....	88
■スケジュールの登録.....	88
■再生の確認.....	90
2-5. ライブビデオの設定.....	91
2-6. リモートブートの設定.....	92
■DHCP サーバーがある場合.....	93
■DHCP サーバーがない場合.....	95
2-7. MEDIAEDGE-STB 再起動後の確認.....	96
■確認方法.....	96
2-8. クライアントの登録、制御、監視について.....	96
3. サーバーコンソールのリファレンス.....	97
3-1. トップページ.....	97
3-2. MPEG ファイル一覧.....	98
■MPEG ファイルの編集画面.....	99
3-3. コンテンツ一覧.....	100
■コンテンツ一覧画面.....	100
■コンテンツの編集画面.....	101
■コンテンツコンポーネントウィザード.....	102
3-4. スケジュール表.....	105
■スケジュール表画面.....	106
■スケジュール一覧画面.....	107
■チャンネルの編集画面.....	108

■スケジュールの編集画面	110
■定期スケジュールの編集画面	112
3-5. カテゴリ	114
■カテゴリー一覧画面	114
■コンテンツカテゴリの編集画面	115
3-6. チャンネルの監視	116
■チャンネルの監視画面	116
3-7. クライアント一覧	117
■クライアント一覧画面	117
■クライアントの編集画面	118
3-8. クライアントの監視	119
■クライアントの監視画面	119
3-9. クライアントの制御	120
■クライアントの制御画面	120
3-10. クライアントのリポート	121
■クライアントのリポート画面	121
3-11. サーバー	122
■サーバー一覧画面	122
■サーバーの編集画面	123
3-12. イベントログ	124
■イベントログ画面	124
3-13. 録画	126
■録画画面	126
4. サーバー設定ツール	127
■サーバー設定ツール画面	127
■ライブビデオの設定	129
5. STB 設定ツール	131
■起動方法	131
■システムメニュー	132
■ブートタブ	133
■コンテンツタブ	134
■シリアルポートタブ	135
■ファームウェアタブ	136
■終了と再起動	137
6. DHCP の設定	138

7. ベンダ固有情報設定ツール.....	141
■ベンダ固有情報設定ツールに関する制限事項	141
■ベンダ固有情報設定ツールのメイン画面	142
■動作フラグタブ	143
■コンテンツタブ	144
■シリアルポートタブ	145
■属性タブ	146
■保存と再起動	147
■リロード	147
■DHCP 管理コンソールを開く.....	147
■ファイルメニュー	147
■コマンドメニュー	148
■拡張機能の使用例	149
■ヘルプメニュー	150
8. 登録情報抽出ツール	151
■登録情報抽出ツールのメイン画面.....	151
■抽出した定義を使用した登録方法.....	154
■使用例	154
9. 付録	155
9-1. 制限事項	155
■動作環境の制限	155
■名前に関する制限	155
■その他の制限	155

第6章 APPENDIX..... 157

1. STBファームウェアのアップデート	158
■MEDIAEDGE-STB のファームウェアのアップデート	158
2. MEDIAEDGE で使用する MPEG ファイルについて	163
■MPEG2 を出力する場合.....	163
■ビデオに関する設定 (MPEG2)	164
3. ハードウェア仕様	165
■MEDIAEDGE-STB ハードウェア仕様.....	165

確認

1

この章では、セットアップを行う前に確認していただきたい事項や、ご注意くださいいただきたい事項について説明します。

- はじめに
- 動作環境について
- 用語解説

1 はじめに

1-1 使用許諾契約書について

MEDIAEDGE-SVSをご購入いただき、ありがとうございます。本製品をお使いいただくにあたって、まずはじめに付属の『MEDIAEDGE Series サポートマニュアル』のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。本製品に付属のソフトウェアをご利用いただくには、この使用許諾契約書の内容にご同意いただく必要があります。この使用許諾契約にご同意いただけない場合や、ご不明な点がございましたら、本書以外のパッケージを開封せずに下記システムプロダクツサポートまでご連絡ください。このソフトウェア使用許諾契約は、お客様が『ディスクが入っている封筒』を開封された時点で内容にご同意いただいたものとさせていただきます。

カノーブスシステムプロダクツサポート

電話：03-3516-2548（※月曜～金曜 10:00～12:00/13:00～17:00 土日祝日および当社指定休日を除く）

FAX：03-3516-2549（※24時間受付 回答は土日祝日および当社指定休日を除く）

1-2 ご使用に当たっての留意事項

ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。

製品本来の使用目的及び当社が提供を行っている使用環境以外での動作は保証いたしかねます。

CPUなどを定格外でご使用の場合、本製品の動作保証は一切いたしかねます。

1-3 パッケージ内容の確認

MEDIAEDGE-SVSのパッケージの中に次頁の付属品が入っていることを確認してください。製品の梱包には万全を期しておりますが、万一不足しているものがありましたら、下記システムプロダクツサポートまでご連絡ください。

カノーブスシステムプロダクツサポート

電話：03-3516-2548（※月曜～金曜 10:00～12:00/13:00～17:00 土日祝日および当社指定休日を除く）

FAX：03-3516-2549（※24時間受付 回答は土日祝日および当社指定休日を除く）

■ MEDIAEDGE-SVS 同梱物

□ ドングル(ハードウェアプロテクトキー)

MEDIAEDGE-SVS ご使用時には、このドングルが必要です。

□ ディスク

MEDIAEDGEをお使いいただくためのアプリケーションなどが付属しています。これらは、封筒の中に収められています。この封筒を開封する前に、別途付属している『MEDIAEDGE Series サポートマニュアル』の中の使用許諾契約の項目をお読みください。

付属しているディスクについては、封筒内の『MEDIAEDGE-SVSに付属のメディア』をご参照ください。

□ マニュアル

- Installation Guide(本書)
- MEDIAEDGE Series サポートマニュアル

□ ユーザー登録カード・ユーザー登録控え

本製品に関するさまざまなサービスをお受けいただくために、ぜひユーザー登録を行ってください(ご登録いただけていない場合には、一部のサービスについてお受けいただけないものがございます)。当社よりご提供させていただいているサービスについては『MEDIAEDGE Series サポートマニュアル』をご覧ください。

ユーザー登録カードの各項目に必要な事項を記入し、ユーザー控えの部分を切り離して切手を貼らずにポストへ投函してください。切り離れたユーザー控えは、ご購入いただきました製品の所有者であることを証明するものになりますので、本書と併せて大切に保管してください。また、本製品は当社ホームページにおいてオンラインユーザー登録も承っております。詳しくはオンラインユーザー登録ページ(<http://www.canopus.co.jp/tech/regist.htm>)をご覧ください。

2 動作環境について

2-1 パソコン本体について

以下の条件を満たしている場合でもパソコン本体の問題によって正常に動作しない場合があります。以下に書かれている条件を満たしているすべてのパソコンでの動作を保証しているものではありません。

■ 必要な動作環境

本製品をお使いいただくために最低限必要な環境です。

- ・ Intel Pentium III 800MHz 以上のCPUを搭載
- ・ 128MB 以上のメモリを搭載 (256MB 以上を推奨)
- ・ CD-ROM ドライブを搭載 (アプリケーションのインストールに使用)
- ・ 1024x768 ドット 65536 色以上を表示できるグラフィックボード
- ・ ネットワークボード (Ethernet 100BASE-TX 対応のもの)

※ Intel Pro/100+ を推奨

2-2 対応 OS について

- マイクロソフト Windows 2000 Server 日本語版

2-3 当社ホームページについて

MEDIAEDGE をはじめとする当社最新情報をホームページ (<http://www.canopus.co.jp>) にて発信しています。最新のドライバ、ユーティリティ、製品マニュアル (PDF 形式)、FAQなどを公開していますので、当社ホームページを是非アクセスいただき快適なパソコン環境を実現してください。

2-4 オンラインユーザー登録について

お客様がインターネットに接続できる環境であれば、ユーザー登録カードをご投函いただくだけでも当社ホームページ上でユーザー登録することができます。オンラインユーザー登録ページ (<http://www.canopus.co.jp/tech/register.htm>) に直接アクセスいただき登録を行ってください。

3

用語解説

3-1 用語について

ここでは、本マニュアルおよびオンラインマニュアルで使用する用語について説明します。

■ MEDIAEDGEシステム (MEDIAEDGE System)

1台以上のMEDIAEDGEサーバーと1台以上のMEDIAEDGEクライアントを組み合わせたシステムの総称です。サーバー、クライアントおよびコンソールから構成されています。

■ MEDIAEDGEサーバー (MEDIAEDGE Server)

ストリームの送付、コンテンツ管理、スケジュール管理およびクライアント管理を行う1台または複数のサーバーの総称です。ストリームサーバー、DBMSおよびWebサーバーから構成されています。

■ MEDIAEDGEクライアント (MEDIAEDGE Client)

MEDIAEDGEサーバーからのストリームを受信して映像として表示する端末です。MEDIAEDGE-STBとMEDIAEDGE-PCTとMEDIAEDGE-SWTの3種類があります。

■ MEDIAEDGEサーバーコンソール (MEDIAEDGE Server Console)

コンテンツ管理、スケジュール管理、クライアント管理を行うための管理端末です。MEDIAEDGEサーバー上で動作することも、ネットワークで接続された別のコンピュータで動作させることも可能です。

■ MEDIAEDGEデータベース (MEDIAEDGE Database)

MPEGファイルやクライアントの管理、スケジュール管理などに必要なデータベースファイルです。DBMSによって管理されています。

■ MEDIAEDGEストリームサーバー (MEDIAEDGE Stream Server)

MEDIAEDGEサーバーからの構成要素のうち、主にストリームを送出することを目的としたモジュールです。MEDIAEDGEクライアントからの要求や設定されたスケジュールの処理も行います。

■ MEDIAEDGE-STB

MEDIAEDGE クライアントのうち、専用端末のものです(別売の製品です)。

■ MEDIAEDGE-PCT

MEDIAEDGE クライアントのうち、コンピュータをベースとし、ハードウェアデコーダボードを使用するタイプのものです。必要なソフトウェアは、本製品に含まれていますが、MPEG2デコーダボードMPL-D2000(MMR-D2000でも可)を別途購入いただく必要があります。

■ MEDIAEDGE-SWT

MEDIAEDGE クライアントのうち、コンピュータをベースとし、ソフトウェアデコーダを使用するタイプのものです(別売の製品です)。

📖 ポイント

MEDIAEDGE で使用しているサンプルコンテンツは、当社より発売しています。高画質映像素材集「CREATIVECAST Professional」を利用して作成しています。プロフェッショナル用途に最適な映像を収録した本製品は、当社ホームページにてご案内しております。

本製品を使用して他人の著作物(例:CD・DVD・ビデオグラム等の媒体に収録されている、あるいはラジオ・テレビ放送又はインターネット送信によって取得する映像・音声)を録音・録画する場合の注意点は下記の通りとなります。

- 著作権上、個人的又は家庭内において著作物を使用する目的で複製をする場合を除き、その他の複製あるいは編集等が著作権を侵害することがあります。収録媒体等に表示されている権利者、放送、送信、販売元または権利者団体等を介するなどの方法により、著作者・著作権者から許諾を得て複製、編集等を行う必要があります。
- 他人の著作物を許諾無く複製または編集して、これを媒体に固定して有償・無償を問わず譲渡すること、またはインターネット等を介して有償・無償を問わず送信すること(自己のホームページの一部に組み込む場合も同様です)は、著作権を侵害することになります。
- 本製品を使用して作成・複製・編集される著作物またはその複製物につきましては当社は一切責任を負いかねますので予めご了承ください。

MEDIAEDGE-STB

2

この章では、MEDIAEDGE-SVSと組み合わせて使用する別売オプションのMEDIAEDGE-STBの各部の名称と機能を説明します。

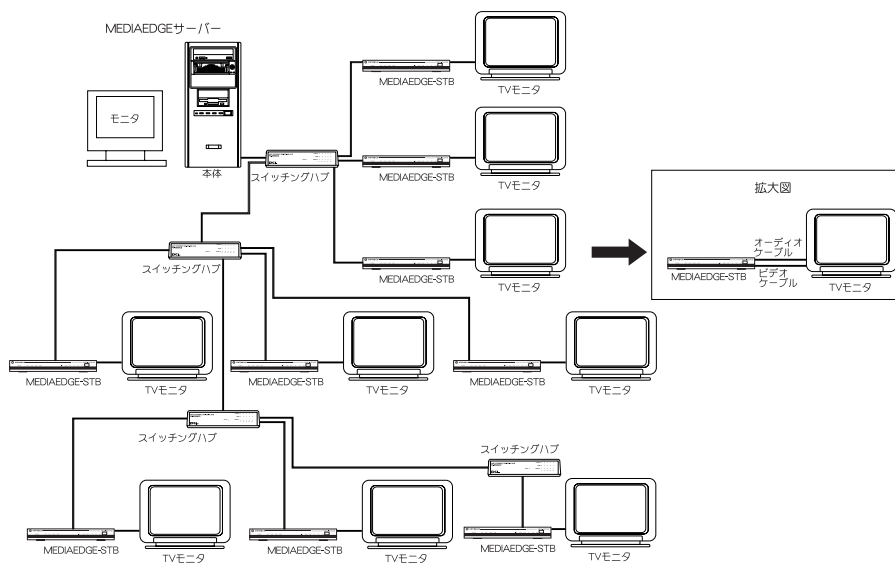
- MEDIAEDGE のシステム構成
- MEDIAEDGE-STB の各部の名称と機能

1 MEDIAEDGE のシステム構成

1-1 MEDIAEDGE-STB を使用したシステムの概要

MEDIAEDGE は、映像配信システムを構築できるネットワーク型のビデオ配信・表示システムです。

次の図はクライアントとして MEDIAEDGE-STB を使用した例です。

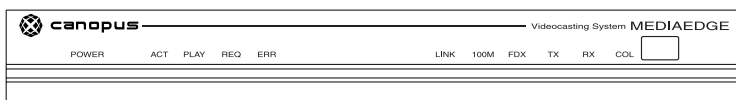


2

MEDIAEDGE-STBの各部の名称と機能

2-1 MEDIAEDGE-STBのフロントパネル

MEDIAEDGE-STBのフロントパネルには、以下のようなLEDおよびセンサーがあります。



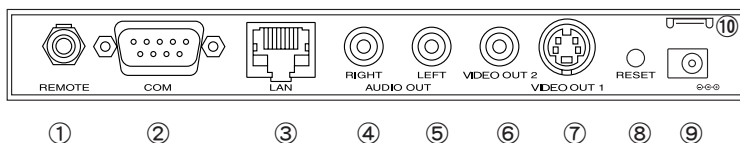
① ② ③ ④ ⑤

⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

- ① **POWER LED(赤)**
通電中に点灯します。
- ② **ACT LED(緑)**
MEDIAEDGEサーバーに接続している間点灯します。
- ③ **PLAY LED(緑)**
映像や音声を再生している間点灯します。
- ④ **REQ LED(橙)**
リモコン操作した時、およびHTTP/RTSP等のリクエストを発行した場合、点灯します。
- ⑤ **ERR LED(赤)**
内部処理でエラーが発生した場合、一時的に点灯します。
- ⑥ **LINK LED(緑)**
HUB等と正常に接続している場合に点灯します。
- ⑦ **100M LED(緑)**
接続速度を表示します。点灯時は100Mbps、消灯時は10Mbpsで接続されています。
- ⑧ **FDX LED(緑)**
デュプレクスモード表示します。点灯時はFull duplex (全二重)、消灯時はHalf duplex (半二重)となります。
- ⑨ **TX LED(橙)**
Ethernetへデータ送信しているとき点灯します。
- ⑩ **RX LED(橙)**
Ethernetからデータ受信しているとき点灯します (他局宛ても含む)。
- ⑪ **COL LED(赤)**
Ethernet上でコリジョン(衝突)が発生した場合に点灯します。
- ⑫ **リモコン受光部**
赤外線リモコンの受光部です。この部分を遮断したり、他の強い光を当てると受信感度が著しく低下しますのでご注意ください。

2-2 MEDIAEDGE-STB のリアパネル

MEDIAEDGE-STB のリアパネルには、以下のような接続端子およびボタンがあります。



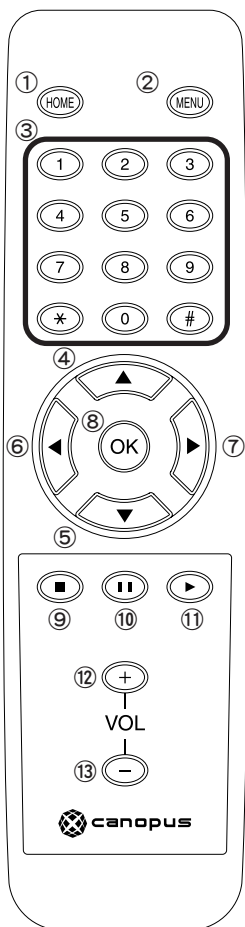
- ① **REMOTE**
リモート端子です。
- ② **COM**
シリアル接続端子 (COMポート) です。
- ③ **LAN**
Fast Ethernetケーブルを接続する端子です。
- ④ **AUDIO OUT-RIGHT**
オーディオ出力端子 (右側) です。
- ⑤ **AUDIO OUT-LEFT**
オーディオ出力端子 (左側) です。
- ⑥ **VIDEO OUT 2**
コンポジットビデオ信号出力端子です。
- ⑦ **VIDEO OUT 1**
Sビデオ信号出力端子です。
- ⑧ **RESET**
緊急時のリセットに使用します。通常は使用しないでください。
- ⑨ **電源端子**
付属のACアダプターを接続します。付属のACアダプター以外は絶対に使用しないでください。
- ⑩ **盗難防止フック**
ロックワイヤなどを使用して、盗難を防止するためのフックです。

注意！

静電気を帯びやすい環境では静電気等による誤作動を防止するため、⑩盗難防止フックを利用しアースをとることをお勧めします。

2-3 MEDIAEDGE-STBのリモコン

MEDIAEDGE-STBのリモコンには、以下のようなボタンおよび機能があります。



- ① HOMEボタン
メインのメニュー画面を表示します。
- ② MENUボタン
直前のメニュー画面を表示します。
- ③ 数字ボタン
あらかじめ割り当てられたコンテンツの呼び出し等に使用します。[*]ボタンは、再生映像を決められた時間だけ前に戻します(VOD時のみ)。[#]ボタンは、再生映像を決められた時間だけ先に進めます(VOD時のみ)。
- ④ ▲ボタン
メニューの移動(上へ移動)に使用します。
- ⑤ ▼ボタン
メニューの移動(下へ移動)に使用します。
- ⑥ ◀ボタン
メニューの移動(戻る)に使用します。
- ⑦ ▶ボタン
メニューの移動(進む)に使用します。
- ⑧ OKボタン
メニューの選択(決定)に使用します。
- ⑨ ■ボタン
コンテンツを停止します。
- ⑩ ||ボタン
コンテンツを一時停止します。
- ⑪ ▶ボタン
コンテンツを再生します。
- ⑫ +ボタン
音量を調整(大きくする)します。
- ⑬ -ボタン
音量を調整(小さくする)します。

インストール

3

この章では、アプリケーションのインストール方法について説明します。

- 準備する
- インストール
- DHCP を使用しない場合のインストールと動作確認
- MEDIAEDGE-PCT のインストール
- MEDIAEDGE-SWT のインストールと動作確認

1 準備する

1-1 この章での説明について

この章では、以下の設定を例に説明しています。初めて MEDIAEDGE をインストールする場合は、このままの設定で閉じた専用のネットワークを使用して動作を確認されることをお勧めします。

● MEDIAEDGE サーバーの機能

サーバーコンソール用WWWサーバー	(Windows 2000 Server 標準 IIS5.0)
クライアントコンテンツ用WWWサーバー	(Windows 2000 Server 標準 IIS5.0)
DNSサーバー	(Windows 2000 Server 標準)
DHCPサーバー	(Windows 2000 Server 標準)

● MEDIAEDGE のネットワーク

ネットワークアドレス	10.0.0.0
サブネットマスク	255.0.0.0
デフォルトゲートウェイ	なし

● MEDIAEDGE サーバーのネットワークの設定

IPアドレス	10.0.1.0
コンピュータ名	MEDIAEDGE-SVR
ホスト名	MEDIAEDGE-SVR
ドメイン名	localdomain
DNSアドレス	10.0.1.0
DHCPスコープ	10.0.16.0～10.0.16.255 / 255.0.0.0

※ MEDIAEDGE を専用のネットワークで使用する場合には、これらの設定のまま利用することができます。また、必要に応じて変更することもできます。この場合、システムをインテグレートする業者もしくはネットワーク管理者にご相談ください。

※ DHCPサーバーを使用しないで、固定したIPアドレスを各クライアントに手動で設定する場合には、「③ DHCPを使用しない場合のインストールと動作確認」(p.45)を参照してください。

1-2 OS インストール時の設定について

MEDIAEDGE-SVSは、Windows 2000 Server で動作します。Windows 2000インストール時は以下の設定を行ってください。

● **ソフトウェアの個人設定**

任意の名前・組織名を入力してください。

● **ライセンス**

[接続クライアント数]にチェックを付けてください。お持ちの Windows 2000 Server のアクセスライセンス数に準じた設定を行ってください。

● **コンピュータ名と Administrator のパスワード**

コンピュータ名・パスワードを入力してください。ここでは、コンピュータ名を MEDIAEDGE-SVR として説明しています。

● **Windows 2000 コンポーネント**

コンポーネントの一覧から [インターネットインフォメーションサービス (IIS)] を選択し、[詳細] をクリックしてください。サブコンポーネントの一覧から [SMTP Service] のチェックを外し、[OK] をクリックしてください。

続いて [ネットワークサービス] を選択し「詳細」をクリックします。サブコンポーネントの一覧から [ドメインネームシステム (DNS)] と [動的ホスト構成プロトコル (DHCP)] にチェックを付け、[OK] をクリックして元の画面に戻ってください。

● **ワークグループまたはドメイン名**

[このコンピュータはネットワーク上にないが、ドメインのないネットワークに接続している] を選択します。画面下にあるテキストボックスには、任意の名前を入力してください。

● **再起動後について**

Windows 2000 Server の構成を行うダイアログが表示されますが、[後で構成] にチェックを付け、[次へ] をクリックします。[起動時に表示] のチェックを外し、クローズボックスをクリックしてダイアログを閉じてください。

● **デバイスのインストール**

チップセット、グラフィックボードやイーサネット LAN アダプタ等のドライバをインストールします。

また、MEDIAEDGE は、ハードディスクドライブからの高速なデータ転送が必要となります。[デバイスマネージャー] で転送方式が [DMA] の設定になっていることを確認してください ([デバイスマネージャー] は [マイコンピュータ] アイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択して [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャー] をクリックすることで確認できます)。転送方式が [PIO] になっている場合は、マザーボード等に付属されている ATAPI ドライバ等がインストールされているか確認してください。

■ IPアドレスの設定

- 1 デスクトップの[マイネットワーク]のアイコン上で右クリックし、[プロパティ]を選択してください。

- 2 [ローカルエリア接続]のアイコン上で右クリックし、[プロパティ]をクリックしてください。

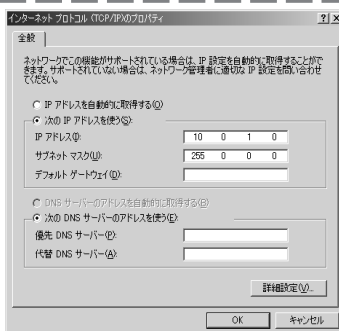


- 3 接続方法の箇所にお使いのイーサネット LAN アダプタが表示されていることを確認してください。確認後、[インターネットプロトコル (TCP/IP)]を選択し、[プロパティ]をクリックしてください。



- 4 [次のIPアドレスを使う]を選択し、IPアドレスに[10. 0. 1. 0]、サブネットマスクに[255. 0. 0. 0]を入力してください。

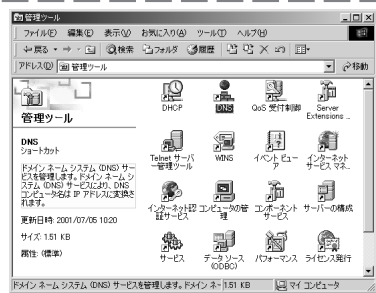
入力後、[OK]をクリックします。手順3の画面に戻りますので、[OK]をクリックしてください。



■ DNS サーバーの設定

1 [スタート]メニューから[設定]→[コントロールパネル]と進んで、[管理ツール]をダブルクリックしてください。

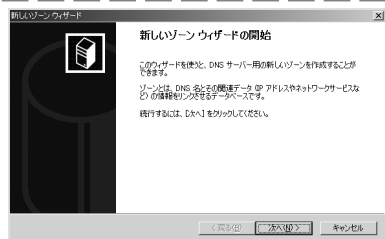
2 [DNS]アイコンをダブルクリックしてください。



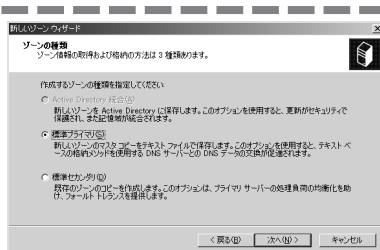
3 左側のフレームにある[MEDIAEDGE-SVR]→[前方参照ゾーン]と進んで、画面上で右クリックし、メニューから[新しいゾーン]を選択します。



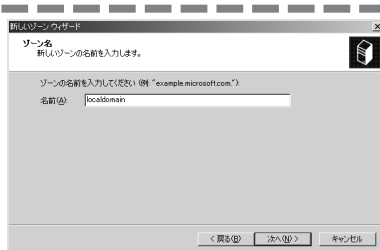
4 [次へ]をクリックしてください。



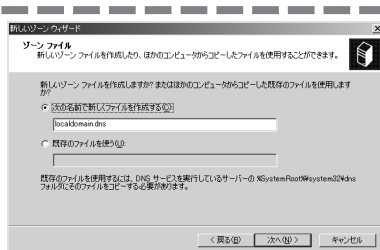
- 5 [標準プライマリ]を選択し、[次へ]をクリックしてください。



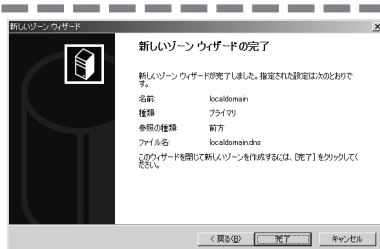
- 6 ネットワークのドメイン名を入力してください。
ここでは例として、[localdomain]と入力します。



- 7 [次の名前でも新しくファイルを作成する]を選択し、[次へ]をクリックしてください。



- 8 [完了]をクリックしてください。



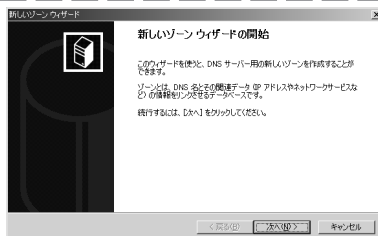
9

左側のフレームにある [MEDIAEDGE-SVR]→逆引き参照ゾーン]と進んで、画面上で右クリックし、メニューから [新しいゾーン] を選択します。



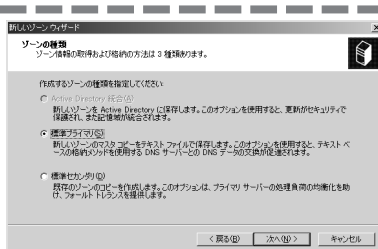
10

[次へ] をクリックしてください。



11

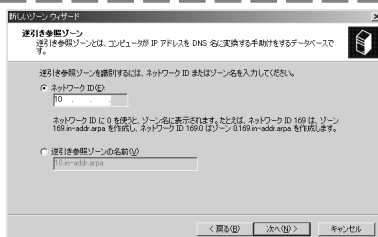
[標準プライマリ] を選択し、[次へ] をクリックしてください。



12

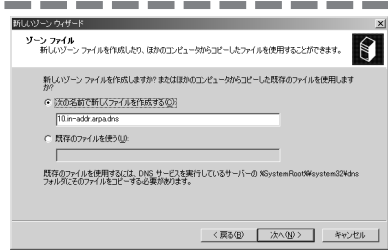
[ネットワーク ID] を選択し、テキストボックスの先頭だけに、[10] を入力してください。

入力後、[次へ] をクリックしてください。



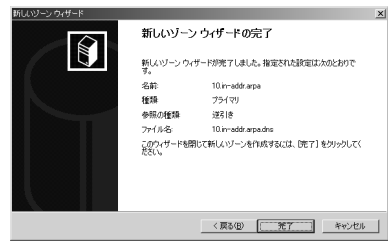
13

[次の名前で新しくファイルを作成する]を選択し、[次へ]をクリックしてください。



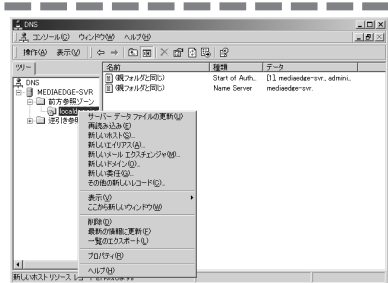
14

[完了]をクリックしてください。



15

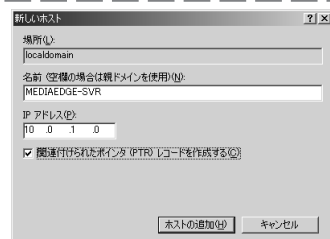
左側のフレームにある [MEDIAEDGE-SVR] → 前方参照ゾーン → [localdomain] と進んで、画面上で右クリックし、メニューから [新しいホスト] を選択します。



16

[名前]に [MEDIAEDGE-SVR]、[IP アドレス]に [10.0.1.0] を入力し、[関連付けられたポインタ (PTR) レコードを作成する] にチェックを付けてください。

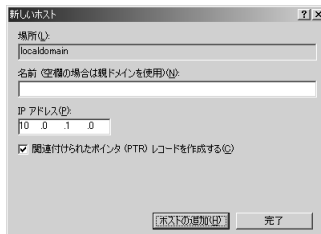
[ホストの追加] をクリックしてください。



17 [OK]をクリックしてください。



18 [完了]をクリックしてください。



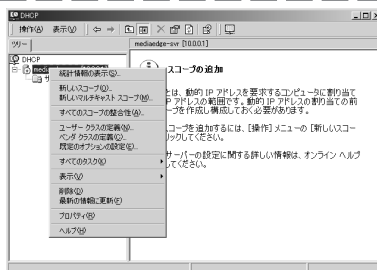
■ DHCP サーバーの設定

1 [スタート]メニューから[設定]→[コントロールパネル]と進んで、[管理ツール]をダブルクリックしてください。

2 [DHCP]アイコンをダブルクリックしてください。



3 左側のフレームにある [MEDIAEDGE-SVR] の画面上で右クリックし、メニューから [新しいスコープ] を選択してください。



4

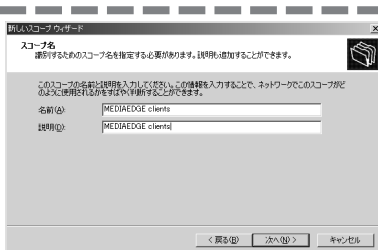
[次へ]をクリックしてください。



5

名前、説明を入力してください。

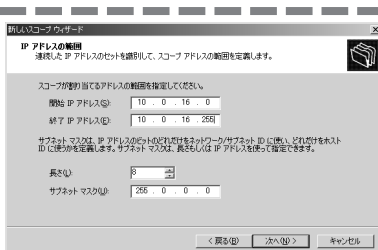
ここでは、例としていずれも [MEDIAEDGE clients] と入力しています。



6

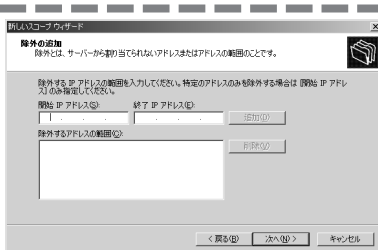
[開始アドレス]に[10.0.16.0]、[終了アドレス]に[10.0.16.255]を入力してください。

[長さ]が[8]、[サブネット マスク]が[255.0.0.0]となっていることを確認し、[次へ]をクリックしてください。



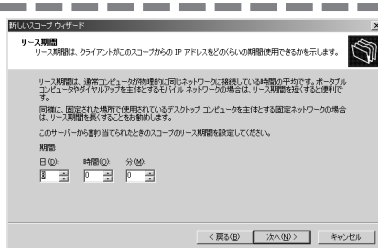
7

何も入力せず、[次へ]をクリックしてください。



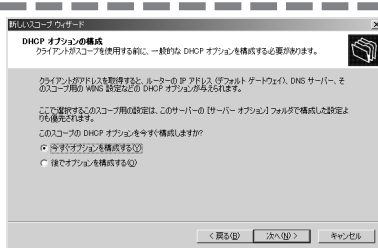
8

[期間]の[日]が[8]になっていることを確認し、[次へ]をクリックしてください。



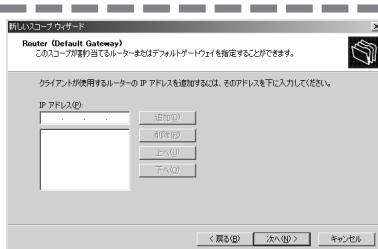
9

[今すぐオプションを構成する]を選択し、[次へ]をクリックしてください。



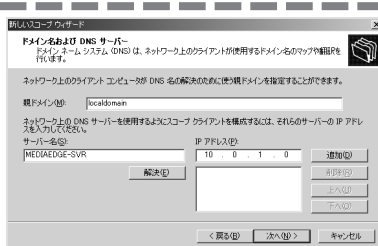
10

何も入力せず、[次へ]をクリックしてください。

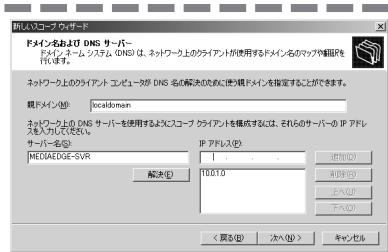


11

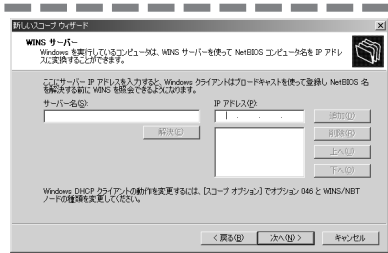
[親ドメイン]に[localdomain]、[サーバー名]に[MEDIAEDGE-SVR]、[IP アドレス]に[10. 0. 1. 0]を入力してください。



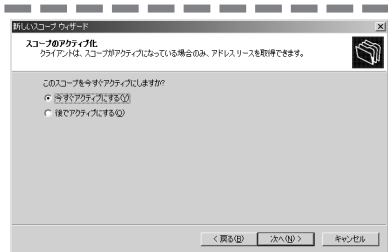
- 12 [追加]をクリックし、その後[次へ]をクリックしてください。



- 13 何も入力せず、[次へ]をクリックしてください。



- 14 [今すぐアクティブにする]を選択し、[次へ]をクリックしてください。



- 15 [完了]をクリックしてください。



1-3 DBMS のインストールについて

MEDIAEDGE システムの動作にはDBMSが必要です。下記のいずれかが必要です。

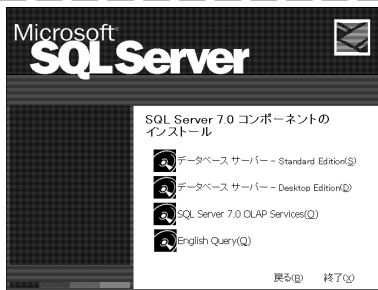
- Microsoft 社製 SQL Server 7.0 別途購入が必要です。
- Microsoft 社製 SQL Server 2000 別途購入が必要です。
- Microsoft MSDE Microsoft社より提供される再配布可能なデータベースエンジンです。『MEDIAEDGE-SVS Application CD』に収録されており、MEDIAEDGE-SVSインストール時のデータベース選択画面において[MSDE]を選択することでインストールされます。

■ SQL Server 7.0 のインストール

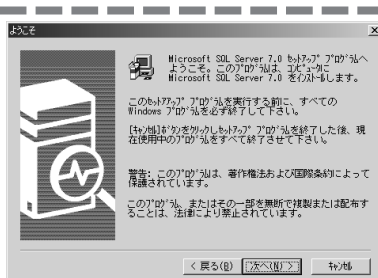
- 1 [SQL Server 7.0 コンポーネントのインストール]をクリックしてください。



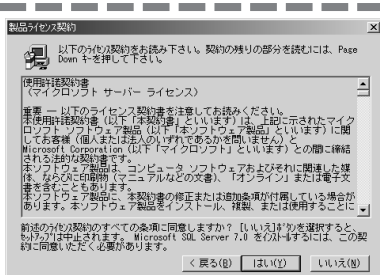
- 2 [データベースサーバー Standard Edition]をクリックしてください。



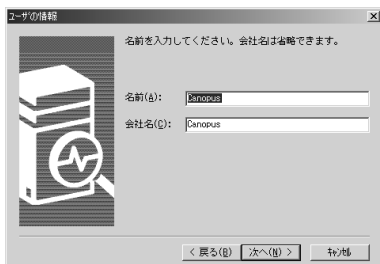
- 3 [次へ]をクリックしてください。



- 4 使用許諾契約書の内容を確認し、[はい]をクリックしてください。

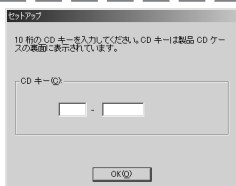


- 5 名前、会社名を入力し、[次へ]をクリックしてください。

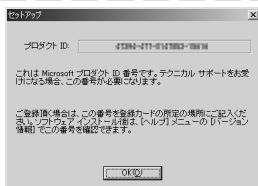


- 6 CDキーを入力し、[OK]をクリックしてください。

製品のCDケースに記載されている10桁のCDキーを入力してください。

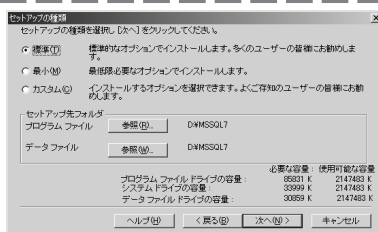


- 7 内容を確認し、[OK]をクリックしてください。



8

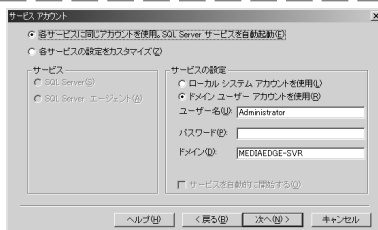
[標準]を選択し、[次へ]をクリックしてください。



9

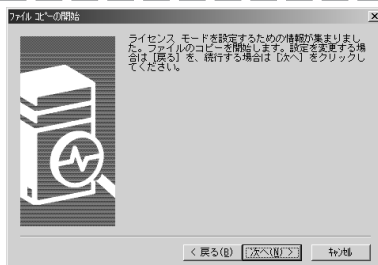
[各サービスに同じアカウントを使用。SQL Server サービスを自動起動]を選択し、サービス設定は、[ドメインユーザーアカウントを使用]を選択してパスワード(任意)を設定してください。

設定後、[次へ]をクリックします。



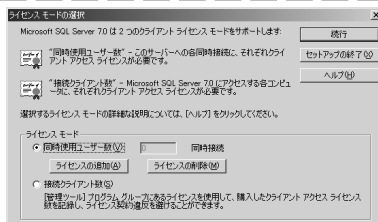
10

[次へ]をクリックしてください。



11

[同時使用ユーザー数]を選択し、[ライセンスの追加]をクリックしてください。

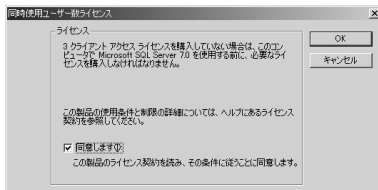


12 SQL Server のライセンス数にしたがって[数量]を設定し、[OK]をクリックしてください。

3 ライセンス以上必要です。

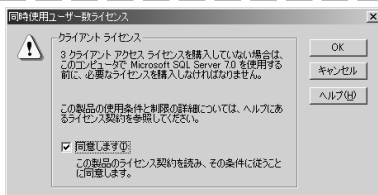


13 [同意します]にチェックを付け、[OK]をクリックしてください。



14 手順 11 の画面に戻りますので[続行]をクリックしてください。

[同意します]にチェックを付け、[OK]をクリックしてください。



15 [完了]をクリックしてください。



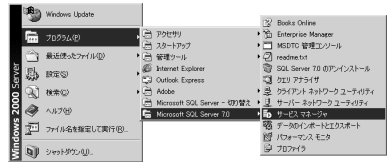
16 [終了]をクリックしてください。

以上で SQL Server 7.0 のインストールは完了です。



■ SQL Server 7.0 のインストール後の確認

- 1 [スタート]メニューから[プログラム]→[Microsoft SQL Server 7.0]→[サービスマネージャ]を選択してください。



- 2 [開始 / 再開] をクリックしてください。



- 3 コンピュータのアイコンに開始のマークがついたことを確認し、画面を閉じてください。



■ MSDE および SQL Server 7.0 の [SA] のパスワード設定について

MSDE および SQL Server 7.0 をインストールした直後は、管理ユーザーである [SA] のパスワードが設定されていません。ユーザー [SA] は MSDE および SQL Server に対してすべての操作を実行できるため、パスワードを未設定のまま放置するのは、セキュリティ上よくありません。このため、以下の手順に従ってユーザー [SA] のパスワードを設定してください。

1. コマンドプロンプトを起動します。
 2. [osql -U sa -P] と入力し、「Enter」キーを押します。
[1>] と表示されカーソルが次の行に移動していれば、正しくログインできています。
 3. 設定するパスワードを「newpass」とする場合、[execute sp_password null, 'newpass', 'sa'] と入力し、「Enter」キーを押します。
 4. [go] と入力し、「Enter」キーを押します。
 5. 「パスワードは変更されました。」と表示されればパスワードの設定は完了です。
[exit] と入力し、「Enter」キーを押してログアウトします。
- ※1 手順2でログインに失敗する場合には、サービスが正しく起動していない可能性があります。「管理ツール」から「サービス」を起動して一覧から「MSSQLServer」の状態が「開始」になっていることを確認してください。状態が空白になっている場合には、右クリックしてメニューから「開始」を選択してください。
- ※2 SQL Server 2000 を使用している場合には、SQL Server 2000 のインストール中に [SA] のパスワードを設定する画面がありますので、インストール時に設定するようにしてください。

■ SQL Server 2000(Standard Edition)のインストール

- 1 [SQL Server 2000 コンポーネント]
をクリックしてください。



- 2 [データベース サーバーのイン
ストール]をクリックしてください。



- 3 [次へ]をクリックしてください。



- 4 [ローカルコンピュータ]を選択し、
[次へ]をクリックしてください。



5

[SQL Server の新規インスタンスの作成またはクライアント ツールのインストール]を選択し、[次へ]をクリックしてください。



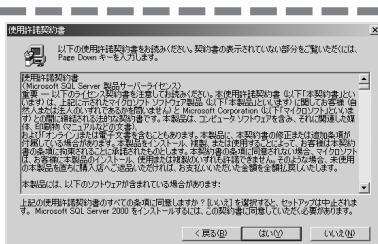
6

名前、会社名を入力し、[次へ]をクリックしてください。



7

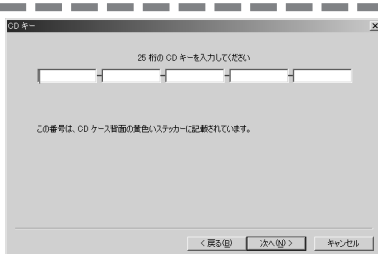
使用許諾契約書の内容を確認し、[はい]をクリックしてください。



8

CD キーを入力し、[OK]をクリックしてください。

製品の CD ケースに記載されている 25 桁の CD キーを入力してください。



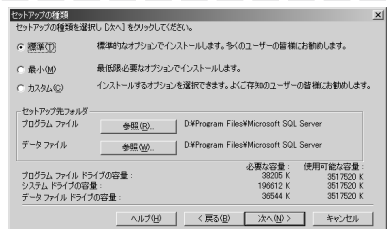
- 9 [サーバーとクライアント ツール] を選択し、[次へ]をクリックしてください。



- 10 [既定インストール]にチェックを付け、[次へ]をクリックしてください。

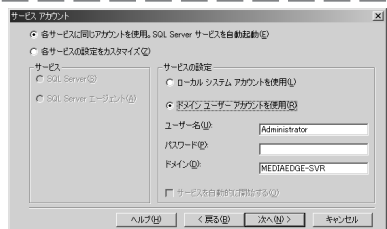


- 11 [標準]を選択し、[次へ]をクリックしてください。



- 12 [各サービスに同じアカウントを使用。SQL Server サービスを自動起動]を選択し、サービス設定は、[ドメインユーザーアカウントを使用]を選択してパスワード(任意)を設定してください。

設定後、[次へ]をクリックしてください。

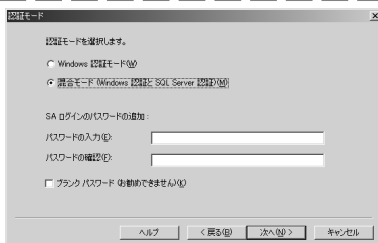


13

[混合モード (Windows 認証と SQL Server 認証)] を選択し、パスワード (任意) を設定してください。

設定後、[次へ] をクリックしてください。

※ SA はデータベース管理者のアカウントですので、パスワードは絶対に忘れないようご注意ください。



14

[次へ] をクリックしてください。

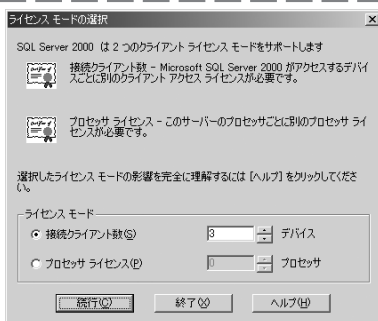


15

ライセンスモードにあわせて設定を行い、[OK] をクリックしてください。

[接続クライアント数] 選択し、SQL Server のライセンス数にしたがって [デバイス数] を設定してください。設定後、[OK] をクリックしてください。

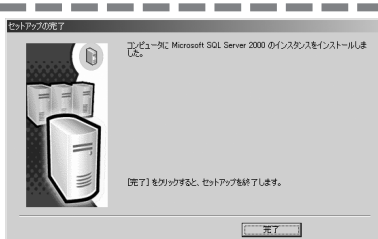
※ 3 ライセンス以上が必要です。



16

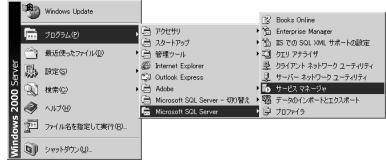
[完了] をクリックしてください。

以上で SQL Server 2000 のインストールは完了です。

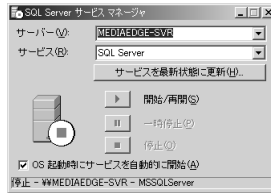


■ SQL Server 2000(Standard Edition)のインストール後の確認

- 1 [スタート]メニューから[プログラム]→[Microsoft SQL Server]→[サービスマネージャ]を選択してください。



- 2 [開始 / 再開] をクリックしてください。



- 3 コンピュータのアイコンに開始のマークがついたことを確認し、画面を閉じてください。



2 インストール

2-1 MEDIAEDGE-SVS のインストール

サーバー側に MEDIAEDGE-SVS のインストールを行います。インストール作業を開始する前に、現在起動しているすべてのアプリケーションや常駐ソフトウェアを終了してください。また、システム設定の変更を行える資格を持つユーザー ID (Administrator 等) でログオンしてください。

MEDIAEDGE-SVS のインストール時に、付属の dongle の装着を促すメッセージが表示されますので、この時点でお使いのコンピュータの USB 端子に dongle を装着してください (コンピュータの USB の設定は有効にしておいてください)。また、インストール後に MEDIAEDGE-SVS を使用する場合は、常に dongle を装着した状態でご使用ください。

注意!

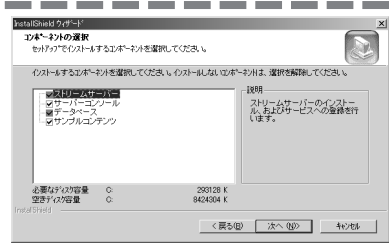
dongle を最初から装着した状態でインストールを行うと、dongle を認識しません。dongle のドライバインストール時に、装着を促すメッセージが表示されてから必ず装着を行ってください。

- 1 『MEDIAEDGE-SVS Application CD』を CD-ROM ドライブにセットしてください。
- 2 CD-ROM が自動起動し、MEDIAEDGE-SVS のセットアッププログラムが起動します。
自動起動しない場合は、[スタート]メニューから[プログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]と進んで、『エクスプローラ』を起動します。次に、CD-ROM を挿入したドライブを選択して開きます。[SVS]フォルダを開いて、[SETUP.EXE]をダブルクリックしてください。
- 3 [次へ]をクリックしてください。



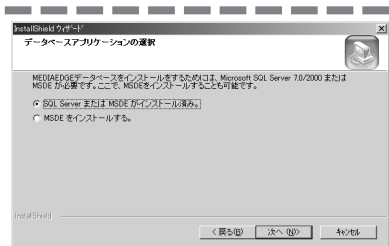
4 インストールするコンポーネントを選択し、[次へ]をクリックしてください。

コンポーネントを複数の PC に分けてインストールする場合以外は、すべてのチェックマークを付けた状態のまま [次へ] をクリックしてください。

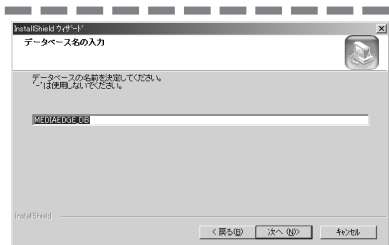


5 お使いのデータベースアプリケーションを選択し[次へ]をクリックしてください。

SQL Server をインストールしていない場合は、[MSDE をインストールする] を選択してください。[次へ] をクリックすると、MSDE をインストールします。インストール完了後、手順 6 の画面を表示します。



6 データベースの名前を入力し、[次へ]をクリックしてください。



7 コンソールコンテンツをセットアップするディレクトリを設定し、[次へ]をクリックしてください。



- 8 コンテンツの放送規格を選択し、[次へ]をクリックしてください。

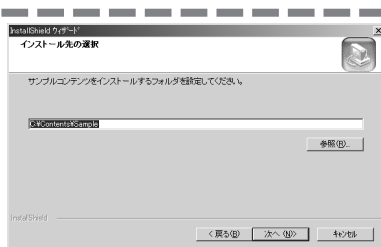


- 9 MPEG ファイルを登録するフォルダを設定し、[次へ]をクリックしてください。

※ ここで指定するフォルダにMPEGファイルを格納します。フォルダは後で変更できます。



- 10 サンプルコンテンツをセットアップするフォルダを設定し、[次へ]をクリックしてください。

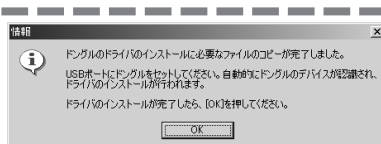


- 11 [ドングルドライバのインストール]にチェックを付け、[次へ]をクリックしてください。



- 12 付属のドングルをUSB端子に装着してください。

→ ドングルを装着するとプラグアンドプレイにより自動的にドライバをインストールします。



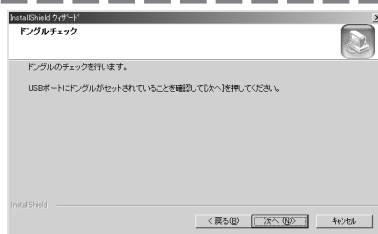
☐ ポイント

ドライバがインストールされると、 dongle の LED が点灯します。過去に dongle のドライバがインストールされていた場合などは LED が点灯しない場合があります。その場合はキャンセルボタンをクリックし、インストールを中止してください。その後、dongle を USB にセットしたままの状態、手順 1 から再度実行してください。

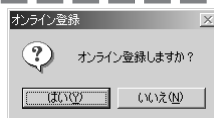
13 ドライバのインストール完了後、[OK]をクリックしてください。

→ dongle は装着したまま以降の手順を続行してください。

14 [次へ]をクリックしてください。



15 オンライン登録を行う場合は、[はい]をクリックしてください。



16 リリースノートを見る場合は、[はい]をクリックしてください。

※ リリースノートには、マニュアルに記載されていない事項が記載されていますので、インストール直後には必ずお読みください。



17 [完了]をクリックしてください。

以上で MEDIAEDGE-SVS のインストールは完了です。

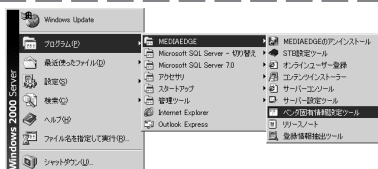


2-2 DHCP の設定

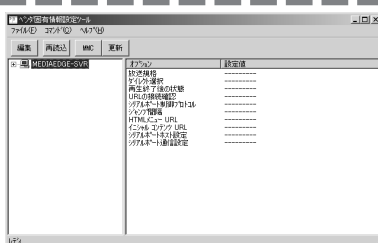
MEDIAEDGE-STBを接続する場合は、DHCPサーバーにベンダ固有情報の設定が必要になります。この設定には、MEDIAEDGE-SVSアプリケーションの「ベンダ固有情報設定ツール」を使用します。

■ ベンダ固有情報設定ツールの起動

- 1 [スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]→[ベンダ固有情報設定ツール]を選択してください。

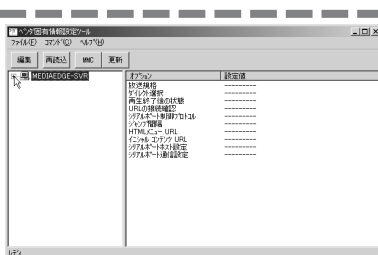


- 2 ベンダ固有情報設定ツールが起動します。



■ DHCP 設定の手順

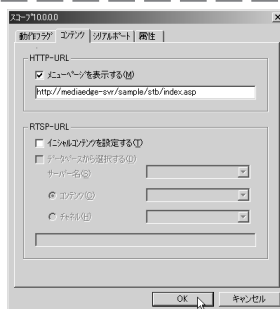
- 1 左側のフレームから[MEDIAEDGE-SVR]の左側にある[+]ボタンをクリックします。



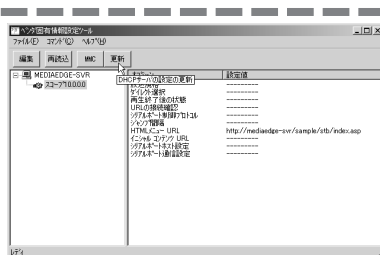
- 2 [スコープ 10.0.0.0]を選択し、右側のフレームから[HTMLメニュー URL]をダブルクリックします。



- 3 [メニューページを表示する]にチェックを付け、その下のテキストボックスに[http://mediaedge-svr/sample/stb/index.asp]と入力します。
[OK]をクリックします。



- 4 [更新]ボタンをクリックします。
設定を反映するためにDHCPサーバの再起動を行います。



- [OK]をクリックするとDHCPサーバを再起動します。

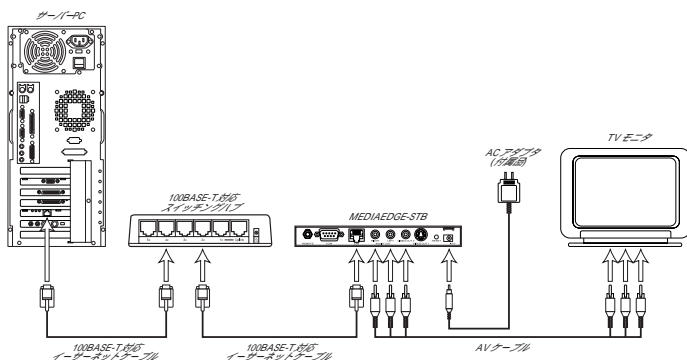


- 5 [ファイル]メニューから[アプリケーションの終了]を選択します。



2-3 MEDIAEDGE-STB を接続する

次項の図を参照に、MEDIAEDGE-STB をサーバー PC に接続してください。その際、以下の点にご注意ください。



● Ethernet 関連の接続を確認する

サーバーPC、Fast Ethernet スイッチングハブおよびMEDIAEDGE-STBが接続されていることを確認します。Fast Ethernet ケーブルで該当する接続端子に確実接続されているか確認してください。

● テレビモニタとの接続を確認する

MEDIAEDGE-STBとテレビモニタが接続されていることを確認します。MEDIAEDGE-STBのVIDEO OUT およびAUDIO OUT が入力機器側の該当する端子へ接続されているか確認してください。

● MEDIAEDGE-STBのACアダプタの接続を確認する

MEDIAEDGE-STB付属のACアダプタが本体背面の電源端子に奥までしっかり差し込まれていることを確認します。

● ドングルの接続を確認する

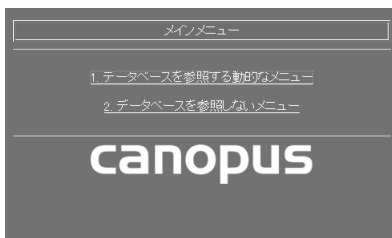
パソコンのUSB端子にdongleが装着されていることを確認します。dongleの先端付近の赤色LEDが点灯していることを確認してください。点灯していない場合は、お使いのコンピュータのUSB端子が有効になっているかどうかを確認してください。

● ストリームサーバーの起動を確認する

[スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]→[サーバー設定ツール]と進んで、『サーバー設定ツール』を起動します。最下行の「サービスの状態」の表示が「開始」となっていることを確認してください。

■ メニュー映像の確認

MEDIAEDGE-SVSがサーバーコンピュータに正常にインストールされサーバーの構築が完了し、機器が正しくセットアップされていれば、MEDIAEDGE-STBの電源を投入して数秒後に、メニュー映像が表示されます。



何も表示されない場合

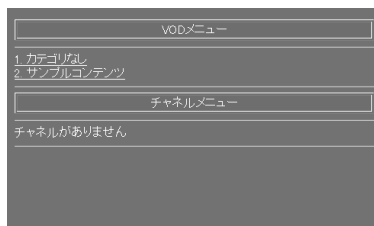
- ① 機器の接続を確認します。Fast EthernetスイッチングハブのUplink端子には、MEDIAEDGEサーバーやMEDIAEDGE-STBに接続されているFast Ethernetケーブルを接続しないでください。
- ② MEDIAEDGE-STBの本体背面にあるリセットボタンを押してください。
- ③ ベンダー固有情報の記述に誤りがないかどうかを確認してください。

■ 映像コンテンツの選択と再生

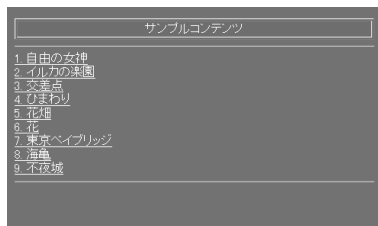
リモコンを使用し、メニューの中から映像コンテンツを選択してください。選択した映像コンテンツが再生されます。



① リモコンの数字ボタン[1]を押します。



② リモコンの数字ボタン[2]を押します。



③ リモコンの数字ボタン1-9の何れかを押します。

リモコンの[HOME]ボタンを押すと①の画面を表示します。
リモコンの[▲]ボタンと[▼]ボタンを使用し、カーソルを移動させ[OK]ボタンを押すことでメニューの選択は可能です。

■ MEDIAEDGE-STB のファームウェアのバージョン確認

第6章の「■ MEDIAEDGE-STB のファームウェアのアップデート」(p. 158)の項を御覧いただき、ファームウェアのバージョンを確認して必要な場合はアップデートを行ってください。

■ MEDIAEDGE-STB の内部設定値の初期化

MEDIAEDGE-STB は、内部の不揮発性メモリに動作設定を記憶する機能があります。DHCP を使用する場合の動作設定はDHCP サーバーですべて行いますので、MEDIAEDGE-STB に設定する必要はありません。

念のために、第5章の「5. STB 設定ツール」の項を参照し、MEDIAEDGE-STB の内部設定の初期化を行ってください。

3

DHCP を使用しない場合のインストールと動作確認

3-1 DHCP を使用しない場合の設定方法の概要

DHCP サーバーを使用しないで、固定した IP アドレスを、MEDIAEDGE-STB を含む各クライアントに個別に設定して、システムを構成することもできます。

その場合のインストール方法について、説明します。

この場合でも、MEDIAEDGE-STB へ設定を行う際には、DHCP を使って STB をネットワークに接続する必要があります。そのために、次の 2 つの方法が考えられます。

- (1) サーバー PC に一時的に DHCP サーバーを導入して STB を仮接続し、設定を行った後に、DHCP サーバーを無効にして MEDIAEDGE-STB を再起動する。
- (2) DHCP サーバーを導入した PC (MEDIAEDGE-SVS がインストールされている必要はありません) を別途用意して、それに STB を仮接続し、設定を行った後の STB を本来のネットワークに接続する。

なお、DHCP サーバーがない場合は、MEDIAEDGE-STB に DNS のアドレスを通知することができません。そのため、STB は DNS を使用する事ができません。

3-2 OS のインストールと設定

「1-2 OSインストール時の設定について」(P. 14)と同様に設定を行いますが、次の点が異なります。

- Windows2000 コンポーネントの項目で、[ドメインネームシステム(DNS)]と[動的ホスト構成プロトコル(DHCP)]にチェックを付ける必要はありません。ただし、STB 設定のために、一時的にサーバー PC に DHCP サーバーを導入する場合は、[動的ホスト構成プロトコル(DHCP)]にチェックを付けてください。
- IP アドレスの設定の項目は、同様に設定して下さい。
- DNS サーバーの設定の項目は、実行する必要がありません。
- DHCP サーバーの設定の項目は、一時的にサーバー PC に DHCP サーバーを導入する場合はサーバー PC に対して同様に行ってください。DHCP サーバーを導入した PC を別途用意する場合は、その PC に対して同様に行ってください。
ただし、11 項の「ドメイン名および DNS サーバー」の設定は必要ありません。

3-3 DBMS のインストール

「1-3 DBMS のインストールについて」(P. 25)と同様にインストールしてください。

3-4 MEDIAEDGE-SVS のインストール

「2-1 MEDIAEDGE-SVS のインストール」(P. 36)と同様にインストールしてください。

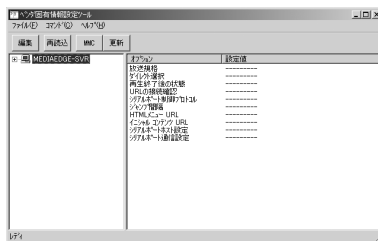
3-5 ベンダ固有情報設定ツールの起動

1

(a)

一時的にサーバー PC に DHCP サーバーを導入した場合は、次の手順で「ベンダ固有情報設定ツール」を起動してください。[スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]→[ベンダ固有情報設定ツール]を選択してください。

→ [ベンダ固有情報設定ツール]が起動します。



(b)

DHCP サーバーを導入した PC を別途用意する場合は、次の手順で「ベンダ固有情報設定ツール」を起動してください。

別途用意する DHCP サーバーを導入した PC に、「MEDIAEDGE-SVS Application CD Release 1.30」の CD を挿入してください。

インストーラが起動した場合は、キャンセルして下さい。

CD-ROM ドライブの、
%STB%\tools\%DHCPEdit.exe をダブルクリックします。



□ ヒント

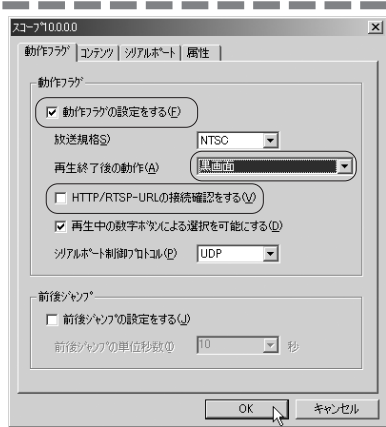
DHCP サーバーを導入した PC を別途用意する場合、その PC に MEDIAEDGE-SVS Ver 1.30 がインストールされている場合には (a) の方法でも起動することができます。

3-6 DHCP ベンダ固有情報の仮設定

- 1 左側のツリーの「+」マークをクリックしてツリーを展開し、スコープ 10.0.0.0 をダブルクリックしてください。



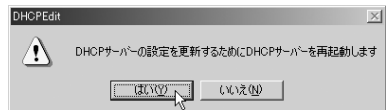
- 2 「動作フラグの設定をする」にチェックを付け、「HTTP/RTSP-URLの接続確認をする」のチェックを外し、「再生終了後の動作」で「黒画面」を選択して[OK]をクリックしてください。



- 3 [更新] ボタンをクリックしてください。



- 4 [はい] をクリックしてください。
→ DHCP サーバーを再起動します。



3-7 MEDIAEDGE-STB を仮接続し、IP アドレスを調べる

「2-3 MEDIAEDGE-STB を接続する」と同様に、MEDIAEDGE-STB を接続してください。しばらくすると、MEDIAEDGE-STB 前面のACT LEDが点灯します（TVモニターには映像は出ません）。ERR LEDが点灯していないことを確認してください。

これにより、MEDIAEDGE-STB が仮接続され、ネットワーク経由でSTBが設定できるようになります。

ACT LEDが点灯しない場合は、これまでの設定を見直し、MEDIAEDGE-STBの背面のリセットボタンを押してください。

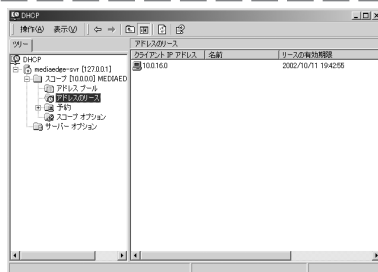
- 1 [スタート]メニューから[プログラム]→[管理ツール]→[DHCP]を選択してください。

→ [DHCP]ウィンドウが起動します。

- 2 STBにDHCPから割り当てられたIPアドレスを調べておきます。左側のツリーの中から、「アドレスのリース」をクリックしてください。

→ 右側の表示の「クライアントIPアドレス」の値が、DHCPから割り当てられたIPアドレスです。

→ これは、最終的に使用されるアドレスとは異なります。この図では、10.0.16.0が割り当てられています。



3-8 MEDIAEDGE-STB を設定して本接続する

1

(a)

一時的にサーバーPCにDHCPサーバーを導入した場合は、次の手順で「STB設定ツール」を起動してください。[スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]→[STB設定ツール]を選択してください。

(b)

DHCPサーバーを導入したPCを別途用意する場合は、次の手順で「STB設定ツール」を起動してください。



別途用意するDHCPサーバーを導入したPCに、「MEDIAEDGE-SVS Application CD Release 1.30」のCDを挿入してください。

インストーラが起動した場合は、キャンセルして下さい。

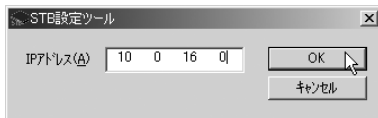
CD-ROMドライブの、
¥STB¥tools¥StbConfig.exeをダブルクリックします。

ヒント

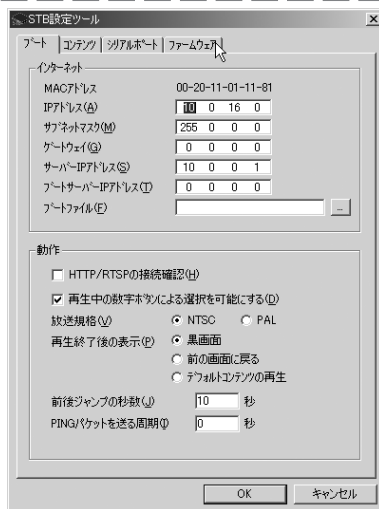
DHCPサーバーを導入したPCを別途用意する場合、そのPCにMEDIAEDGE-SVS Ver 1.30がインストールされている場合には(a)の方法でも起動することができます。

2

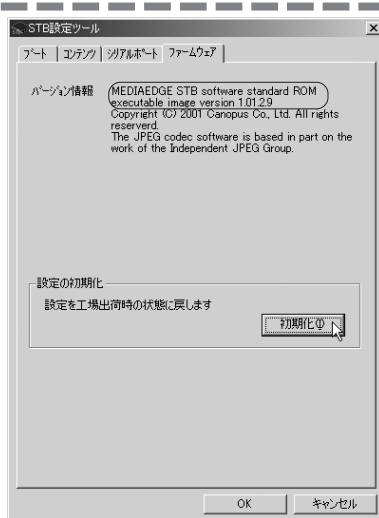
「3-7」で割り当てられたIPアドレスを入力し、[OK]をクリックしてください。



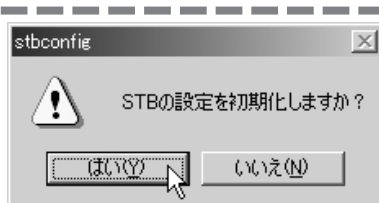
- 3 「ファームウェア」タブをクリックしてください。



- 4 ファームウェアのバージョン番号を確認します。「MEDIAEDGE STB software standard ROM executable image version 1.01.2.9」と表示されていることを確認してください。これ以前のバージョンであった場合には、MEDIAEDGE-STB ファームウェアのアップデートを行ってください。設定の初期化を行うため、[初期化] ボタンをクリックしてください。



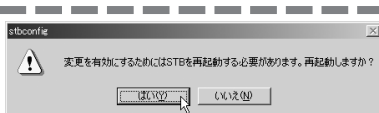
- 5 [はい]をクリックしてダイアログを閉じ、[OK]をクリックしてください。



6

[はい]をクリックすると、STBが再起動します。

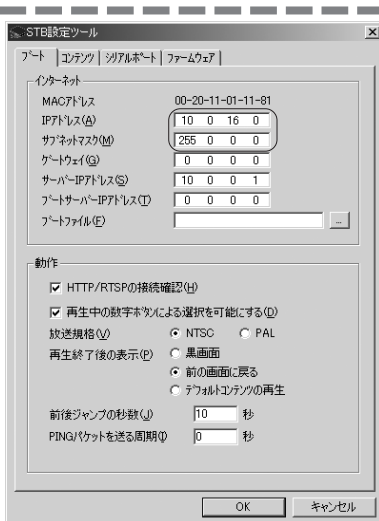
→ MEDIAEDGE-STB 前面の ACT LED が点灯するまで待って、もう一度、「STB 設定ツール」を起動してください。



7

IPアドレスの欄に、このSTBに割り当てる適切なIPアドレスを入力します（ここでは、10.0.16.100としました）。必要な場合は、サブネットマスクも変更します。

※ DHCP サーバーがない場合には、STBはこのアドレスを自分のアドレスとして使用します。



8

「コンテンツ」タブを選び、「HTTP-URL」の欄に、[http://10.0.1.0/sample/stb/index.asp]と入力し、[OK]をクリックしてください。

DNSを使用しないので、サーバーの部分には、サーバー名ではなく、サーバーのIPアドレスを使用します。

※ これが、MEDIAEDGE-STB が最初に開くメニューページのURLになります。

→ MEDIAEDGE-STB に自分のIPアドレスと最初に開くメニューページのURLを設定できたので、DHCPサーバーがない環境で使用できます。



9

一時的にサーバー PC に DHCP サーバーを導入した場合は、[はい]を押す前に、DHCP サーバーを停止させてください。それから [はい] を押すと、MEDIAEDGE-STB が新しい IP アドレスを使用して起動します。

- ※ DHCP サーバーを導入した PC を別途用意した場合は、[いいえ] をクリックして STB 設定ツールを終了し、MEDIAEDGE-STB を本来のネットワークに接続しなおしてください。



3-9 サーバーの IP アドレスを指定する

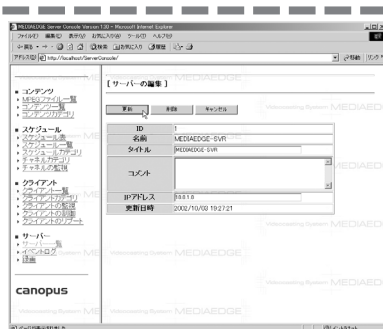
- 1 サーバーコンソールの[サーバー一覧]をクリックしてください。



- 2 サーバー名が表示されますので、サーバー名の左端の数字(ID)をクリックしてください。



- 3 サーバーの編集画面が開きますので、[IPアドレス]欄にサーバーのIPアドレスを入力します(ここでは10.0.1.0と入力します)。
[更新]ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



3-10 サンプルメニューを編集する

サンプルメニューのうち、「データベースを参照しないメニュー」は、ページ内のリンク先のURL内にコンピュータ名が使用されていますので、IPアドレス表記に書き直す必要があります。

サンプルメニューは、デフォルトでは

c:\mediaedge¥Sample¥STB¥static¥

にインストールされています。この中の「menu_ja.html」を編集します。メモ帳などで開いてください。

例えば、次のような記述になっています。

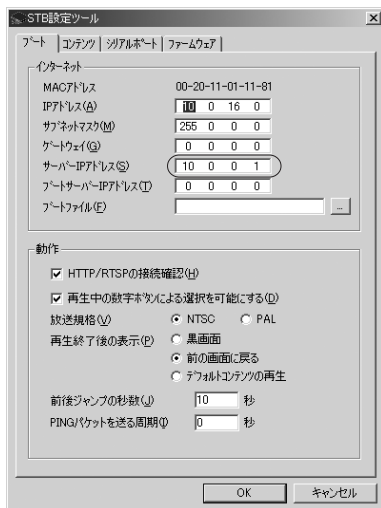
```
<a href=" r t s p : // M E D I A E D G E - S V R / C o n t e n t 0 1 " > 1 . 自由の女神 </a><br>
```

これを、次のように IP アドレスを使用した表記に書き直すことにより、再生できるようになります。

```
<a href=" r t s p : // 1 0 . 0 . 1 . 0 / C o n t e n t 0 1 " > 1 . 自由の女神 </a><br>
```

3-11 サーバーアドレスの MEDIAEDGE-STB 設定

サーバーが1台だけの場合には、3-9、3-10の手順を行う代わりにSTB設定ツールの「サーバー IP アドレス」に、サーバーPCのアドレスを設定しておくことで、表示できるようになります。MEDIAEDGE-STBは、名前の解決ができない場合に、URL内のサーバー名を強制的に「サーバー IP アドレス」の設定値に置き換えます。



3-12 動作を確認する

MEDIAEDGE-STBを接続すると、「2-3 MEDIAEDGE-STBを接続する」と同様のメニュー画面がテレビモニタに表示されます。リモコンでサンプルコンテンツを選択して再生し、動作を確認してください。

4

MEDIAEDGE-PCT のインストールと動作確認

4-1 サーバーのセットアップ

MEDIAEDGE-PCT をクライアントとして使用する場合で、MEDIAEDGE-STB と混在する場合は、MEDIAEDGE-STB を使用する場合のサーバー設定に準じて、サーバーPC をセットアップしてください。

MEDIAEDGE-PCT だけをクライアントとして使用する場合は、次の手順でサーバーPC をセットアップしてください。

- OS と MEDIAEDGE-SVS のインストール

第3章 インストールの、

「1-1 この章での説明について」

「1-2 OS インストール時の設定について」

「1-3 DBMS のインストールについて」

「2-1 MEDIAEDGE-SVS のインストール」

まで、同様に行ってください。DHCP を使用する場合も、ベンダ固有情報を設定する必要はありません。

4-2 MEDIAEDGE-PCT のインストール

当社製 MVR-D2000 もしくは MPL-D2000 を装着したクライアントコンピュータに MEDIAEDGE-PCT のインストールを行います。これによりサーバーコンピュータから配信された映像ソースをコンピュータ上で見ることが可能になります。

インストール作業を開始する前に、現在起動しているすべてのアプリケーションや常駐ソフトウェアを終了してください。また、システム設定の変更を行える資格を持つユーザー ID (Administrator 等) でログオンしてください。

注意！

MEDIAEDGE-SVS と MEDIAEDGE-PCT は、同一のコンピュータにインストールしないでください。

● MVR-D2000/MPL-D2000 のインストール

MVR-D2000 または MPL-D2000 のハードウェアを装着し、付属の「MVR-D2000/MPL-D2000 ユーザーズマニュアル」に従って、ドライバとアプリケーションをインストールしてください。

1 『MEDIAEDGE-SVS Application CD』を CD-ROM ドライブにセットしてください。

CD-ROM が自動起動し、MEDIAEDGE-SVS のセットアッププログラムが起動した場合は、セットアッププログラムをキャンセルしてください。

2 [スタート]メニューから[プログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]と進んで、『エクスプローラ』を起動してください。

3 CD-ROM を挿入したドライブを選択して開いてください。

4 [PCT]フォルダを開いて、[SETUP.EXE]をダブルクリックしてください。

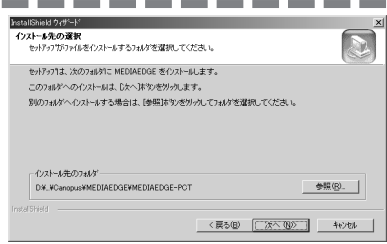
5 [次へ]をクリックしてください。



6

[次へ]をクリックしてください。

※ インストール先フォルダを変更する場合には、[参照]をクリックし、インストールするフォルダを選択するか、フォルダ名を直接入力してください。



7

再生するコンテンツの放送規格にチェックを付け、[次へ]をクリックしてください。

ファイルのコピーを開始します。



8

[完了]をクリックしてください。

以上でアプリケーションのインストールは完了です。

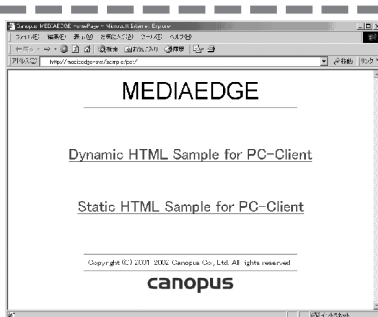


4-3 MEDIAEDGE-PCT を使用する

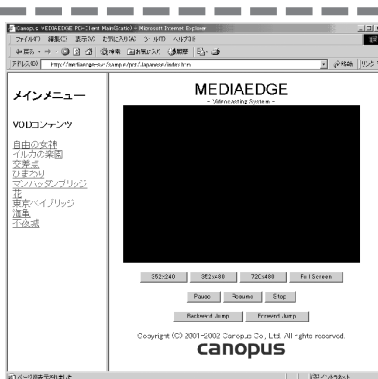
1 MEDIAEDGE-PCT をインストールした PC で、Internet Explorer を起動してください。

[アドレス]欄に `http://mediaedge-svr/sample/pct/` と入力してください。「mediaedge-svr」の部分は、サーバー名が異なる場合には、適切な名前に置き換えてください。

2 [Static HTML Sample for PC-Client] をクリックしてください。



3 メニュー画面が表示されます。



ⓘ ご注意！

メニュー画面右側のフレーム内に、映像エリアが黒く表示されることを確認してください。映像エリア内が、白く表示される場合は、MVR-D2000/MPL-D2000をコントロールするActiveXコントロールの組み込みに失敗しています。インストール手順を見直してください。

左側のフレーム内の、サンプルコンテンツへのリンクのいずれかをクリックしてください。サンプルコンテンツの映像が、右側フレームの映像エリアに表示されます。

「Pause」、「Resume」、「Stop」ボタンで、映像の再生をコントロールできます。

「352 × 240」、「352 × 480」、「720 × 480」、「Full Screen」ボタンで、映像エリアの大きさを変更することができます。

「Backward Jump」、「Forward Jump」ボタンで、前後ジャンプを行うことができます。

5

MEDIAEDGE-SWT のインストールと動作確認

5-1 サーバーのセットアップ

MEDIAEDGE-SWT をクライアントとして使用する場合で、MEDIAEDGE-STB と混在する場合は、MEDIAEDGE-STB を使用する場合のサーバー設定に準じて、サーバーPC をセットアップしてください。

MEDIAEDGE-SWT だけをクライアントとして使用する場合は、次の手順でサーバーPC をセットアップしてください。

- OS と MEDIAEDGE-SVS のインストール

第3章 インストールの、

「1-1 この章での説明について」

「1-2 OS インストール時の設定について」

「1-3 DBMS のインストールについて」

「2-1 MEDIAEDGE-SVS のインストール」

まで、同様に行ってください。DHCP を使用する場合も、ベンダー固有情報を設定する必要はありません。

5-2 MEDIAEDGE-SWT のインストール

MEDIAEDGE-SWT に付属の「MEDIAEDGE-SWT Installation Guide」に従ってインストールを行い、動作を確認してください。

MEDIAEDGE

アンインストール

4

- アンインストール

1 アンインストール

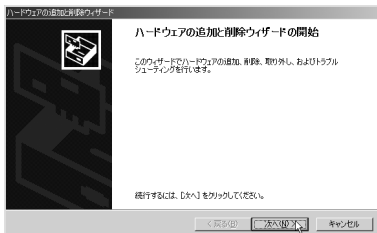
1-1 ドングルの停止と取り外し

アプリケーションのアンインストールを行う前にドングルドライバのアンインストールを行う必要があります。

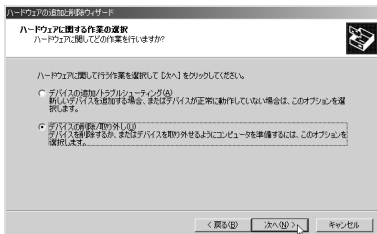
ここでは、Windows 2000 環境でのアンインストールを例に説明します。

1 [スタート]メニューから[設定]→[コントロールパネル]と進んで、[ハードウェアの追加と削除]をダブルクリックしてください。

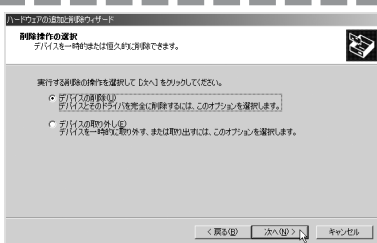
2 [次へ]をクリックしてください。



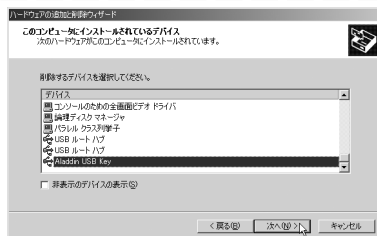
3 [デバイスの削除/取り外し]にチェックを付け、[次へ]をクリックしてください。



4 [デバイスの削除]にチェックを付け、[次へ]をクリックしてください。



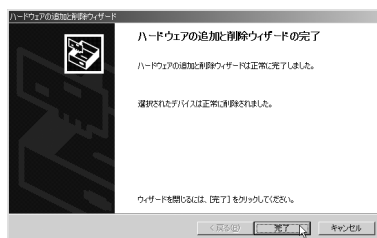
- 5 [Aladdin USB Key] を選択し、[次へ] をクリックしてください。



- 6 [はい、このデバイスを削除します] にチェックを付け、[次へ] をクリックしてください。



- 7 [完了] をクリックしてください。
ドングルを取り外してください。



以上でドングルドライバのアンインストールは完了です。

1-2 アプリケーションのアンインストール

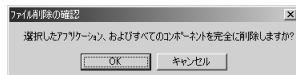
MEDIAEDGE-SVSアプリケーションのアップデートを行う場合は、MEDIAEDGEアプリケーションのアンインストール行ってください。アンインストール後に、新しいアプリケーションのインストールを行うようにしてください。

1 [スタート]メニューから[設定]→[コントロールパネル]と進んで、[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックしてください。

2 削除できるソフトウェアの一覧が表示されますので、[MEDIAEDGE]を選択し、[追加 / 削除]をクリックしてください。



3 [OK]をクリックしてください。



4 [完了]をクリックしてください。



- 5 [閉じる]をクリックしてください。
→ 以上でアンインストールは完了です。



ご注意！

アンインストール時には、サンプルコンテンツ(サンプルHTML、Web サイトの設定含む)と MEDIAEDGE データベースは削除されません。削除する場合は、手動で削除していただく必要があります。

■ 手動での削除の手順

- 1 Enterprise Manager の起動(SQL Server をインストールしている場合)
[スタート]メニューから[プログラム]→[Microsoft SQL Server]と進んで、『Enterprise Manager』を選択してください。
- 2 データベースの削除
左側のフレームにある[コンソールルート]→[Microsoft SQL Server]→[SQL Serverグループ]→[MEDIAEDGE-SVR]→[データベース]→[MEDIAEDGE_DB]と進んで、画面上で右クリックし、メニューから[削除]を選択します。[データベースの削除]ダイアログが表示されますので[OK]をクリックしてください。
- 3 ユーザー権限の削除
左側のフレームにある[コンソールルート]→[Microsoft SQL Server]→[SQL Server グループ]→[MEDIAEDGE-SVR]→[セキュリティ]と進んで、[ログイン]を選択します。右側のフレームから [MediaEdgeOperator]、[MediaEdgeServer]、[MediaEdgeUser]の画面上でそれぞれ(もしくはまとめて)右クリックし、メニューから[削除]を選択してください。削除を確認するダイアログが表示されますので[OK]をクリックしてください。

4. Web サイトの削除

[スタート]メニューから[設定]→[コントロールパネル]→[管理ツール]と進んで、[インターネットサービスマネージャ]を選択します。左側のフレームにある[Sample]を右クリックし、メニューから[削除]を選択してください。削除を確認するするダイアログが表示されますので、[OK]をクリックしてください。

5. サンプルHTMLの削除

エクスプローラで¥mediaedge¥sample以下のフォルダを削除してください。

6. サンプルMPEGファイルの削除

エクスプローラで¥Contents以下のフォルダを削除してください。

MEDIAEDGE を設定する

5

本書は、MEDIAEDGE システムの動作を変更するための種々の設定方法を説明しています。

『MEDIAEDGE-SVS Installation Guide』にしたがって、インストールおよびサンプルコンテンツの再生の確認が終了していることを前提としています。

- はじめに
- 設定ツールと手順について
- サーバーコンソールのリファレンス
- サーバー設定ツール
- STB 設定ツール
- DHCP の設定
- ベンダ固有情報設定ツール
- 登録情報抽出ツール
- 付録

1 はじめに

1-1 用語について

ここでは、本マニュアルで使用する用語について説明します。

■ VOD(ビデオ・オン・デマンド)再生

“Video On Demand” (ビデオ・オン・デマンド) 再生とは、クライアントからの要求に応じてコンテンツを再生する方法です。クライアントは常に希望するコンテンツの先頭から視聴することが可能です。ただし1台のサーバーに接続できるクライアント数には上限があります。

■ スケジュール再生

クライアントの要求とは無関係に、サーバー側で予め設定したスケジュールに従ってコンテンツを再生する方法です。クライアントがチャンネルを選択すると、その時点で送出している部分から再生が始まります。1つのチャンネルを視聴できるクライアント数に制限がありません。

■ サーバー

ストリーム送出、コンテンツ管理、スケジュール管理、クライアント管理を行う1台または複数のサーバーコンピュータの総称です。ストリームサーバー、DBMS、Webサーバーから構成されます。単にサーバーと表記する場合、これら全て、あるいはいずれかを指します。説明上どのサーバーを指すか区別が必要な場合には、ストリームサーバー等と明確に表記します。

■ クライアント

MEDIAEDGEサーバーからストリームを受信して映像を表示する端末です。MEDIAEDGE-STBとMEDIAEDGE-SWT、コンピュータベースのMEDIAEDGE-PCTがあります。特にことわりのない限り、単にクライアントと表記している場合は両方を含みます。

■ コンテンツ

コンテンツには以下の2つの意味があります。単にコンテンツと表記している場合は(1)を意味します。

- (1) MEDIAEDGEシステムで再生する映像コンテンツです。映像コンテンツは複数のコンテンツコンポーネントから構成されます。
- (2) MEDIAEDGEシステムで利用するHTMLファイルやスクリプト類もコンテンツと呼びます。サーバーコンソールのユーザーインターフェースや機能提供を目的としたHTMLやスクリプト類をコンソールコンテンツと呼び、クライアントのメニュー画面などの提供を目的としたHTMLやスクリプト類をクライアントコンテンツと呼んで区別します。

■ コンテンツコンポーネント

映像コンテンツを構成する要素のことで、映像ソースを意味します。MEDIAEDGEシステムでは、「ライブビデオ」、「MPEGファイル」、「登録済みコンテンツ」の3つがあります。単にコンポーネントと表記している場合、コンテンツコンポーネントを意味します。

■ チャネル

スケジュール再生はチャネルと呼ばれる枠の中にスケジュールを置いて実行されます。チャネルは、不特定のクライアントに向けてコンテンツを送るので、予め送り先のIPアドレスとポート番号を決めておきます。

■ スケジュール

スケジュール再生において必要となる、コンテンツ送出時刻やコンテンツ名などの情報です。毎週や毎月などの定期的スケジュールも登録できます。

■ カテゴリ

サーバーに登録されているコンテンツ、スケジュール、チャネル、クライアントにはカテゴリが与えられます。カテゴリは、項目を分類・抽出するための検索キーとしても使用できます。クライアントコンテンツサンプルでは、VODコンテンツをカテゴリ別に分類して表示しています。

1-2 VOD 再生とスケジュール再生

MEDIAEDGE は、VOD 再生とスケジュール再生の両方をサポートします。

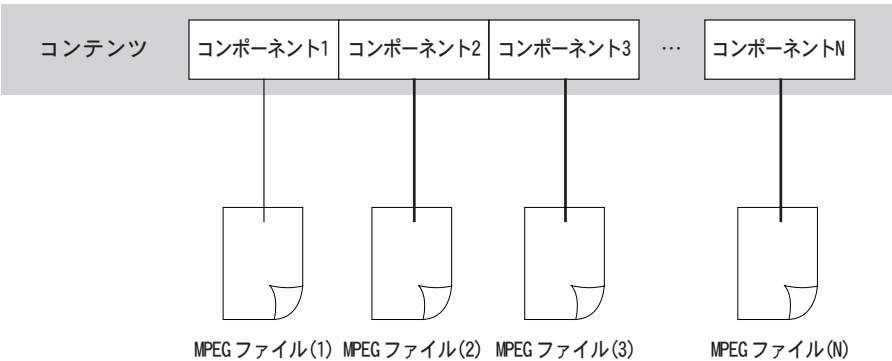
VOD 再生では、サーバーはクライアントからの要求に応じてストリームを流します。このためクライアントは常にコンテンツを先頭から視聴することが可能です。ネットワーク的にはクライアント・サーバー間の 1 対 1 のストリーミングであり、1 台のサーバーに接続できるクライアント数はサーバーとネットワークの能力によって制限されます。

スケジュール再生は VOD 再生と違い、サーバー側で予め設定したスケジュール通りにストリームを流します。クライアントがストリームを選択すると、その時点で送出している部分から再生が始まります。これは例えばテレビ放送のようなイメージです。テレビ放送にはいくつかのチャンネルがあり、タイムテーブルに沿って番組が放送されています。どのテレビ受像機でも、同じチャンネルを選局すると同じ映像が表示されます。MEDIAEDGE システムのスケジュール再生もこれと同様の仕組みを実現します。ネットワーク的には 1 対多のストリーミングであり、1 つのチャンネルを視聴できるクライアント数に制限がありません。ただし送出チャンネル数はサーバーとネットワークと MEDIAEDGE-STB の処理能力によって制限されます。

1 つのストリームサーバーは VOD 再生とスケジュール再生を混在して実行できます。

1-3 コンテンツについて

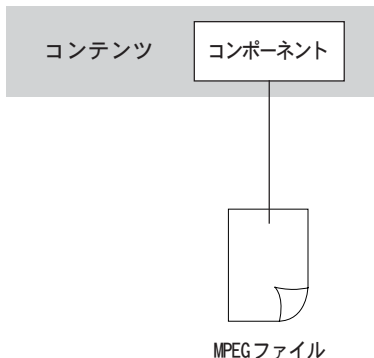
コンテンツ(映像コンテンツ)とは、VOD 再生やスケジュール再生で扱う映像プログラムのことです。コンテンツは複数の映像ソース(コンポーネントと呼ぶ)から構成されます。コンポーネントには MPEG ファイル、ライブビデオがあります。1 つのコンテンツに含まれている各コンポーネントは、サーバーからシームレスに連続送出され、クライアント側ではあたかも一つの映像プログラムであるかのように再生されます。



最も単純なコンテンツは1つのコンポーネントで構成されます。1つのMPEGファイルをVOD再生するような単純な用途でも、そのファイルをコンポーネントとして持つコンテンツを定義する必要があります。

VODメニューやスケジュールテーブルを作成する場合には、予めコンテンツを定義しておく必要があります。

なお、コンポーネントとファイルは常に1対1の関係である必要はなく、ファイルの一部だけをコンポーネントとして扱ったり、ファイルの一定領域を何回かループ再生するようなコンポーネントを定義することも可能です。複数のコンポーネントが同一ファイルの同一領域を参照していても問題ありません。またコンテンツ自体を他のコンテンツのコンポーネントとして使用することも可能です。



1-4 クライアントのメニュー画面について

クライアントには、映像コンテンツやチャンネルを選ぶ手段としてメニュー画面が有効です。クライアントにメニュー画面を提供する仕組みとして、MEDIAEDGEではWWWの技術を利用しています。すなわちMEDIAEDGEを使ってVODやスケジュール再生システムを実現するにはHTMLによるメニュー画面の作成が必要になります。メニューのためのHTMLページは静的ファイルとして準備してもよいのですが、データベース(DBMS)と連携した動的HTMLページを使うことも可能です。これはシステム規模が大きい場合や更新が頻繁な用途では有効な手段です。逆にシンプルなシステムではメニューを使わない運用も可能です。これらに関する詳しい情報、HTMLページの作成方法については、技術資料、付属サンプルをご覧ください。

2

設定ツールと手順について

2-1 設定に使用するツールについて

MEDIAEDGEシステムに種々の設定を行うことができるよう、次のツールが用意されています。

■ サーバーコンソール

コンテンツやスケジュールなどの登録や、クライアントの監視などを行うためのユーザーインターフェースです。これはWWWベースのGUIで、Webブラウザを用いて表示します。データベースとの通信やストリームサーバーの制御を行い、次の機能を実現します。

- MPEG ファイルの登録・更新・削除
- コンテンツの登録・更新・削除
- コンテンツコンポーネントの登録・更新・削除
- 各カテゴリの登録・更新・削除
- チャンネルの登録・更新・削除
- チャンネルの配信状態の表示
- チャンネルの配信を停止・再開
- スケジュールの登録・更新・削除
- クライアントの登録・更新・削除
- サーバーの登録・更新・削除
- 各チャンネルの状態を表示
- 登録クライアントの動作状態を表示
- クライアントのリポートと一斉切換
- イベントログの表示
- 録画

サーバーコンソールは、サーバーコンピュータ上でも実行できますが、ネットワーク接続された他のコンピュータでも実行できます。

■ コンテンツインストーラー

MPEGファイルの登録を行うプログラムです。MPEGファイルの登録は、サーバーコンソールを使用しても行うことができますが、それぞれ次のような長所・短所があり、設定内容に応じて使い分けることができます。

	サーバーコンソール	コンテンツインストーラ
実行PC	リモートコンピュータでも可能	ストリームサーバーコンピュータ上で実行する必要がある
登録作業	個々のファイルのパスをキーボードから入力する必要がある	ファイルをブラウズし、複数のファイルを1度一括して登録できる

いずれの場合も登録しようとするMPEGファイルは、ストリームサーバーと同じPC内に存在する必要があります。また、ストリームサーバーサービスの停止、起動、再起動を行うことができます。

■ サーバー設定ツール

ストリームサーバーの各種設定を確認・変更できるプログラムです。ライブビデオを使用する場合などに、これを用いて設定します。

■ STB 設定ツール

MEDIAEDGE-STBのIPアドレス、デフォルトゲートウェイのIPアドレス、電源ON後最初に表示するメニューやコンテンツのURLなど、MEDIAEDGE-STBが動作するのに必要な種々のパラメータをMEDIAEDGE-STB自身に設定し、不揮発性メモリに記憶させておくために使用するプログラムです。

DHCPサーバーからIPアドレスを取得する場合は、これらのパラメータもその際に合わせて取得できるので、STB設定ツールを使用して設定する必要はありません。

■ ベンダ固有情報設定ツール

DHCPサーバーのオプション設定にあるベンダ固有情報の設定変更を容易に行うためのMEDIAEDGE-STB用プログラムです。

■ 登録情報抽出ツール

ある環境で作成されたスケジュールやコンテンツを他の環境に複製したい場合に、必要なコンテンツや定義等の設定内容を抽出するためのプログラムです。抽出した設定内容はコンテンツインストーラーと組み合わせて使用することで新たな環境にその設定を引き継ぐことができます。

■ STB ファームウェアアップデートツール

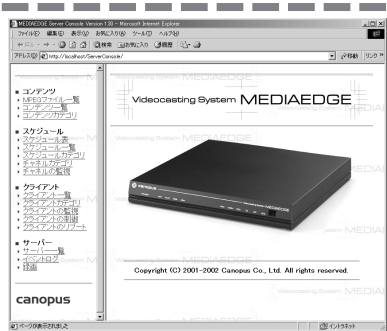
MEDIAEDGE-STBのファームウェアのROMイメージファイルをMEDIAEDGE-STBに転送し、ROM内のファームウェアをアップデートするときに使用します。また、ファームウェアのバージョン情報を確認することができます。

2-2 サーバーコンソールの表示確認

サーバーコンソールをインストールしたコンピュータの設定が正しくされているかどうかを確認します。

- 1 [スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]と進んで、[サーバーコンソール]を選択してください。

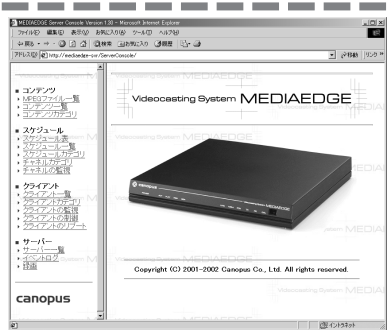
MEDIAEDGE の管理画面が表示されます。
[オフライン作業]画面が表示された場合は、[再試行]をクリックしてください。



- 2 [アドレス]に[http://mediaedge-svr/ServerConsole/]と入力し、手順1と同じ画面が表示されるか確認してください。

※ “mediaedge-svr” は、サーバーコンピュータのホスト名です。これと異なる名前になっている場合は、その名前を入力してください。

※ 同手順で、ネットワークに接続されている他のコンピュータでもサーバーコンソールを使用できます。



- 3 サンプルコンテンツをインストールしている場合は、左側のフレームにあるメニューから[コンテンツ一覧]をクリックし、10種類のコンテンツがインストールされているか確認してください。



2-3 コンテンツの登録

サーバーに新規にコンテンツを追加するためには、次の手順が必要です。

● MPEGファイルの登録

ストリームサーバーがインストールされているコンピュータのハードディスクドライブに、新たなコンテンツを構成するMPEGファイルをコピーし、その情報をデータベースに登録します。サーバーコンソールまたはコンテンツインストーラーを使用します。

● コンテンツカテゴリの登録

サンプルのコンテンツは、「SampleContents」というカテゴリで登録されています。新しいコンテンツをこれと異なるカテゴリに登録したい場合には、まずカテゴリの登録が必要です。サーバーコンソールを使用します。

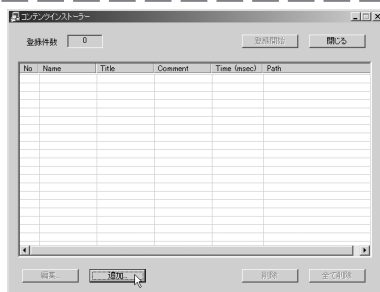
● コンテンツの登録

先に登録したMPEGファイルの情報を使用して、コンテンツとしての登録を行います。サーバーコンソールを使用します。

ここでは、例として『MEDIAEDGE-SVS Application CD』の[Tutorial]フォルダー-[NTSC]フォルダに収録されているMPEGファイル[seashore. m2p]を使用してコンテンツを登録する手順を紹介します。この手順を元に色々お試しください。ことをお勧めします。

1 [スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]と進んで、[コンテンツインストーラー]を選択してください。

2 [追加]をクリックしてください。



3

登録するMPEGファイルを指定し、[開く]をクリックしてください。

先にコピーしたハードディスク内のファイルを指定してください。

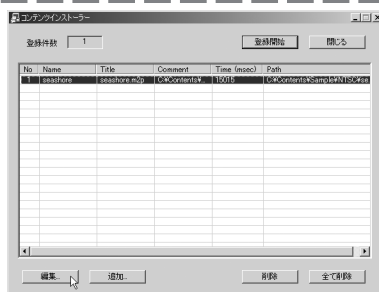


📖 ご注意！

エクスプローラ等を使用して、CD-ROM内の[Seashore.m2p]を、ハードディスク中の適当なフォルダ(MEDIAEDGE-SVSのインストール時に、サンプルコンテンツをセットアップするフォルダとして指定した[C:\¥Contents¥Sample]など)にコピーを行ってください。

4

登録されたリスト上でダブルクリックもしくは[編集]をクリックしてください。

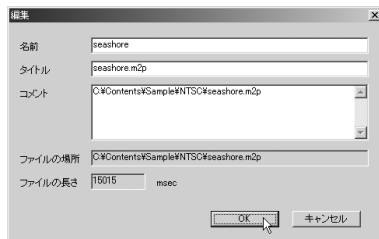


5

名前、タイトル、コメントを確認します。

※ 名前は、データベース上でMPEGファイルを識別するものです。データベース上で一意のものである必要があります。

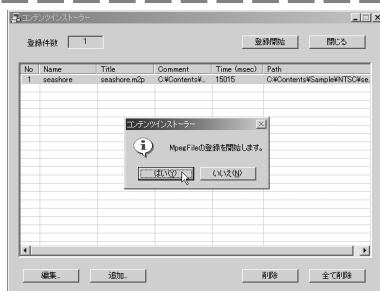
ここでは、名前に[Seashore]、タイトルにファイル名、コメントにファイルの場所(フルパス)が入力されています。変更する事も可能ですが、ここではそのまま[OK]をクリックしてください。



6

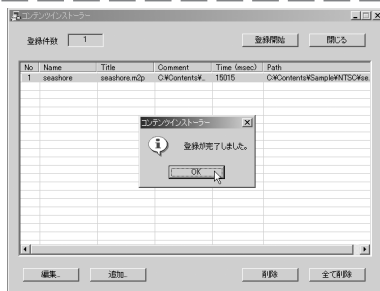
[登録開始]をクリックしてください。

[はい]をクリックしてください。



7

[OK]をクリックしてください。



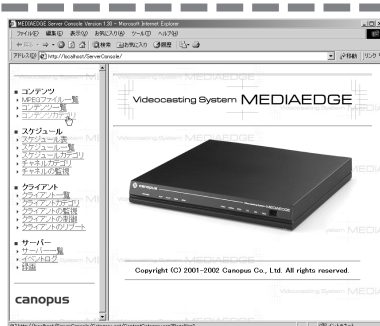
8

[閉じる]をクリックしてください。



9

新しいコンテンツカテゴリを登録します。サーバーコンソールを表示し、[コンテンツカテゴリ]をクリックしてください。



10 [新規カテゴリ]をクリックしてください。

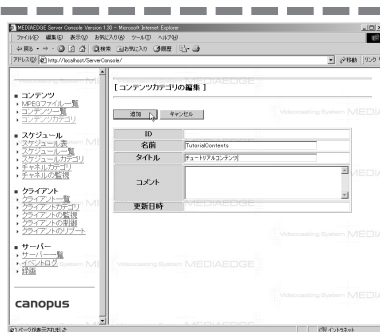


11 コンテンツカテゴリの名前とタイトルを入力し、[追加]をクリックしてください。

※ 名前は、データベース上でコンテンツカテゴリを指定する識別名です。データベース上で一意のものである必要があります。

※ タイトルは、ダイナミックメニュー上に表示される文字列です。

ここでは、名前[TutorialContents]、タイトル[チュートリアルコンテンツ]と入力します。



12 [コンテンツカテゴリ]のリストの中に、登録したコンテンツカテゴリ [TutorialContents]があることを確認してください。



13

サーバーコンソールの[コンテンツ一覧]をクリックしてください。



14

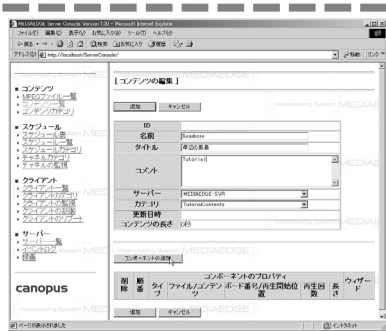
[新規コンテンツ]をクリックしてください。



15

名前、タイトル、コメントを入力し、[コンポーネントの追加]をクリックしてください。

- ※ 名前は、データベース上でコンテンツを指定する識別名です。データベース内で一意のものである必要があります。
- ※ タイトルは、ダイナミックメニューに表示される文字列です。データベース内に同じタイトルが別にあってもかまいません。
- ※ コメントは、操作者のための覚え書きとして使用することができます。



ここでは、名前[Seashore]、タイトル[岸辺の風景]、コメント[Tutorial]と入力し、カテゴリ欄の▼をクリックして[Tutorial Contents]を選択します。

16 コンテンツの種類を選択し、[次へ]をクリックしてください。

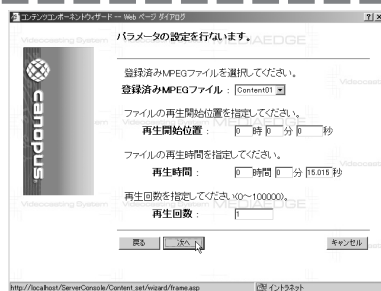
[seashore.m2p]は、MPEGファイルですので、ここでは[MpegFile]にチェックを付けます。



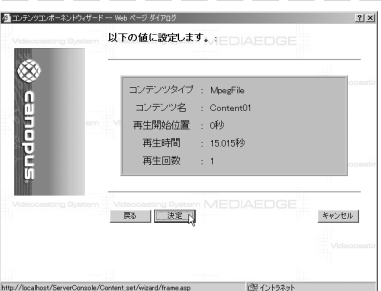
17 パラメータの設定を行い、[次へ]をクリックしてください。

登録済みファイルから[Seashore]を選択します。その他の設定はデフォルトのままにします。

※ [Seashore]は先にMPEGファイルを登録した時の名前です。



18 設定内容を確認し、[決定]をクリックしてください。



19 登録されたコンテンツのリストが表示されますので、内容を確認し、[追加]をクリックしてください。

リストが隠れてしまっている場合は、スクロールバーを使用して表示させてください。



20

コンテンツ一覧にあるリストに登録されたコンテンツが表示されているか確認してください。

[Seashore]が表示されていれば、コンテンツの登録は完了です。



21

次の手順で再生できることを確認してください。

- メニューの再読み込み

【MEDIAEDGE-STBの場合】

リモコンのHOMEボタンを押して、[メインメニュー]を表示させてください。すでに[メインメニュー]が表示されている場合は、HOMEボタンを押す必要はありません。[メインメニュー]が表示されている時にHOMEボタンを押すと、メニュー表示を消した状態になりますのでご注意ください。その場合はもう一度HOMEボタンを押し、[メインメニュー]を表示させて[データベースを参照する動的なメニュー]を選択してください。

【MEDIAEDGE-PCT/SWTの場合】

ブラウザの更新ボタンを押して、最新の情報に更新させてください。[メインメニュー]の[Dynamic HTML Sample for PC-Client]を選択してください。

- コンテンツの再生

新しく追加したコンテンツカテゴリ[Tutorial Contents]のタイトルである[チュートリアルコンテンツ]がメニューに追加されています。

[チュートリアルコンテンツ]を選択してください。新しいコンテンツのタイトル[岸辺の風景]がメニューに追加されています。それを選択し、コンテンツが再生されることを確認してください。

2-4 スケジュール再生の設定

■ サーバー設定

スケジュール再生の場合は、ストリームを出力する先のNICをIPアドレスで指定します。実際の指定は下の「チャンネルの登録」の中で指定しますが、その際のデフォルト値を設定しておけば、「チャンネルの登録」の際に毎回IPアドレスを指定する必要がないので便利です。デフォルト値の設定は、サーバー設定ツールを使用していきます。

1 [スタート]メニューから、[プログラム]→[MEDIAEDGE]→[サーバー設定ツール]を選択してください。

※ [マルチキャスト送信]の[デフォルトで使用するインターフェース]に、MEDIAEDGEクライアントが接続されているネットワークボードのIPアドレスが表示されていることを確認してください。表示が正しくない場合は、欄の右側の▼をクリックして、正しいIPアドレスを選択してください。

2 [OK]をクリックしてください。

サーバー設定ツール

データベース

コンピュータ名(C) MEDIAEDGE-SVR

プロバイダの種類(O) SQLOLEDB

データベース名(D) MEDIAEDGE_DB

接続ユーザー名(U) MediaEdgeServer

パスワード(P) 3edc5teb

RTSPのサーバー名のかわりにコンピュータ名を使う(B)

登録されたクライアントのみ有効(O)

イベントログを出力する(L)

レベル3の情報もログに記録する(M)

ログの保存日数(V) 0 (0: 削除しない)

マルチキャスト送信

デフォルトで使用するインターフェース(M) 10.0.1.0

パケット生存時間(T) 15

ライブビデオ

ストリーム数(S) 0 パラメータの設定(B)

録画ファイルの保存先(B) 放送規格の設定(B)

初期化(O) OK キャンセル

サービスの状態 開始

■ チャンネルカテゴリの登録

MEDIAEDGE のインストール時には、「DefaultChannels」という名前でチャンネルカテゴリが登録されています。これ以外のカテゴリを作成したい場合には、サーバーコンソールを使用して登録します。ここでは、[DefaultChannels]を使用し、登録は行いません。

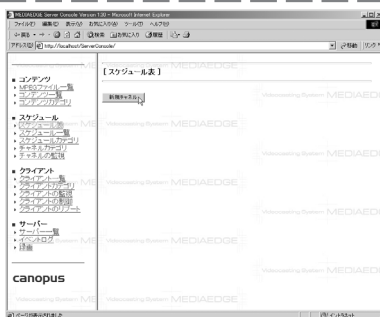
■ チャンネルの登録

チャンネルの内容を設定し、登録します。サーバーコンソールを使用します。初めて確認を行う場合は、チャンネルを新規に登録する必要があります。チャンネルの名前とタイトルに適当なものを書き込み、他は初期値のまま使用すると良いでしょう。

- 1 サーバーコンソールを表示し、[スケジュール表]をクリックしてください。



- 2 [新規チャンネル]をクリックしてください。



3

[チャンネルの編集]画面で、[名前]と[タイトル]を入力します。

※ 名前は、データベース上でチャンネルを指定する識別名です。データベース上で一意のものである必要があります。

※ タイトルは、ダイナミックメニュー上に表示される文字列です。

ここでは、名前[Channel 0]、タイトル[チャンネル 0]と入力します。他の項目は初期値のままとします。



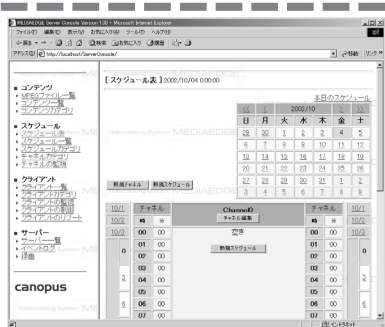
4

登録が終了したら、[追加]をクリックしてください。



5

[スケジュール表]に、タイムテーブルが表示されます。



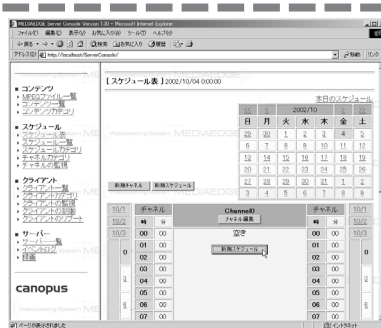
■ スケジュールカテゴリの登録

MEDIAEDGEのインストール時には、「DefaultSchedules」という名前でスケジュールカテゴリが登録されています。これ以外のカテゴリを作成したい場合には、サーバーコンソールを使用して登録します。ここでは「DefaultSchedules」を使用し、登録は行いません。

■ スケジュールの登録

上で登録したチャンネルに送信するスケジュールを作成します。サーバーコンソールを使用して登録します。コンテンツ自体は、VOD再生とスケジュール再生で区別はありません。登録されているコンテンツの中から選択してスケジュールに登録します。

1 サーバーコンソールの [新規スケジュール] をクリックしてください。

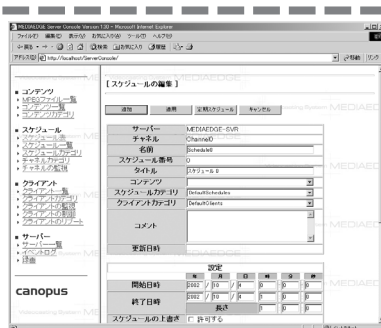


2 [スケジュールの編集] 画面で、[名前] と [タイトル] を入力します。

※ 名前は、データベース上でスケジュールを指定する識別名です。データベース上で一意のものである必要があります。

※ タイトルは、名前に対応してデータベースに記憶される文字列です。

ここでは、名前 [Schedule0]、タイトル [スケジュール 0] と入力します。



3

[コンテンツ]欄から、配信するコンテンツ名を選択します。

ここでは、サンプルコンテンツの、[Content01]を選択します。



4

[開始日時]と[終了日時]に、配信を開始する日時と終了する日時を入力します。

※ 適当な日時を設定してください。ただし、開始日時の2分以上前に登録を完了できるようにしてください。

※ [Content01] は約15秒の短いコンテンツです。それ以上の長さの配信を行う場合は、[繰り返し]にチェックを付けておくと、配信時間のあいだ、同じコンテンツを繰り返して配信します。

※ 他の項目は初期値のままとします。



5

登録が終了したら、[追加]をクリックしてください。



■ 再生の確認

登録が終わったら、次の手順で再生できることを確認してください。

2-3「コンテンツの登録」の手順②①を参照し、「メインメニュー」を表示させてください。

そのメニューで、「データベースを参照する動的なメニュー」(MEDIAEDGE-STBの場合)または「Dynamic HTML Sample for PC-Client」(MEDIAEDGE-PCTの場合)を選択してください。

「チャンネルメニュー」の中に、登録したチャンネルのタイトルが表示されています。これを選択してください。スケジュールの開始時刻前の場合は、そのまま開始時刻になるまで待ってください。スケジュールに登録されたコンテンツが再生されることを確認してください。

2-5 ライブビデオの設定

● MVR-D2000 のインストール

ビデオ信号をリアルタイムでMPEG1/2にエンコードし、ライブ配信するために、MPEGエンコードボード（MVR-D2000）が必要です。MVR-D2000に添付のユーザーズガイドを参照して、ボードとドライバソフトをインストールしてください。

● サーバー設定

サーバー設定ツールを起動し、「ライブビデオ」の項目の中の「ストリーム数」を、配信するビデオの本数に変更してください。「ストリーム数」と同じ枚数のMVR-D2000ボードが必要です。1台のサーバーPCで配信できるストリーム数の上限は、PCIコントローラ的能力やバスの空き具合にもよりますが、条件のよい場合で4本を目安にしてください。

● コンテンツ登録

ライブビデオもコンテンツとして登録します。その後はファイルコンテンツをVODで再生するのと同じ方法で受信できます。登録には、サーバーコンソールを使用します。

● スケジュール登録

スケジュール配信も、ファイルコンテンツの場合と同様の方法で設定できます。登録には、サーバーコンソールを使用します。

● 再生の確認

登録が終わったら、次の手順で再生できることを確認してください。

使用する全てのMVR-D2000ボードにあらかじめビデオ信号を入力しておいてください（ケーブルを接続しているだけでなく、実際に信号が入力されていることが必要です）。実際に配信していない時でも、サーバー設定ツールで設定されたMVR-D2000にはビデオ信号の入力が必要です。信号が入力されていない場合は、ファイルコンテンツを含む他の配信に影響を与え、映像が途切れ途切れになります。

受信の方法は、ファイルコンテンツの場合と同じです。「データベースを参照する動的なメニュー」の中にコンテンツのタイトルや、チャンネルのタイトルが表示されますので、それを選択することで、受信できます。

2-6 リモートブートの設定

MEDIAEDGE-STBのファームウェアはMEDIAEDGE-STB内のROMからブートできますが、電源ON時にネットワーク経由でブートファイルをダウンロードし、そのファームウェアで起動することも可能です。ブートサーバーやブートファイルが指定されなかった場合は、ROMからブートします。

リモートブートした場合は、ROMからブートした場合よりも多くの機能がサポートされます。リモートブートバージョンのみに含まれる機能が不要な場合は、ROMブートにした方が、起動が早くなります。

リモートブートバージョンのみでサポートされる機能は、次のとおりです。

- ◆ 再生中の前後ジャンプ機能
- ◆ シリアルポートデータ伝送機能

ブートサーバーとブートファイルの名前は、MEDIAEDGE-STB起動時にDHCPサーバーから取得します。DHCPを使用しない場合は、STB設定ツールを使用してMEDIAEDGE-STBに設定します。

設定方法は以下のとおりです。

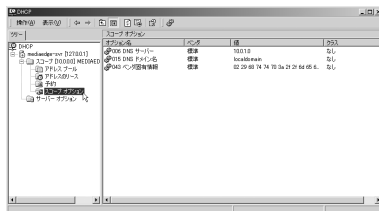
■ DHCP サーバーがある場合

DHCP コンソールで設定をおこないます。

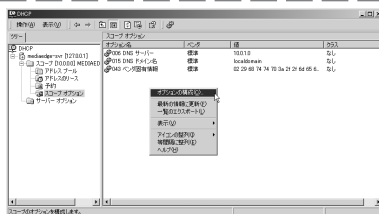
1 [スタート]メニューから[設定]→[コントロールパネル]と進んで、[管理ツール]を選択し、[DHCP]をダブルクリックしてください。

2 画面の左フレーム内で、全ての STB へ設定を行う場合には[スコープオプション]を、指定する STB だけに設定を行う場合には[予約]を選択してください。

※ 画面では[スコープオプション]を選択しています。



3 画面の右フレーム上で右クリックし、[オプションの構成]を選択してください。



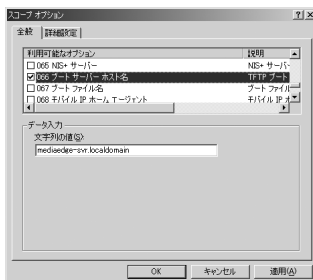
4 [スコープオプション]ウィンドウが開きます。

→ [066]番と[067]番の設定を行います。

● [066]番 ブートサーバーホスト名

文字列の値に、サーバー名とドメイン名を入力します。

例) medi aedge-svr. local domain



● [067]番 ブートサーバーファイル名

MEDIAEDGE-SVSインストール時にコピーされる「Stbboot. mot」ファイルの場所を入力します。

Cドライブにインストールした場合の例) C:\MEDIAEDGE-STB\Boot¥Stbboot. mot



5

[OK] ボタンをクリックし、MEDIAEDGE-STB背面の[RESET] ボタンを押して MEDIAEDGE-STB を再起動してください。

■ DHCP サーバーがない場合

STB 設定ツールで設定をおこないます。

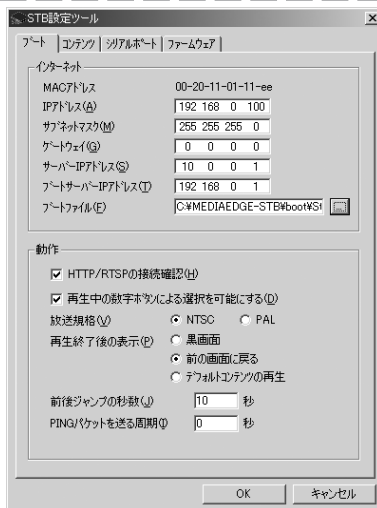
1 [スタート]メニューから、[プログラム]→[MEDIAEDGE]→[STB 設定ツール]を選択してください。

2 [STB設定ツール]をにIPアドレスを入力して設定を行うMEDIAEDGE-STBを指定してください。



3 [ブート]タブ内にある以下の2つの項目を指定してください。

- ・ [ブートファイル]で Boot ファイルの場所を指定します。
- ・ [動作]にある[前後ジャンプの秒数]でジャンプする長さを設定します。



4 [OK]ボタンをクリックすると、MEDIAEDGE-STBの再起動についてのメッセージが表示されますので[はい]をクリックしてMEDIAEDGE-STBを再起動してください。

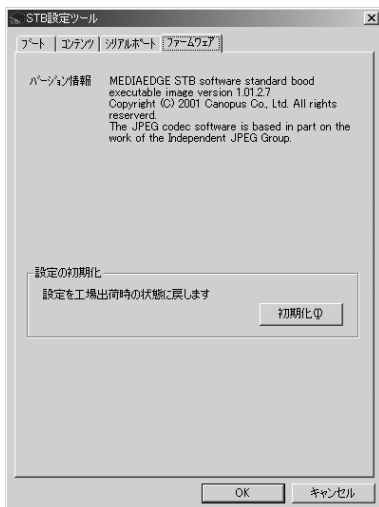


2-7 MEDIAEDGE-STB 再起動後の確認

■ 確認方法

STB設定ツールの[ファームウェア]タブより、リモートブート版のファームウェアが起動していることを確認することができます。

設定が行われている場合には、1～2行目に「standard boot executable image version 1.10.2.7」と表示されます。



2-8 クライアントの登録、制御、監視について

MEDIAEDGEサーバーのデータベースには、接続される予定のクライアントをあらかじめ登録するようになっています。クライアントの登録を行ってなくても、メニューを表示したりコンテンツを再生したりすることはできます。設定(*)により、登録したクライアント以外には再生しないようにすることもできます。しかし、クライアントの制御や監視を行うには、クライアントを登録しておくことが必要です。

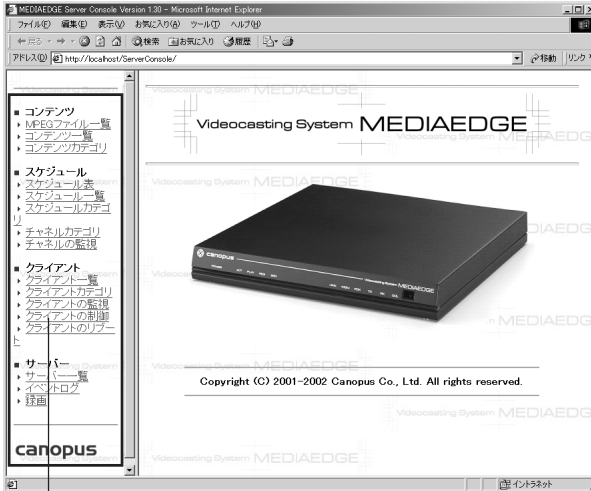
MEDIAEDGEのインストール時に10台分のクライアントが自動で登録されます。これ以外のクライアントは、サーバーコンソールを使用して登録してください。

※ サーバー設定ツールで「登録されたクライアントのみ有効」にチェックを付けてください。

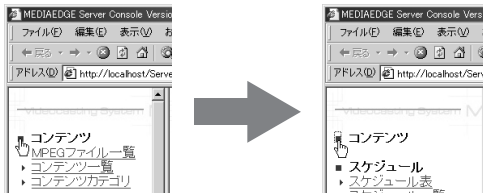
3

サーバーコンソールのリファレンス

3-1 トップページ



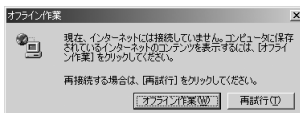
このフレーム内のメニューから選択した画面が、右側のフレームに表示されます。



■ ボタン

クリックする度に該当するメニューの一覧を表示する / しないを切り替えることができます。

操作中に以下の画面が表示された場合は、[再試行]をクリックしてください。



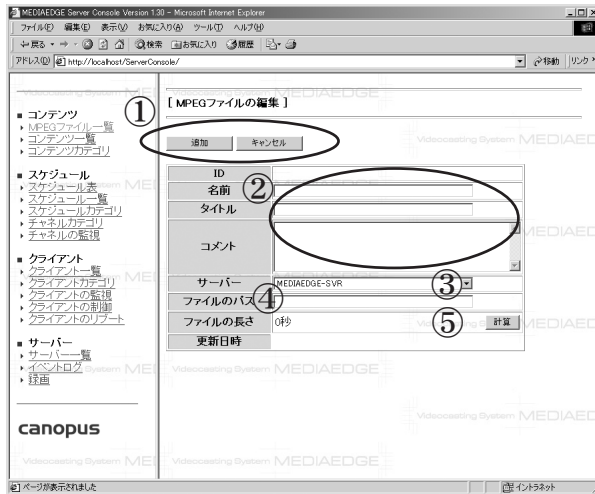
3-2 MPEG ファイル一覧

MEDIAEDGE で使用する MPEG ファイルの登録画面です。



- ① MPEG ファイルの登録を行います。クリックすると MPEG ファイルの編集画面が表示されます。
- ② 1 ページに表示する MPEG ファイルの件数を選択します。選択後、更新ボタンを押してください。
- ③ MPEG ファイルの一覧の総ページ数、現在表示しているページ番号、MPEG ファイルの総数です。
- ④ MPEG ファイルの一覧が 2 ページ以上ある場合、ここをクリックすると他のページへ移動します。
- ⑤ 一覧を各項目でソートします。項目名をクリックする度に昇順・降順が切り替わります。
- ⑥ MPEG ファイルの登録内容の表示、修正、削除を行う場合は ID 番号をクリックします。クリックすると MPEG ファイル編集画面が表示されます。

■ MPEG ファイルの編集画面



① ボタン

新規にMPEGファイルを登録する場合、[追加]、[キャンセル]ボタンが表示されます。既存MPEGファイルを編集している場合、[更新]、[削除]、[キャンセル]ボタンが表示されます。

② MPEG ファイル情報

MPEG ファイル情報の入力、表示領域です。名前は必ず入力してください。

③ サーバー

ファイルが存在するサーバーを選択します。

④ ファイルのパス

MPEGファイルの場所をサーバーから見たフルパスで入力します。入力後、⑤の設定項目にある[計算]をクリックしてください。

⑤ ファイルの長さ

ファイルの長さが時分秒で表示されます(1秒未満の時間は秒の少数点第3桁まで表示されます)。

ファイルのパスを入力後、計算をクリックします。この長さが[0(秒)]と表示されている場合は、登録できません。パスおよびファイル名が間違っている可能性がありますので④の内容をご確認ください。

編集終了後、MPEGファイルの一覧画面へ戻ります。

3-3 コンテンツ一覧

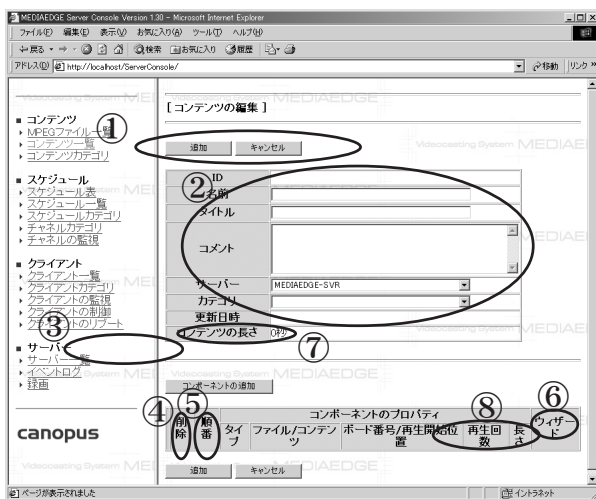
MEDIAEDGE で使用するコンテンツの登録画面です。

■ コンテンツ一覧画面



- ① 新規コンテンツを作成します。クリックするとコンテンツの編集画面が表示されます。
- ② 1ページに表示するコンテンツの件数を選択します。選択後、更新ボタンを押してください。
- ③ コンテンツ一覧の総ページ数、現在表示しているページ番号、コンテンツ総数です。
- ④ コンテンツ一覧が2ページ以上ある場合、ここをクリックすると他のページへ移動します。
- ⑤ 一覧を各項目でソートします。項目名をクリックする度に昇順・降順が切り替わります。
- ⑥ コンテンツ登録内容の表示、修正、削除を行う場合はID番号をクリックします。クリックするとコンテンツの編集画面が表示されます。

■ コンテンツの編集画面



- ① 新規コンテンツの場合、[追加]、[キャンセル]ボタンが表示されます。既存コンテンツを編集している場合、[更新]、[削除]、[キャンセル]ボタンが表示されます。
- ② コンテンツ情報の入力、表示領域です。
※ 名前は必ず入力して下さい。
※ サーバー名には、追加したいコンポーネント(ファイル等)が登録されているサーバーを指定します。
- ③ コンテンツにコンポーネント(ファイルやライブビデオ)を追加します。[コンポーネントの追加]をクリックするとウィザードが起動し、正しいパラメータを設定すると一行追加されます。
- ④ コンポーネントの再生順序を入れ替えます。
※ コンポーネントの再生は一覧の上から順に行われます。
- ⑤ その行のコンポーネントを削除します。
- ⑥ コンポーネントウィザードを起動し、コンポーネントの追加やパラメータの編集を行います。
- ⑦ コンテンツの総時間を表示します。
- ⑧ コンポーネントの再生回数、長さを表示します。

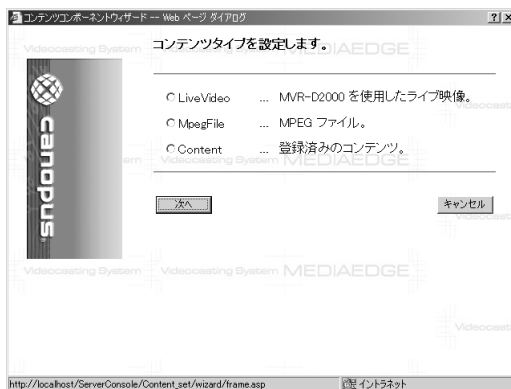
編集終了後、コンテンツ一覧画面へ戻ります。

■ コンテンツコンポーネントウィザード

コンポーネントウィザードはコンテンツの編集画面から起動します。コンテンツへのコンポーネント追加や、既に追加されているコンポーネントのパラメータ変更などを行います。

ウィザードは3ページで構成されています。1ページ目はコンテンツタイプの選択、2ページ目は再生パラメータの設定、3ページ目は設定内容確認です。なお、ウィザードを開いている間は他の操作を行えません。

① コンテンツタイプの設定(1ページ目)

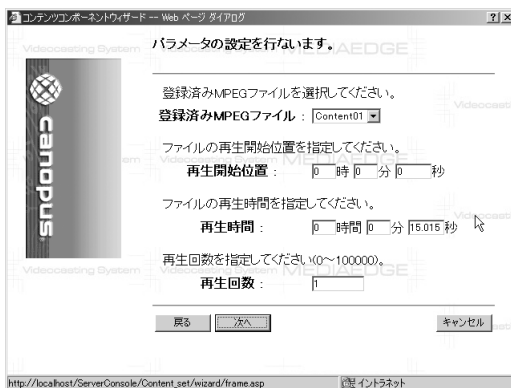


- | | |
|------------|---|
| Live Video | 当社製 MPEG VIDEO RECORDER MVR-D2000によるライブビデオをコンポーネントとして登録します。 |
| Mpeg File | MPEG ファイルをコンポーネントとして登録します。 |
| Content | 登録されている別のコンテンツを、このコンテンツのコンポーネントとして再利用します。 |

※ MPEGファイルをコンポーネントとして利用するには、あらかじめMPEGファイルをサーバーに登録しておく必要があります。

② パラメータの設定(2ページ目)

コンポーネントタイプにより画面内容が異なります(画面はMpeg File選択時)。



LiveVideo を選択した場合

MVR-D2000を利用するため、ボード ID、エンコード時間を設定します。エンコード時間を 0 (デフォルト値) に設定した場合、時間無制限として設定されます。

MpegFile を選択した場合

リストからファイルを選択し、再生開始位置、再生時間、再生回数を設定します。

再生開始位置 ファイルの再生開始位置を指定します。デフォルトは 0 (ファイル先頭) です。

再生時間 再生開始位置から何秒間再生するか指定します。デフォルトはファイル長(ファイルのすべてを再生)です。

再生回数 上記の設定を使い何回再生するか指定します。デフォルトは 1 回です。

※ リストに表示されるファイルは、コンテンツ編集画面で指定したサーバーに登録されているものに限られます。

※ ファイルはあらかじめサーバーに登録しておく必要があります。

※ [次へ]をクリック後、再生開始位置、再生時間はサーバーが扱える適切な値に補正されます。

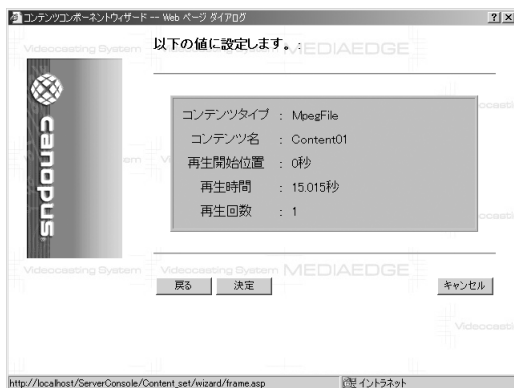
Content を選択した場合

コンテンツを選択します。

※ 選択できるコンテンツは、コンテンツ編集画面で指定したサーバーに登録されているものに限られます。

③ 設定値の確認(3ページ目)

コンテンツタイプにより画面内容が異なります (画面はMpeg File 選択時)。



設定内容を確認します。なお、MpegFile選択時に2ページ目で設定した再生開始位置などの時刻情報は、サーバーが扱える適切な値に補正されて表示されます。

📖 ご注意！

ここで設定した値は、コンテンツコンポーネントウィザードを終了してもデータベースにはまだ反映されていません。コンテンツの編集画面の[追加]もしくは[更新]を実行した場合のみ反映されます。

3-4 スケジュール表

スケジュール再生のためのタイムテーブルです。テレビ放送の番組表のような形式で、横がチャンネル、縦が時刻を表し、チャンネル毎にコンテンツ送出スケジュールが配置されています。

チャンネルが1つも定義されていない場合、タイムテーブルは表示されず[新規チャンネル]ボタンのみ表示されます。

● スケジュール表(チャンネル定義がされている場合)

The screenshot shows the MEDIAEDGE Server Console interface. The main window displays a calendar for 2002/10/04 and a detailed schedule table for Channel 10. The schedule table has columns for time (00:00 to 07:00) and rows for channels. Channel 10 is selected, and the schedule is currently empty, with a '新規スケジュール' (New Schedule) button visible.

日	月	火	水	木	金	土
28	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9

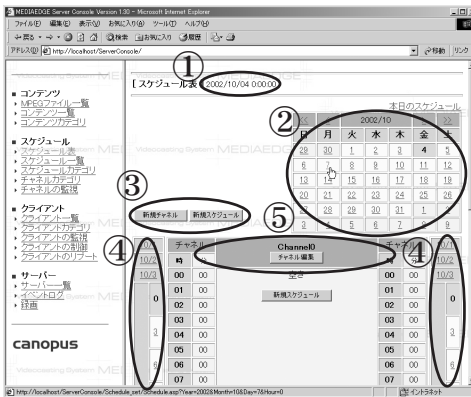
10/1	チャンネル	Channel10	チャンネル	10/1
10/2	時 分	チャンネル編集	時 分	10/2
10/3	00 00	空き	00 00	10/3
0	01 00	新規スケジュール	01 00	0
3	02 00		02 00	3
6	03 00		03 00	6
	04 00		04 00	
	05 00		05 00	
	06 00		06 00	
	07 00		07 00	

● スケジュール表(チャンネル定義がされていない場合)

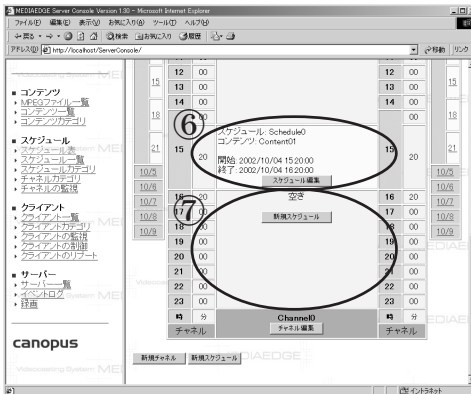
The screenshot shows the MEDIAEDGE Server Console interface. The main window displays an empty schedule table. The '新規チャンネル' (New Channel) button is visible, indicating that no channels are currently defined.

■ スケジュール表画面

画面上部(画面スクロール上方)



画面下部(画面スクロール下方)



① 日時

画面に表示しているスケジュールの日時です。

② カレンダー

1ヶ月のカレンダーです。日付をクリックすると、スケジュールが表示されます。黄色 表示中。太字 スケジュールが存在している。

③ ボタン

新規チャンネルの追加、新規スケジュールの追加を行います。クリックすると、それぞれチャンネル編集画面、スケジュール編集画面が表示されます。

④ カレンダー-2

表示中のスケジュールの前後を簡単に呼び出すためのカレンダーです。表示する時間帯も選択できます。

⑤ チャンネル

1列が1つのチャンネルを示します。チャンネルの設定(ネットワークパラメータ等)を編集する場合は、[チャンネル編集]ボタンをクリックします。

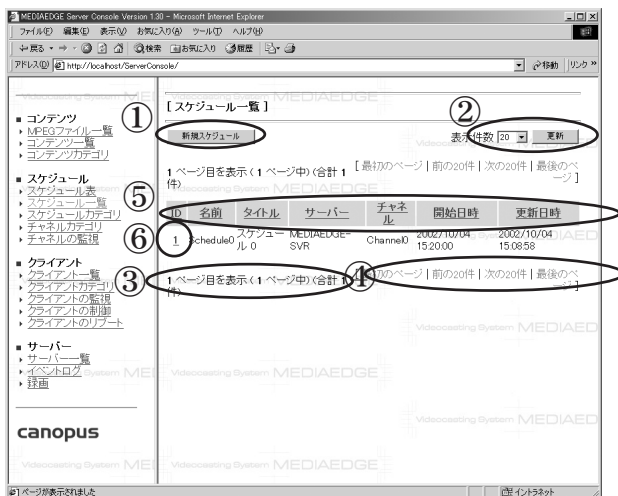
⑥ スケジュール

登録されているスケジュールはこのように表示されます。内容を編集する場合は、[スケジュール編集]ボタンをクリックします。

⑦ 空き時間

チャンネルの中でスケジュールの存在しない時間です。スケジュールを作成する場合は、[新規スケジュール]ボタンをクリックし、スケジュール編集画面で登録を行ってください。

■ スケジュール一覧画面



- ① 新規にスケジュールを作成する場合にクリックします。クリック後、スケジュールの編集画面へ移動します。
- ② 1 ページに表示する件数を設定します。リストから表示件数を選択し、更新ボタンをクリックすると画面が更新されます。
- ③ 現在表示しているページ、総ページ数、スケジュールの総数を表示します。
- ④ ページ移動のリンクです。最初のページ、最後のページ、次のページ、前のページへ移動できるようになっています。
- ⑤ リストの表示方法を各項目でソートして表示する場合に使用します。ソートしたい項目をクリックすることで昇順・降順でリストを再表示します。
- ⑥ 登録されたスケジュールの詳細確認・更新・削除を行なう場合は、ここをクリックします。クリック後、スケジュールの編集画面に移動します。

🕒マークのついているスケジュールは、定期スケジュールです。定期スケジュールの場合は、編集の前に[このスケジュールは定期スケジュールです。定期スケジュールを編集しますか?]というダイアログが表示されます。ここで、[OK]をクリックすると定期スケジュール編集画面に移ります。[キャンセル]をクリックすると、スケジュールの編集画面に移ります。

■ チャネルの編集画面

ここでは、スケジュール再生でストリームを流すためのチャンネルを設定します。



① ボタン

新規チャンネルの場合、[追加]、[キャンセル]ボタンが表示されます。既存チャンネルを編集している場合、[更新]、[削除]、[キャンセル] ボタンが表示されます。

② サーバー

ストリームを流すサーバーを選択します。新規追加時のみ選択できるようになっています。

③ 名前

ストリームを流すチャンネル名を入力します。新規追加時のみ入力できるようになっています。名前で入力可能な文字は英数字と一部の記号だけで、64文字まで入力できます。入力は必須です。

④ タイトル

タイトルを自由につけることが出来ます。タイトルは255文字までの長さで入力できます。

⑤ コメント

コメントを自由につけることが出来ます。コメントは1024文字までの長さで入力できます。

⑥ 送信先 IP アドレス

送信先 IP アドレスを入力します。スケジュール再生の場合、通常はマルチキャストを使用しますので、マルチキャストアドレスを入力します。

⑦ 送信先ポート番号

送信先ポート番号を入力します。偶数番号を入力してください(推奨)。

⑧ ネットワークインターフェース

インターフェース (ネットワークアダプタ) を選択します。

- | | |
|-----------|---|
| [既定] | 既定のネットワークアダプタ(サーバー設定ツールで指定)でストリームを流します。 |
| [全て] | 全てのネットワークアダプタでストリームを流します。 |
| [IP アドレス] | 入力した IP アドレスを持つネットワークアダプタでストリームを流します。 |

⑨ カテゴリ

カテゴリを選択します。

⑩ 更新日時

このチャンネルの更新日時が表示されます。新規追加の場合は空欄になっています。

編集が完了したら、[追加]または[更新]ボタンを押してください。変更が反映されます。

■ スケジュールの編集画面

ここでは、チャンネルにストリームを流すスケジュールを設定します。新規にスケジュールを登録する前には、チャンネルとコンテンツを予め登録しておく必要があります。

画面上部(画面スクロール上方)



① ボタン

新規スケジュールの場合、[追加]、[適用]、[定期スケジュール]、[キャンセル] ボタンが表示されます。すでに作成したスケジュールを編集している場合、[更新]、[削除]、[適用]、[コピー]、[定期スケジュール]、[キャンセル] ボタンが表示されます。[定期スケジュール]をクリックすると定期スケジュール編集画面が表示されます。

② サーバー

ストリームを流すサーバーを選択します。新規追加時のみ選択できるようになっています。

③ チャンネル

ストリームを流すチャンネルを選択します。新規追加時のみ選択できるようになっています。

④ 名前

スケジュール名を入力します。新規追加時のみ入力できるようになっています。名前を入力可能な文字は英数字と一部の記号だけです。64文字まで入力できます。入力は必須です。

画面下部(画面スクロール下方)



⑤ スケジュール番号

スケジュール番号です。入力できません。

⑥ タイトル

タイトルを自由につけることができます。タイトルは255文字までの長さで入力できます。

⑦ コンテンツ

サーバーに登録されているコンテンツの中からコンテンツを選択します。

- ⑧ **カテゴリ**
カテゴリを選択します。
- ⑨ **クライアントカテゴリ**
クライアントカテゴリを選択します。
- ⑩ **コメント**
コメントを自由につけることができます。コメントは1024文字までの長さで入力できます。
- ⑪ **更新日時**
このスケジュールの更新日時が表示されます。新規追加の場合は空欄になっています。
- ⑫ **開始日時**
ストリームを流す日時を入力します。開始日時を変更すると、長さにあわせて終了日時が調整されます。
- ⑬ **終了日時**
ストリームを停止する日時を入力します。終了日時と長さは連動しており、終了日時を変更すると長さが調整され、長さを変更すると、終了日時が調整されます。
- ⑭ **スケジュールの上書きを許可**
チャンネルに編集中のスケジュールに重なる別のスケジュールが登録されている場合は、スケジュールの上書き許可のチェックが付いていないと登録することができません。
- ⑮ **繰り返し**
コンテンツの長さよりスケジュールの長さが長い場合には、スケジュールが完了するまでコンテンツを繰り返し再生します。
- ⑯ **スケジュールタイプ**
ライブ配信時の動作を選択します。
- ⑰ **コンテンツの自動登録**
録画したファイルをコンテンツとして登録するかどうかのチェックです。
- ⑱ **登録するファイル名**
MPEGファイル一覧で使用するファイル名です（パス名ではない、ファイルのパス名はストリームサーバが自動で割り当てる為設定できない）。64文字以内で必須です。
- ⑲ **登録するコンテンツ名・コンテンツタイトル**
コンテンツで使用するコンテンツ名・タイトルです。何も入力されない場合は「チャンネル名_日付_スケジュール時間」が自動で入力されます。コンテンツ名は64文字以内で、タイトルは255文字以内で入力してください。
- ⑳ **登録するコンテンツカテゴリ**
コンテンツで使用するコンテンツカテゴリです。

編集が完了したら、[追加]、[更新]または[適用]ボタンを押してください。変更が反映されます。

■ 定期スケジュールの編集画面

定期スケジュールとは、毎週とか毎日のように定期的に繰り返されるスケジュールです。定期スケジュールとして登録すると、実際には同一の名前と設定を持つスケジュールが、希望パターンに従って自動的に登録されます。定期スケジュールの変更を行うと同名のスケジュールが全て更新されます。定期スケジュールを作成した後に一部だけ変更した例外的なスケジュールも上書きされますのでご注意ください。

画面上部(画面スクロール上方)



① ボタン

新規に定期スケジュールを作成する場合、[追加]、[適用]、[キャンセル] ボタンが表示されます。すでに作成した定期スケジュールを編集している場合、[更新]、[削除]、[適用]、[コピー]、[キャンセル] ボタンが表示されます。

② サーバー

ストリームを流すサーバーを選択します。新規追加時のみ選択できるようになっています。

③ チャンネル

ストリームを流すチャンネルを選択します。新規追加時のみ選択できるようになっています。

④ 名前

スケジュール名を入力します。新規追加時のみ入力できるようになっています。名前前で入力可能な文字は英数字と一部の記号だけです。64文字まで入力できます。入力は必須です。

画面下部(画面スクロール下方)



⑤ タイトル

タイトルを自由につけることができます。タイトルは255文字までの長さで入力できます。

⑥ コンテンツ

サーバーに登録されているコンテンツの中からコンテンツを選択します。

- ⑦ **カテゴリ**
カテゴリを選択します。
- ⑧ **クライアントカテゴリ**
クライアントカテゴリを選択します。
- ⑨ **コメント**
コメントを自由につけることができます。コメントは1024文字までの長さで入力できます。
- ⑩ **更新日時**
このスケジュールの更新日時が表示されます。新規追加の場合は空欄になっています。
- ⑪ **開始時刻**
ストリームを開始する時刻を入力します。
- ⑫ **長さ**
スケジュールの長さを入力します。
- ⑬ **パターンの設定**
スケジュールを繰り返すパターンを選択します。日、週、月毎のスケジュールを設定できます。
- ⑭ **開始日**
定期スケジュールの開始日を入力します。
- ⑮ **反復回数と終了日**
スケジュールの反復回数と終了日を入力します。終了日は反復回数とパターンに連動しており、反復回数またはパターンを変えると、終了日が自動的に変更されます。終了日を変更すると、反復回数を変更されます。
- ⑯ **繰り返し**
コンテンツの長さよりスケジュールの長さが長い場合には、スケジュールが完了するまでコンテンツを繰り返し再生します。
- ⑰ **スケジュールタイプ**
ライブ配信時の動作を選択します。

編集が完了したら、[追加]、[更新]または[適用]ボタンを押してください。変更が反映されます。

3-5 カテゴリ

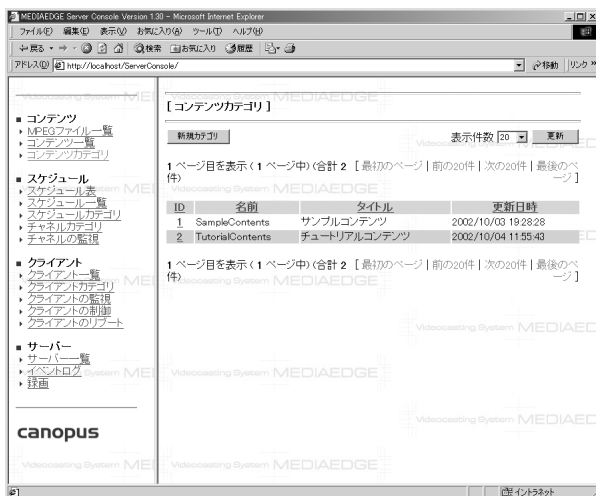
カテゴリには以下の4つがあります。

1. コンテンツカテゴリ
2. スケジュールカテゴリ
3. チャンネルカテゴリ
4. クライアントカテゴリ

画面左フレーム内のメニューから見たいカテゴリをクリックすることで、登録されているカテゴリが一覧表示されます。各カテゴリの一覧表示画面、編集画面は、表示内容は多少異なりますがページ構成や操作方法は共通です。

■ カテゴリ一覧画面

コンテンツカテゴリの場合、以下のような画面になります。他のカテゴリも同様の画面です。



カテゴリの追加

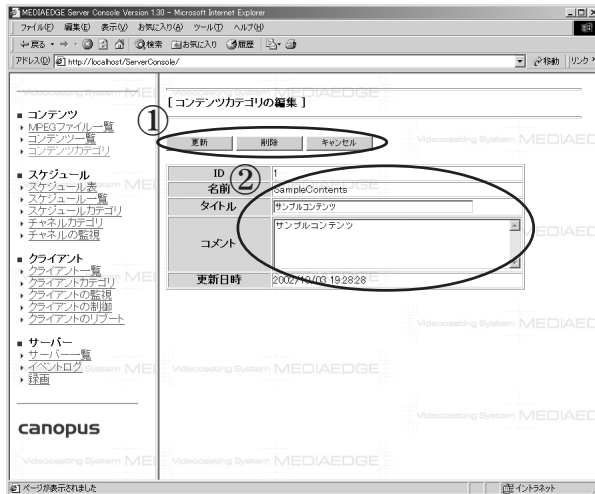
[新規カテゴリ]ボタンをクリックします。

カテゴリの編集

編集を行うカテゴリ IDをクリックします。

■ コンテンツカテゴリの編集画面

コンテンツカテゴリの場合、以下のような画面となります。他のカテゴリもほぼ同様の画面です。



① 新規カテゴリの場合、[追加]、[キャンセル]ボタンが表示されます。既存カテゴリを編集している場合、[更新]、[削除]、[キャンセル]ボタンが表示されます。

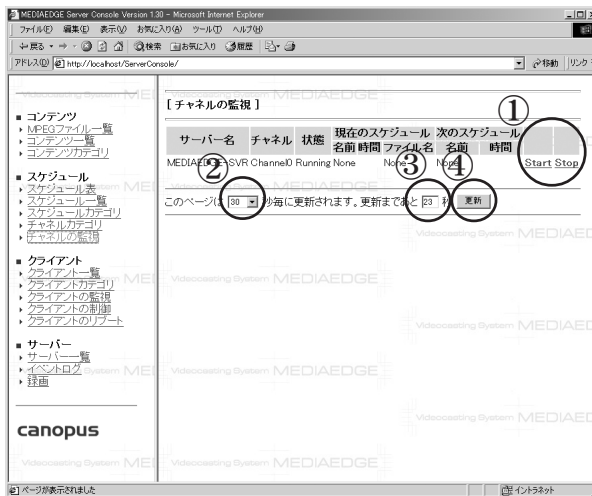
② カテゴリ情報の入力、表示領域です。名前は必ず入力してください。
クライアントカテゴリの編集画面では、この項の下に[デフォルトURL]の設定がさらに表示されます。

編集終了後、カテゴリ一覧画面へ戻ります。

3-6 チャンルの監視

登録されている全てのストリームサーバーにおいて、現在どのサーバーでどのチャンネルが動作しているかを監視する画面です。またチャンネルの停止や再開も行えます。

■ チャンネルの監視画面



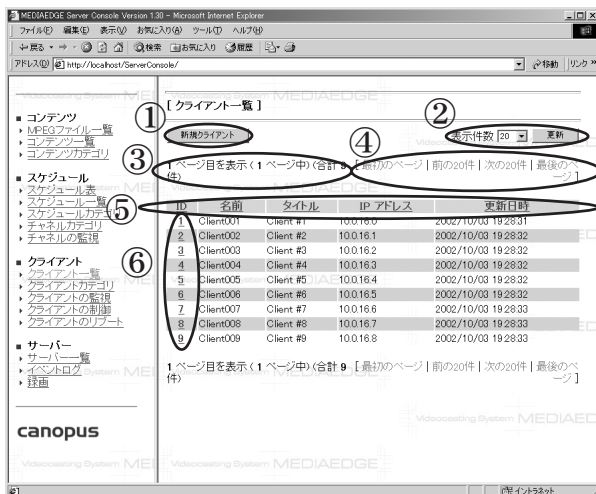
- ① チャンネルの開始と停止を制御します。
- ② ページの自動更新間隔を設定します。
- ③ ページ自動更新までの残り時間です。
- ④ ページを強制的に更新します。

動作していないストリームサーバーは名前のみ表示され、状態は何も表示されません。

3-7 クライアント一覧

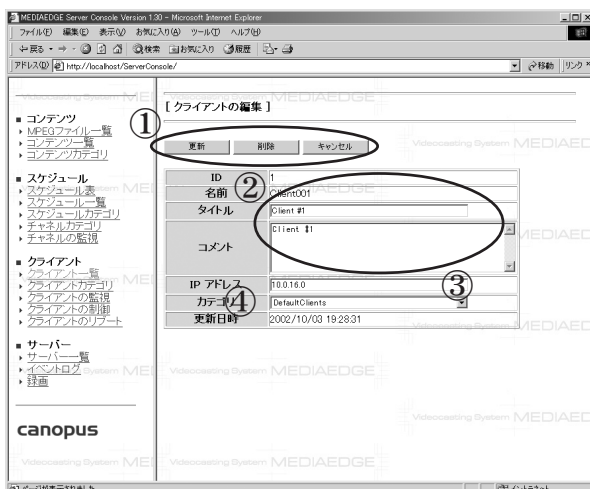
クライアントの状態をサーバーコンソールから監視、リポート、一斉切換を行う場合、あらかじめ対象となるクライアントを登録しておく必要があります。クライアント一覧画面では、登録済みのクライアントを一覧表示する他、新規クライアントの登録、登録済みクライアント情報の編集などを行います。

■ クライアント一覧画面



- ① 新規にクライアントを登録する場合にクリックします。クリック後、クライアント編集画面へ移動します。
- ② 1ページに表示する件数を設定します。リストから表示件数を選択し、更新ボタンをクリックすると画面が更新されます。
- ③ 現在表示しているページ、総ページ数、クライアントの総数を表示します。
- ④ ページ移動のリンクです。最初のページ、最後のページ、次のページ、前のページへ移動できるようになっています。
- ⑤ リストの表示方法を各項目でソートして表示する場合に使用します。ソートしたい項目をクリックすることで昇順・降順でリストを再表示します。
- ⑥ 登録されたクライアントの詳細確認・更新・削除を行なう場合は、ここをクリックします。クリック後、クライアントの編集画面に移動します。

■ クライアントの編集画面



① ボタン

新規クライアントの場合、[追加]、[キャンセル]ボタンが表示されます。既存クライアントを編集している場合、[更新]、[削除]、[キャンセル]ボタンが表示されます。

② クライアント情報

クライアント情報の入力、表示領域です。名前は必ず入力してください。

③ IPアドレス

クライアントの IP アドレスを入力します。

④ カテゴリ

カテゴリを選択します。

編集終了後、クライアント一覧画面へ戻ります。

3-8 クライアントの監視

クライアントの状態を一覧表示します。このページでは表示のみ行い、クライアントの制御などは行えません。またクライアントを監視するには、あらかじめクライアントの登録を行ってください。

■ クライアントの監視画面

The screenshot shows the 'クライアントの監視' (Client Monitoring) page in the MEDIAEDGE Server Console. The page displays a table of clients with the following data:

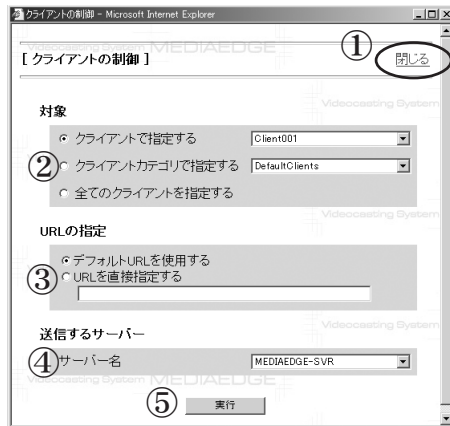
ID	名前	IPアドレス	接続状態	再生状態	再生内容	接続サーバー
1	Client001	100.16.1	On	On		
2	Client002	100.16.1	On	On		
3	Client003	100.16.2	Off	Off		
4	Client004	100.16.3	On	On		
5	Client005	100.16.4	On	On		
6	Client006	100.16.5	On	On		
7	Client007	100.16.6	Off	Off		
8	Client008	100.16.7	On	On		
9	Client009	100.16.8	On	On		

- ① 1ページに表示するクライアントの件数を選択します。選択後、更新ボタンを押してください。
- ② 一覧を各項目でソートします。項目名をクリックする度に昇順・降順が切り替わります。
- ③ 総ページ数、現在表示しているページ番号、クライアントの総数です。
- ④ 一覧画面が2ページ以上ある場合、ここをクリックすることで他のページへ移動します。
- ⑤ ページの自動更新間隔を設定します。
- ⑥ ページ自動更新までの残り時間です。
- ⑦ ページを強制的に更新します。

3-9 クライアントの制御

登録されているクライアントの制御を行います。あらかじめクライアントの登録を行ってください。

■ クライアントの制御画面

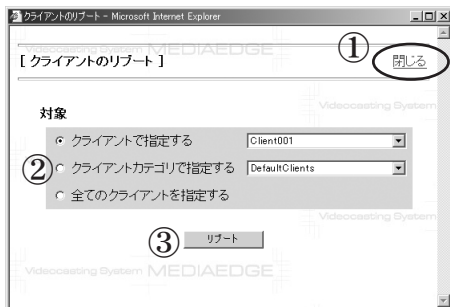


- ① クライアントの制御画面を閉じます。
- ② 制御するクライアントを選択します。
- ③ クライアントが再生する RTSP URL を指定します。[デフォルトURLを使用する]を選択した場合、各クライアントカテゴリで設定したデフォルトRTSP URL が使用されます。[URLを直接指定する]を選択し、RTSP URL を入力した場合は、その RTSP URL が使用されます。
- ④ ストリームサーバーを選択します。
- ⑤ クライアントの制御を実行します。

3-10 クライアントのリポート

登録されているクライアントのリポートを行います。あらかじめクライアントの登録を行ってください。

■ クライアントのリポート画面

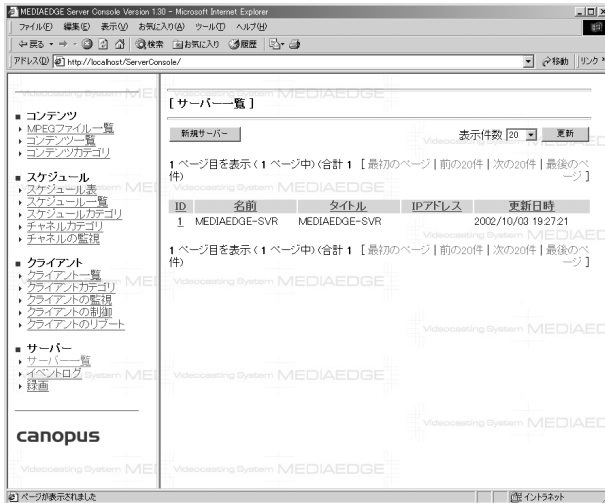


- ① クライアントのリポート画面を閉じます。
- ② リポートするクライアントを選択します。
- ③ 指定したクライアントをリポートします。

3-11 サーバー

MEDIAEDGE システムで使用するストリームサーバーの登録および設定を行います。サーバーの登録はインストール時に行われますが、2 台目以降のサーバーを追加する場合はこの画面で登録してください。

■ サーバー一覧画面



サーバーの追加

[新規サーバー] ボタンをクリックします。

サーバーの編集

編集を行うサーバー ID をクリックします。

IPアドレスの設定

設定を行う IP アドレスをクリックします。

■ サーバーの編集画面



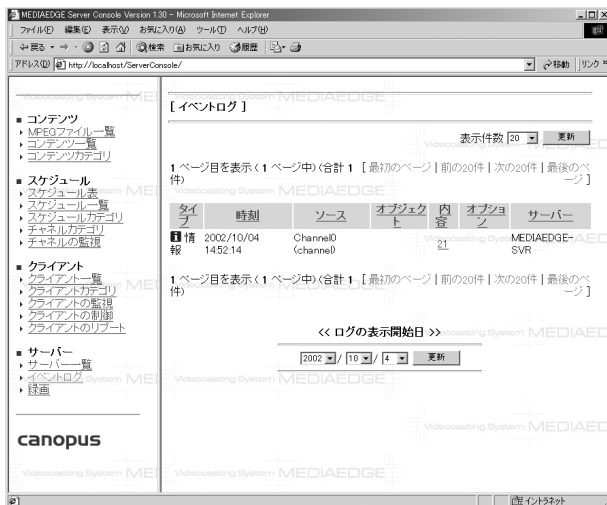
- ① 新規にサーバーを追加する場合、[追加]、[キャンセル]ボタンが表示されます。登録済みの内容を編集している場合、[更新]、[削除]、[キャンセル]ボタンが表示されます。
- ② サーバー情報の入力、表示領域です。名前はコンピュータ名を必ず入力してください。DNSサーバーが存在しない場合には、サーバーのIPアドレスを指定してください。

編集終了後、サーバー一覧画面へ戻ります。

3-12 イベントログ

MEDIAEDGE システムのイベントログを表示する画面です。

■ イベントログ画面



タイプ

[i]情報 [!]警告 [e]エラーの3つのイベントの種類をアイコンと共に表示します。

時刻

イベント発生時の時刻を表示します。

ソース

発生したイベントの場所を表示します・チャンネルもしくはクライアントのどちらかになります。

オブジェクト

クライアントが要求したコンテンツ名等の情報を表示します。

内容

イベント内容を表示します。詳細は番号をクリックすると表示されます。表示される内容は次頁の通りです。

- 1 : クライアントが再生を開始しました。
- 2 : クライアントが再生を停止しました。
- 21 : チャンネルが開始しました。
- 22 : チャンネルが停止しました。
- 23 : チャンネルの開始時にエラーが発生しました。
- 31 : スケジュールが開始しました。
- 32 : スケジュールが終了しました。
- 41 : コンテンツが開始しました。
- 42 : コンテンツが終了しました。
- 43 : ファイル再生でエラーが発生しました。

31, 32, 41, 42は、サーバー設定ツールの「レベル3の情報もログに記録する出力する」にチェックが付いていない場合には出力されません。

オプション

その他情報がある場合に表示します。

ログの表示開始

ここで指定した日付以降のログを表示します。日付を指定した後に[更新]をクリックしてください。

3-13 録画

MEDIAEDGE の現在の状態の確認、開始や停止を行う画面です。当社製 MVR-D2000 との併用時に録画機能は使用可能になります。

■ 録画面面



録画を開始するには、下側のフレームでサーバー名、ボード ID を選択および録画ファイル名(フルパス)を入力して[録画開始]をクリックします。録画が正常に行われている場合は、上側のフレームにその状態が表示されます。録画を終了するには、上側のフレームにある一覧から停止したい項目の[停止]をクリックします。このページも他の監視ページ同様自動更新されます。

録画は、1 サーバーにつき 5 つまでしか行えません。

録画中にエラーが発生した場合、「状態」にエラー内容を表示して録画を停止するようになりました。表示されるエラーは以下のとおりです。

- ・ 指定されたパスが見つかりません。
- ・ アクセスが拒否されました。
- ・ 指定されたドライブが見つかりません。
- ・ ディスクが一杯です。
- ・ ネットワークに関するエラーが発生しました。
- ・ ディスクの空き容量が足りません。
- ・ 指定されたパスは無効です。
- ・ エラー (エラーコード)

4

サーバー設定ツール

[スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]と進んで、[サーバー設定ツール]を選択するとデータベースサーバーの設定内容の確認やライブビデオ(当社製MVR-D2000が必要)などに関する設定を行うことができます。

■ サーバー設定ツール画面

【データベース】

コンピュータ名

ストリームサーバーが使用するデータベースの存在するコンピュータ名を指定します。デフォルトは、現在のコンピュータ名です。

プロバイダの種類

SQLLEDBを設定してください。

データベース名

ストリームサーバーが使用するデータベースとして作成されたデータベース名を入力してください。デフォルトは、インストール時に設定したデータベース名 (MEDIAEDGE_DB) です。

接続ユーザー名

ストリームサーバーがデータベースにアクセスするためのユーザー名を指定します。デフォルトは、[MediaEdgeServer] です。

パスワード

接続ユーザー名で指定したユーザー名でデータベースにアクセスする時に使用するパスワードを指定します。

RTSPのサーバー名のかわりにコンピュータ名を使う

ストリームサーバーがデータベースにコンテンツを参照するとき、RTSP-URL内のサーバー名を使わずに、自分自身のコンピュータ名を使うようにします。RTSP-URL内のサーバー名をコンピュータ名ではなく、IPアドレスで記述している場合には、チェックを付けてください。

登録されたクライアントのみ有効

データベースのクライアント一覧に登録されているクライアントからのみ再生要求を受け付けます。

イベントログを出力する

データベースにログ情報を記録するかどうかを指定します。必要でない場合はチェックをはずしてください。

レベル3の情報もログに記録する

データベースのログ機能で、MPEGファイルの読込開始／終了といったイベントも出力します。通常は、チェックを付けないことを推奨します。

ログの保存日数

ログ情報を保存する日数を指定します。0を指定すると、いつまでも保存します。

【スケジュールレコーディング】

ファイルの保存先

スケジュール配信の設定でスケジュールタイプを[録画のみ行う]・[配信と録画を行う]のいずれかを選択した場合には、録画ファイルの保存先を設定します。録画ファイルは、この指定したフォルダに[チャンネル名]_[YMMDDrmsg].m2pというファイル名で保存されます。

【マルチキャスト送信】

デフォルトで使用するインターフェイス

マルチキャスト送信を行う場合、デフォルトとなる送信先のネットワークカードのIPアドレスを指定します。このアドレスは、サーバーコンソールの[チャンネルの編集]-[ネットワークインターフェイス]で「既定」を選択したときに使用されるアドレスとなります。

パケット生存時間

マルチキャストパケットの生存時間(Time To Live)を設定します。必要最小限の大きさにすることを推奨します。

【ライブビデオ】

ストリーム数

ストリームサーバーでライブビデオ配信に使用するMVR-D2000の枚数を指定します。実際にPCにセットされ、ビデオ信号が入力されているMVR-D2000の枚数を指定してください。この設定が[0]の場合には、ライブビデオは使用できません。

パラメータ

ライブビデオのエンコードパラメータを設定する[Live Video Parameter]ダイアログを表示します。

【放送規格】

NTSC/PAL

放送規格(ビデオスタンダード)をNTSCもしくはPALのどちらか選択します。

■ ライブビデオの設定

- 1 ストリーム数およびビデオスタンダード(放送規格)を設定し、[パラメータの設定]をクリックしてください。



- 2 設定を行うストリームの[設定]をクリックしてください。

ダイアログは、左側から MVR-D2000 の ID、主要なパラメータを表しています。



- 3 設定完了後、[OK]をクリックしてください。



・ストリーム

[エンコードボード]

現在の仕様では、MVR-D2000に固定です。

[入力]

エンコードボードのビデオ入力の種類を選択します。自動を選択した場合は、PCの起動時にビデオ信号が入力されていることが必要です。

[ストリーム形式]

ライブビデオを配信する際のストリーミング形式を選択します。

・ビデオ

【符号化形式】

データの符号化形式を固定ビットレート (CBR) もしくは、可変ビットレート (VBR) のどちらかから選択します。

【平均ビットレート】

[CBR] 選択時には、平均 [ビットレート] を設定します。[VBR] を選択した場合は、[平均ビットレート] と [最大ビットレート] を設定します。ビットレートを高くすると画質は上がりますが、ネットワークの負荷が増します。

【最大ビットレート】

符号化形式で [VBR] を選択した場合のみ設定します。

【アスペクト比】

アスペクト比を設定します。

・オーディオ

【サンプリング周波数】

オーディオ信号のサンプリング周波数を設定します。

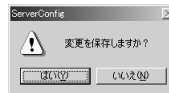
【チャンネル】

オーディオ信号のチャンネル方式を設定します。

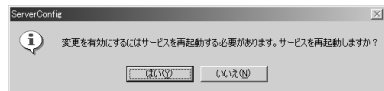
4 手順 2. の画面に戻りますので、[閉じる] をクリックしてください。

5 手順 1. の画面に戻りますので、[OK] をクリックしてください。

6 [はい] をクリックしてください。
設定が保存されます。



7 [はい] をクリックしてください。
設定を有効にするため、再起動します。



8 [OK] をクリックしてください。



📖 注意!

サービス再起動時には、クライアントで再生中のコンテンツは全て停止します。その後スケジュール再生を行っていたクライアントのみ、映像が再開します。VOD は再開しませんので、メニュー画面からコンテンツを再び選択してください。

5 STB 設定ツール

STB設定ツールは、DHCPサーバーがない場合のMEDIAEDGE-STBの動作設定を行うツールです。DHCPサーバーがある場合は、MEDIAEDGE-STBは設定ツールで設定した値にDHCPサーバーから得られた情報が上書きされた状態で起動します。STB設定ツールは、MEDIAEDGE-STB本体にあるACTのLEDがついている時のみ実行可能です。

■ 起動方法

ツールの起動は、[スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]と進んで、[STB設定ツール]を選択するとIPアドレスを入力する画面が表示されます。設定したいMEDIAEDGE-STBのIPアドレスを入力してください。MEDIAEDGE-STBのIPアドレスがわからない場合は、以下の方法で確認してください。



● DHCPサーバー（設定時だけの仮のDHCPサーバー）を導入する

DHCPサーバーの導入方法は、本節の最後の「●設定ツールを使ったら起動しなくなった場合」を参照してください。

[スタート]メニュー→[管理ツール]→[DHCP]と進んで、DHCPの設定画面を表示します。次に左側のフレームにあるスコープ[10.0.0.0]項目の左側の+ボタンをクリックし、ツリー表示から[アドレスのリース]をクリックします。右のフレームに割り当てられたIPアドレスの一覧が表示されますので、[一意なID]項目が目的のMEDIAEDGE-STBのMACアドレスと一致するものを探します。

● その他の方法

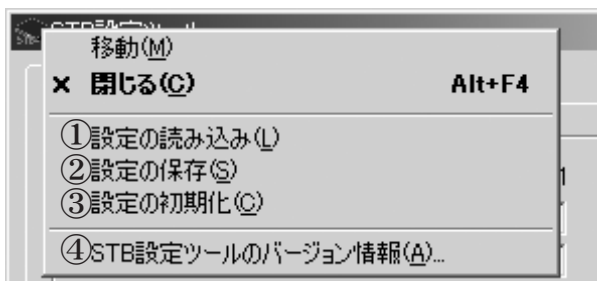
STB設定ツールでIPアドレス設定を行ったことがある場合は、1. "ARP -a" コマンドで探す、2. 考えられるIPアドレスに"ping" コマンドを送るなどして探し出します。

📌 ポイント

DHCPサーバーを利用するときは、DHCPのベンダ固有情報などのオプションを使ってSTBを初期化するようにしてください。その場合のMEDIAEDGE-STBごとの個別設定は、STB設定ツールを使うのではなく、DHCPの予約機能を使い、個別のベンダ固有情報を設定してください。

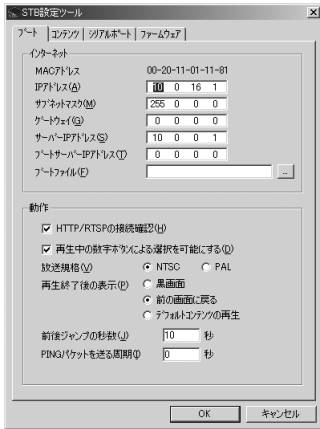
■ システムメニュー

タイトルバー上で右クリックすると表示します。



- ① 設定の読み込み
設定ファイルを読み込みます。
- ② 設定の保存
設定内容をファイルに保存します。
- ③ 設定の初期化
設定値を初期値に戻します。初期化ボタンの項目もご参照ください。
- ④ STB設定ツールのバージョン情報
STB設定ツールのバージョンを表示します。

■ ブートタブ



MAC アドレス

MEDIAEDGE-STBのMACアドレス(ケース裏面に記載)を表示します。

IP アドレス

割り当てる IP アドレスを「.」(ピリオド)で区切って入力します(必須)。

サブネットマスク

ネットワーク識別のためのサブネットマスクを入力します(必須)。

ゲートウェイ

ローカルネットワーク以外のアドレスに送信するためのルーターのアドレスを入力します。

サーバー IP アドレス

DNSサーバーがない時のサーバーの IP アドレスを入力します。

ブートサーバー IP アドレス

リモートブートのための TFTP サーバーの IP アドレスを入力します。

ブートファイル

リモートブートに使うファイルをフルパスで入力します。

HTTP/RTSP の接続確認

これにチェックを付けると、メニュー表示に失敗したときにリトライします。

再生中の数字ボタンによる選択を可能にする

これにチェックを付けると、コンテンツ再生中に数字ボタンを押した時、前回表示したメニューの該当するリンクを選択します。

放送規格

放送規格(NTSC/PAL)の選択をします。

再生終了後の表示

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 黒画面 | なにも表示しません。 |
| 前の画面に戻る | 再生前に表示していたメニューを表示します。 |
| デフォルトコンテンツの再生 | デフォルトコンテンツを再生します。 |

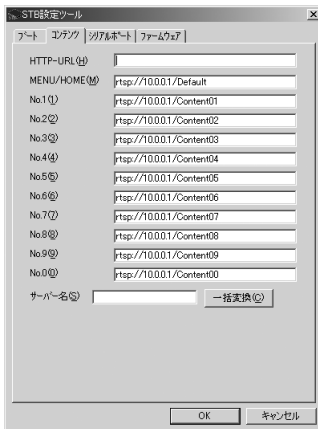
前後ジャンプの秒数

前後ジャンプの秒数を入力します。

PING パケットを送る周期

設定の必要はありません。デフォルトの[0]のままでご使用ください。

■ コンテンツタブ



HTTP-URL

メニューページをURLで入力します。

MENU/HOME

デフォルトコンテンツ(MENU/HOMEを押したときに表示されるコンテンツ)をRTSP-URLで指定します。

No. 1～No. 0

リモコンの数字キーを押したときに表示されるコンテンツをRTSP-URLで指定します。この項目はメニューレス(HTTP-URLが入力されていない)の場合でのみ有効です。初期値では10.0.0.1のContent01～Content00ですが、これを任意のサーバーおよびコンテンツに変更できます。

一括変換ボタン

例えば、初期値ではNo. 1のキーには[rtsp://10.0.0.1/Content01]が指定されています。ストリームサーバーが[10.1.0.1]であった場合、一括変換ボタンの横にある[サーバー名]のエディットボックスに[10.1.0.1]を入力し、一括変換ボタンを押すと、全てのrtsp-URL内の[10.0.0.1]という記述が[10.1.0.1]に変換されます。

■ シリアルポートタブ



シリアル接続キーボードを使う

MEDIAEDGE-STB オプションのシリアルキーボードを使用する場合は、チェックを付けます。

IPアドレス

シリアルポート制御を行うPCのIPアドレスを入力します。シリアルポート制御を行わない場合は、「0.0.0.0」を指定してください。

ポート番号

シリアルポート制御に使うポート番号を入力します。

プロトコル

シリアルポート制御に使うプロトコルを選択します。

ボーレート

シリアルポートの通信速度を選択します。

文字コード

文字コード(7ビット・8ビット)を選択します。

ストップビット

ストップビットを選択します。

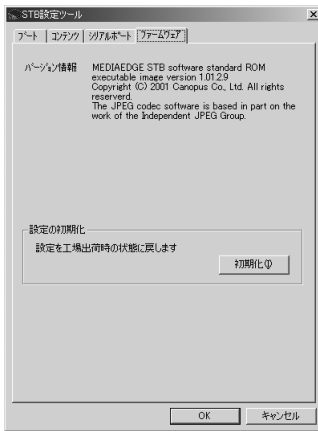
パリティ

パリティを選択します。

フロー制御

フロー制御を選択します。

■ ファームウェアタブ



バージョン情報

MEDIAEDGE-STBの現在動作中のソフトウェアのバージョン情報を表示します。現在MEDIAEDGE-STBが標準ブートかリモートブートを調べることができます。リモートブートの場合は、[boot executable image]という文字列が入り、標準ブートの場合は、[ROM executable image]となります。

初期化ボタン

MEDIAEDGE-STBの設定を工場出荷時の状態(初期値)に戻します。[初期化]のボタンをクリックすると、各設定に初期化用の設定値が入力されますので、設定を変更せずそのまま[OK]をクリックすると工場出荷時の状態になります。

■ 終了と再起動

[OK] ボタンをクリックすると、設定値を MEDIAEDGE-STB に転送します。

MEDIAEDGE-STB を再起動するかどうかを確認する画面が表示されますので、ここで[はい]を選ぶと転送後 MEDIAEDGE-STB をリブートします。[いいえ]を選択すると転送のみで、MEDIAEDGE-STB をリブートしません。

● 設定ツールを使ったら起動しなくなった場合

MEDIAEDGE-STB に誤った IP アドレスを指定した、もしくは HTTP-URL に存在しないアドレスを記述してしまったなどが原因で画面が表示されず、本体の ACT ランプもつかない状態に陥った場合は、DHCP サーバーを導入し、仮起動させる必要があります。

1. DHCP サーバーのインストール

コントロールパネルの[アプリケーションの追加と削除]-[Windows コンポーネントの追加と削除]-[インターネットインフォメーションサービス (IIS)] を選択し、[詳細]をクリックしてください。サブコンポーネントの一覧から[ネットワークサービス]を選択し「詳細」をクリックします。サブコンポーネントの一覧から[動的ホスト構成プロトコル(DHCP)]にチェックを付け、[OK] をクリックして追加インストールを行います。

2. DHCP サーバーの設定

設定は、『MEDIAEDGE User' s Guide』の第3章「3-5. ベンダ固有情報設定ツールの起動」、「3-6. DHCP ベンダ固有情報の仮設定」を参照してください。

3. MEDIAEDGE-STB のリセット

「3-7. STB を仮接続し、IP アドレスを調べる」を参照して IP アドレスを調べ、STB 設定ツールを起動して誤った設定を直します。

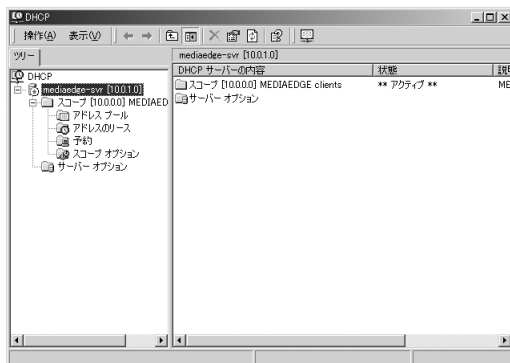
DHCP サーバーを停止させます（管理ツール→サービスでリストの中から DHCP Server を選択して Stop をクリックします）。

STB 設定ツールを終了し、MEDIAEDGE-STB を再起動します（再起動は、DHCP サーバーを停止させた後であれば、設定ツールを終了するのはいつでも構いません。再起動後に DHCP サーバーを停止した場合は、再度 MEDIAEDGE-STB 本体の Reset スイッチを押してください）。

6 DHCP の設定

DHCPの設定は、[スタート]メニューから[プログラム]→[管理ツール]→[DHCP]を選択することで、内容の確認や変更を行うことができます。

『MEDIAEDGE-SVS Installation Guide』 にしたがってインストールを行った場合には、下図の画面が表示されます。



アドレスのプール

端末に割り当てる IP アドレスの範囲(スコープ)を表示、設定します。

アドレスのリース

実際に割り当てられている(リースされている) IP アドレスが一覧表示されます。端末の MAC アドレスは、「一意な ID」として表示されます。IP アドレスは割り当て開始からリース期間が経過するまで保持されるので、端末を切断してもしばらく表示が残ります(リース期間内)。リース期間内に再接続した端末には、同じ IP アドレスが割り当てられます。

予約

特定の機器に対してあらかじめ決めた IP アドレスを割り当てるため、MAC アドレスと IP アドレスの対を設定します。また、個々の IP アドレスに対して異なる DHCP オプションを設定する場合は、ここで設定します。

スコープオプション

スコープに属する全端末に共通の DHCP オプションを設定します。

DHCP オプションについて

DHCP サービスで IP アドレスと一緒に引き渡すオプション情報です。一般的な DHCP オプションとして次のものがあります。

- DNSサーバーのアドレス
- デフォルトゲートウェイ（ルーターのアドレス）
- ブートサーバーのホスト名
- ブートファイル名
- ベンダ固有情報

MEDIAEDGE-STBを使用する場合に、STBの動作設定をベンダ固有情報を利用して行います。スコープに属する全ての端末に対して同一のDHCPオプションを設定する場合は、「スコープオプション」の項目に設定します。個々の端末に対して異なるDHCPオプションを設定する場合は「予約」を使用し、IPアドレスと一緒にDHCPオプションを個別に設定します。MEDIAEDGEでは、通常は全てのMEDIAEDGE-STBに対して共通の設定を行いますが、「予約」を使用し、MEDIAEDGE-STBごとにメニュー画面を変える等、異なる動作をさせることもできます。

ベンダ固有情報の設定について

DHCPの設定のうちベンダ固有情報については、このコンソールで入力することもできますが、設定を容易にするため別途設定ツールを用意しています。これについては、次項の「⑦ベンダ固有情報設定ツール」をご覧ください。

リモートブートについて

[ブート サーバーホスト名]および[ブート ファイル名]が指定されている場合、MEDIAEDGE-STBはそれらを参照してリモートブートを行います。リモートブートを利用する場合は、次の手順で設定を行います。

1. 「スコープオプション」もしくは「予約」の上で右クリックし、ポップアップメニューから[オプションの構成]を選択します。
2. [066 ブート サーバーホスト名]にチェックを付け、[文字列の値]へMEDIAEDGE-SVSをインストールしたコンピュータ名もしくはIPアドレスを入力します。『MEDIAEDGE-SVS Installation Guide』にしたがってインストールを行った場合には、次のように入力します。

```
mediaedge-svr. localdomain
```

3. [067 ブート ファイル名]にチェックを付け、[文字列の値]へ以下のファイルパスを入力してください。

C:¥MEDIAEDGE-STB¥boot¥stbboot. mot

MEDIAEDGE-SVS のインストール時に、このフォルダにブートファイル (ファームウェア) がコピーされます。

MEDIAEDGE-SVSのインストール先が異なるなどパスが違う場合は、お使いの環境に合わせて記述してください。

[スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]と進んで、[ベンダ固有情報設定ツール]を選択するとMEDIAEDGE-STBに対してDHCPサーバーのオプション設定であるベンダ固有情報の設定変更を行うことができます。

- DHCPのオプション設定の中のベンダ固有情報をGUIで編集
サーバーオプション、スコープオプション、予約のオプションに対応します。
ベンダ固有情報の設定を継承します(STB設定ツールで設定=親オプションをそのまま使う/オプション設定をする/オプションを全く設定しない)
デフォルトコンテンツをデータベースから選択します。
- リースされたIPアドレスを予約に追加
リースされたIPアドレスをMACアドレスを入力することなしに一括して予約に追加します。
- 設定のバックアップ・リストア
DHCPの設定を保存・復元します。
- DHCPサーバーで認識されたMEDIAEDGE-STBをMEDIAEDGE データベースのクライアントリストに追加
DHCPのIPアドレスのリース情報とMEDIAEDGE データベースのクライアントリストを比較し、リストに入っていないMEDIAEDGE-STBがあれば、それをクライアントリストに追加します。

■ ベンダ固有情報設定ツールに関わる制限事項

ベンダ固有情報設定ツールで設定の更新を行った直後にMEDIAEDGE-STBの電源を入れた場合、MEDIAEDGE-STBの起動に1～2分かかることがあります

ベンダ固有情報設定ツールで複雑な設定を行った場合、DHCPサーバーが不安定になる場合があります。万が一のためにコマンドメニューの設定の保存機能を使うことを推奨します。

📌 ポイント

[イニシャルコンテンツ]と[デフォルトコンテンツ]は、メニューページを表示する場合には同一のものです。

■ ベンダ固有情報設定ツールのメイン画面



オプションの選択

編集するオプションを選択する場合は、左のツリーウィンドから該当するオプションを選択します。

コンピュータのアイコンがサーバーオプション、青いHUBのアイコンがスコープオプション、青いSTBが予約のオプションに相当します。また、アイコンに重なって歯車が表示される場合は、そのオプションが設定されていることを意味しています。歯車が表示されていない場合でも、オプション設定が表示されているものは、上位でオプション設定されていることを意味します(例：予約のオプションが設定されていない場合は、スコープオプションまたはサーバーオプションの設定が有効となります)。

📌 ポイント

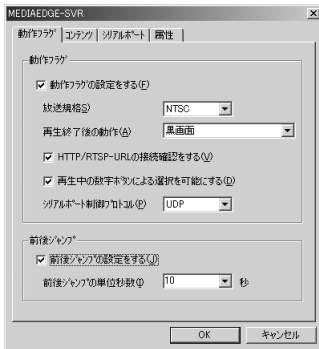
オプションは基本的にはスコープオプションで設定し、個別設定したい場合のみ予約のオプションで設定します。

オプションの編集

選択したオプションを編集する場合は、ダブルクリック、右クリックから編集、右の画面に移動してダブルクリック、編集ボタン、コマンドメニューから編集、などの操作で設定ダイアログが表示されます。

設定ダイアログでチェックが入っていない項目は、デフォルト値(=STB設定ツールで設定した値)となります。

■ 動作フラグタブ



動作フラグの設定をする

動作フラグの設定を有効にする場合は、チェックを付けます。

放送規格

ビデオスタンダード (NTSC/PAL) を設定します。

再生終了後の動作

コンテンツ再生終了後の動作を選択します。

黒画面…黒画面を表示します。

前のメニューを表示する…コンテンツ再生前のメニュー画面に戻ります。

イニシャルコンテンツの再生…RTSP-URLで指定したコンテンツを再生します。

HTTP/RTSP-URL の接続確認をする

接続を確認する場合は、チェックを付けます。

再生中の数字ボタンによる選択を可能にする

Mpeg ファイルの再生中に数字ボタンの入力を有効にする場合は、チェックを付けます。

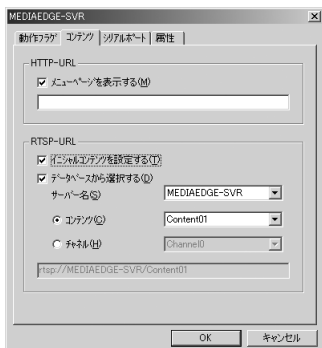
前後ジャンプの設定をする

ジャンプ機能のスキップ秒数を設定する場合は、チェックを付けます。

前後ジャンプの単位秒数

リモコンの "*" "#" を 1 回押すごとにスキップする秒数を設定します。

■ コンテンツタブ



メニューページを表示する

HTMLメニューを有効にする場合は、チェックを付けます。チェックを付けた場合、下にあるテキストボックスにHTMLメニューのホームページを指定します。

デフォルトコンテンツを設定する

デフォルトコンテンツを指定する場合は、チェックを付けます。

データベースから選択する

デフォルトコンテンツの指定にMEDIAEDGE データベースを利用する場合は、チェックを付けます。チェックを付けていない場合もしくはデータベースを参照できない場合は、画面の一番下にあるテキストボックスが有効となります。

サーバー名

ストリームサーバー名を選択します。

コンテンツ

コンテンツを選択します。

チャンネル

チャンネルを選択します。

■ シリアルポートタブ



シリアルポートの設定をする

シリアルポートの設定を有効にする場合は、チェックを付けます。シリアルポートの制御を行わない場合は、チェックを付けしないでください。

シリアル接続キーボードを使う

MEDIAEDGE-STB オプションのシリアルキーボードを使用する場合は、チェックを付けます。

サーバー IP アドレス

シリアルポート制御サーバーの IP アドレスを指定します。

ポート番号

シリアルポート制御サーバーのポート番号を指定します。

ボーレート

シリアル転送速度を選択します。

文字コード

文字コード(7bit/8bit)を指定します。

ストップビット

ストップビット(1/2)を指定します。

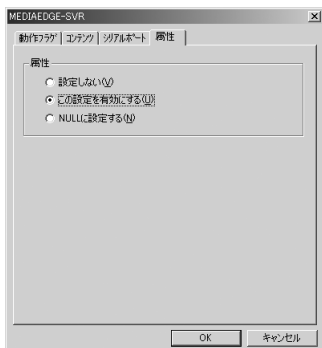
パリティ

パリティ(Even/Odd/なし)を指定します。

フロー制御

フロー制御(XON/XOFF RTS/CTS なし)を指定します。

■ 属性タブ



設定しない

ダイアログで設定した項目を使わず、親オプションの設定を使う場合は、チェックを付けます。例えば、予約のオプションでこの属性にした場合は、スコープオプション(スコープオプションが設定されていなければサーバーオプション)の設定値が使用されます。

この設定を有効にする

ダイアログで設定した項目を有効にする場合は、チェックを付けます。

NULLに設定する

ベンダ固有情報によるMEDIAEDGE-STBの初期化を行わない場合は、チェックを付けます。STB設定ツールの設定値でMEDIAEDGE-STBは初期化されます。

■ 保存と再起動

ベンダ固有情報設定ツールではベンダ固有情報の設定内容を有効にするためにサービスの再起動が必要となります。保存と再起動はコマンドメニューから[設定を更新する]を選択するか、ツールバーの[更新]ボタンを押します。

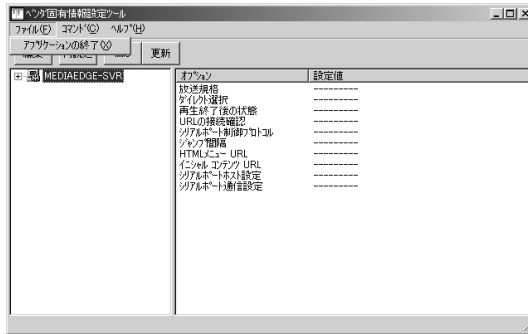
■ リロード

DHCPサーバーの情報は更新処理を行っていないため、外部でDHCPの操作を行った(DHCP管理コンソールなど)場合は、情報のリロードが必要となります。リロードは、キーボードの[F5]キーを押すか、コマンドメニューから[最新の情報を読み込む]を選択もしくはツールバーの再読み込みボタンを押します。

■ DHCP管理コンソールを開く

ベンダ固有情報以外のDHCP設定はWindows 2000 Server 付属のDHCP管理コンソールを利用してください。管理コンソールを開くには、コマンドメニューの[管理コンソール]かツールバーの[MMC]ボタンを押します。

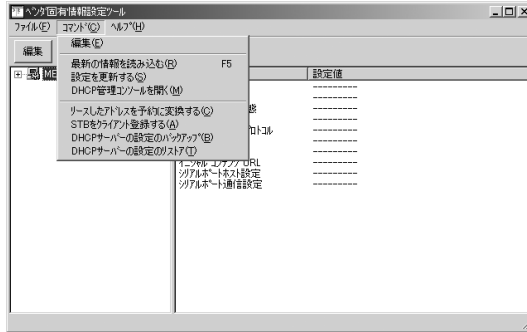
■ ファイルメニュー



アプリケーションの終了

ベンダ固有情報設定ツールを終了します。

■ コマンドメニュー



編集

選択されている項目を編集します。ツールバーにある[編集]ボタンと同機能です。

最新の情報を読み込む

現在の情報を破棄し、最新のDHCPサーバーの情報を読み込みます。ツールバーにある[再読み込み]ボタンと同機能です。

設定を更新する

編集した情報で、DHCPサーバーを設定します。ツールバーにある[更新]ボタンと同機能です。

DHCP管理コンソールを開く

DHCP管理コンソール(コントロールパネル-管理ツール-DHCPで開かれる設定ツール)を表示します。ツールバーにある[MCC]ボタンと同機能です。

リースしたアドレスを予約に追加する(拡張機能)

DHCPでリースしたアドレスで予約されていないものを予約に追加します。

予約は次の情報で登録されます

予約名	MAC アドレス(例: 002011011006)
Description	なし

STBをクライアント登録する(拡張機能)

DHCPサーバーからリース(予約も含む)を受けたMEDIAEDGE-STBでMEDIAEDGEデータベースのクライアントリストに登録されていないものを登録します。クライアントは次のような情報で登録されます。

クライアント名 "STB" + MAC アドレス下6桁(例: STB011006)

同一クライアント名が存在していれば(数字)が末尾につく

クライアントタイトル IP アドレス (例: 10. 2. 0. 1)

クライアントコメント MAC アドレス (例: 002011011006)

クライアントカテゴリは定義済みのものをコンボボックスからスコープごとに選択します。

DHCPサーバーの設定のバックアップ(拡張機能)

DHCPサーバーの設定をファイルに保存します。

DHCPサーバーの設定のリストア(拡張機能)

DHCPサーバーの設定をファイルから読み込みます。

■ 拡張機能の使用例

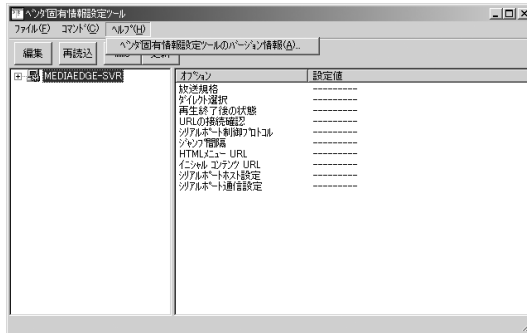
他のマシンに環境を移動する

- ① 元のPCでベンダ固有情報設定ツールを起動し、[コマンド]メニューから [DHCPサーバーの設定のバックアップ] を選択してファイルを保存します。
- ② 作成されたファイルを他のPCにコピーしてベンダ固有情報設定ツールの [コマンド]メニューから [DHCPサーバーの設定のリストア] を選択します。

1台のMEDIAEDGE-STBだけ他のMEDIAEDGE-STBとは違うメニューを表示させる

- ① 全てのMEDIAEDGE-STBが正常に再生できる状態でベンダ固有情報設定ツールを起動し、[コマンド]メニューから [リースしたアドレスを予約に変換する] を選択して MEDIAEDGE-STB を予約に取り込みます。
- ② 取り込んだ直後は、予約した IP アドレスのオプションは設定されていない状態(左側のツリーに歯車マークがついていない)になっていますので、設定したい予約 (MEDIAEDGE-STB 裏面の MAC アドレスとツリー中の MAC アドレスを比較する) にカーソルを合わせ、編集します。
- ③ コンテンツタブの [HTTP-URL のメニューページを表示する] にチェックを入れ、個別の HTTP-URL を記述します。

■ ヘルプメニュー



ベンダ固有情報設定ツールのバージョン情報

バージョン情報を表示します。

8

登録情報抽出ツール

[スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]と進んで、[登録情報抽出ツール]を選択すると、ある環境で作成されたスケジュールやコンテンツを他の環境に引き継ぎたい場合に必要なコンテンツや定義等の設定内容を抽出することができます。抽出した設定内容は、コンテンツインストーラーと組み合わせることで新たな環境にその設定を引き継ぐことができます。

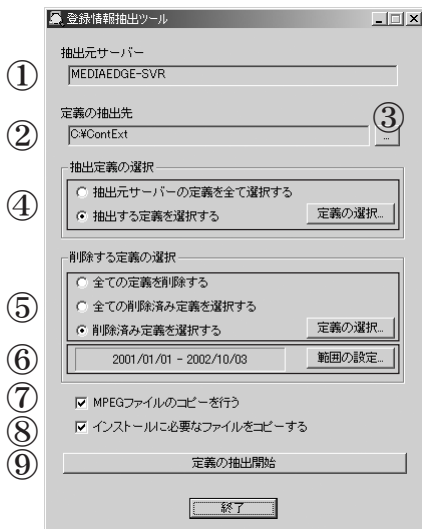
● 抽出する定義・ファイル・モジュール

- ・登録する(抽出した)定義等が書き込まれたSQLファイル(setup.sql)
- ・登録する定義に必要なMpegファイル(抽出しないことも可能)
- ・抽出した定義をインストールするのに必要なソフトウェアモジュール(選択)。

定義(SQLファイル)は、特定のフォルダ(指定可能)に作成され、MpegFileのコピーを行う場合は出力先フォルダ内の[Mpeg]フォルダ”にコピーされます。このフォルダ内のSQLファイルとMpegフォルダが定義の配布に必要なモジュールとなります。

※ 但し、抽出できる定義・ファイルはツールを実行したPC上のものに限りませ

■ 登録情報抽出ツールのメイン画面



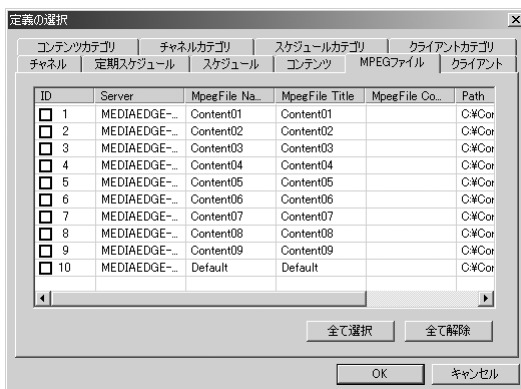
【起動直後の画面】

- ① 定義の抽出を行う対象となるサーバー名です。
- ② 定義の書き出し先(作業フォルダ)のパス名を入力します。ここで指定された場所に SQL ファイルや MpegFile が書き出されます。
- ③ ② [定義の抽出先] のパスを選択するダイアログを表示します。
- ④ 抽出する登録済み定義の選択を行います。出力元サーバーの定義を全て選択した場合、そのサーバー名をもった全ての定義が抽出されます。この場合、[定義の選択] は選択できません。出力する定義を選んだ場合、[定義の選択] で抽出する定義を選択します。
- ⑤ 抽出元ですでに削除された定義をインストール先でも削除する定義の選択を行います。
- | | |
|------------------|-------------------------------|
| [全ての定義を削除する] | インストール先の全ての定義を削除します。 |
| [全ての削除済み定義を選択する] | 抽出元で削除が行われた定義をすべて削除します。 |
| [削除済み定義を選択する] | 削除済みの定義の中から削除したい定義を選択して削除します。 |
- ⑥ [全ての削除済み定義を選択する]、[削除済みの定義を選択する] の範囲を指定します。ここで指定された日付の範囲内で選択が行われます。
- ⑦ 抽出する定義内に MpegFile が存在する場合にファイルのコピーを行うもしくは行わないを選択します。
- ⑧ 抽出したデータのインストールに必要なファイルを抽出先フォルダにコピーします。コピーされるのは、[ContInst.exe]、[medb.dll]、[MvrFile.dll]、[autorun.inf] の4ファイルです。このオプションを選択した場合、抽出先フォルダ内のファイルをそのままCD-Rのルートに書き込むだけで自動再生でインストールが行われるCDが作成できます。
- ⑨ 抽出を開始します。実行すると抽出先フォルダの内容は、全て削除されますのでご注意ください。



【範囲の設定】

削除する定義の選択を行う場合、選択できる範囲を設定します。



【定義の選択】

選択可能な定義の一覧がタブページで種類ごとに表示されます。選択するには、各リストの先頭にあるチェックボックスにチェックを付けます。

抽出定義の選択の場合、ある定義にチェックをつけると、その定義を構成するために必要な他の定義にも選択チェックが付きます。例えばスケジュールを選択した場合、必要なコンテンツとチャンネルにもチェックが付きます。

削除する定義の選択の場合は、チェックした項目のみ選択されるだけで、他の項目は選択されません。

■ 抽出した定義を使用した登録方法

コンテンツインストーラー (ContInst.exe) には、SQL ファイルを読み込んで実行する機能およびファイルのコピーを一括して実行する機能があります。この機能を使用し、抽出された定義を別の PC に登録することができます。

コンテンツインストーラーは、起動時に自分自身と同じ階層に [setup.sql] が存在するかを調べ、存在する場合には上記の一括登録機能が実行されます (存在しない場合は通常の登録画面で起動します)。また同階層に [Mpeg] フォルダが存在する場合には、そのフォルダ内全てのフォルダ・ファイルを特定の場所へコピーします。

抽出ツールによって書き出された定義を別の PC へ登録する場合は、[setup.sql] ファイルと [Mpeg] フォルダをコンテンツインストーラーと同じ階層に置き、コンテンツインストーラーを起動します。

■ 使用例

ルートにコンテンツインストーラーが実行されるように記述した [autorun.inf] を作成し、[コンテンツインストーラー (ContInst.exe)]、[DLL (MvrFile.dll, medb.dll)]、[setup.sql]、[Mpeg] フォルダを配した CD-R を作成します。登録は CD-R を PC にセットします。

※ [Mpeg] フォルダ内にアルファベット 1 文字のフォルダが存在する場合は、そのフォルダをドライブレターとして認識します。そのフォルダ以下の階層をドライブレターと認識されたドライブにコピーします。

※ MpegFile の抽出とコピーは同じドライブ文字に行われるため、抽出元とインストール先 PC では同じ構成のドライブが存在する必要があります。

(例)

コピー元	抽出した Mpeg フォルダ	コピー先
D:\Content\Content.m2p	Mpeg\D\Content\Content.m2p	D:\Content\Content.m2p
コンテンツパス ¥Data¥Content.m2p →	Mpeg¥Data¥Content.m2p →	コンテンツパス ¥Data¥Content.m2p
コンテンツパス ¥Data¥Content.m2p →	Mpeg¥Data¥Content.m2p →	コンテンツパス ¥Data¥Content.m2p

9-1 制限事項

■ 動作環境の制限

サーバーコンソール、クライアントコンテンツはサーバー側でブラウザのロケールを判別し日本語と英語を切り替えて表示するようになっていますが、実際にサーバーが受けつける文字はWebサーバーの既定言語に依存します。

サーバーコンソールをシステム全体で2つ以上開いて設定を行なわないでください。正しく更新されない場合があります。

■ 名前に関する制限

文字の制限

サーバー名、コンテンツ名、スケジュール名、チャンネル名、クライアント名、カテゴリ名に使用できる文字には制限があります。詳しくは、[Readme.jp.txt]をご覧ください。

■ その他の制限

その他の制限に関する最新情報は、[Readme.jp.txt]をご覧ください。

APPENDIX

6

- STBのファームウェアのアップデート
- ハードウェア仕様

1 STB ファームウェアのアップデート

■ MEDIAEDGE-STB のファームウェアのアップデート

MEDIAEDGE-STB のファームウェアは、内部の不揮発性メモリに記憶されています。新しいプログラムファイルを外部から送ることにより、ファームウェアをアップデートすることができます。ここでは、その方法について説明します。

ファームウェアの書き換えを行う際には、STB がネットワークに接続されている必要があります。そのために、DHCP サーバーが必要です。

- (1) 3章の「1. 準備する」と「2. インストール」に従ってインストールした場合 (DHCP を使用する場合は、そのままの構成でアップデートできます。ただし、動画が再生されている場合は、再生を停止してから行ってください。
- (2) DHCPサーバーを使用せずにシステムを構成している場合は、IPアドレスなどのパラメータを個々のMEDIAEDGE-STBに設定して、記憶させています。ファームウェアをアップデートすると、これらの設定値も初期化されるので、アップデート後にはIPアドレスなどが変わってしまい、サーバーに接続されなくなります。
そのため、第3章の「3. DHCPを使用しない場合のインストールと動作確認」の手順に従って、STB設定を行う前の段階でファームウェアのバージョンの確認を行い、必要な場合はアップデートしておいてください。
- (3) MEDIAEDGE-SVSが動作しているネットワークと切り離された、別のPCを用いてアップデートしたい場合は、そのPCにDHCPサーバーを導入してSTBを接続することが必要です。DHCPサーバー導入後、第3章「3-5 ベンダ固有情報設定ツールの起動」、「3-6 DHCP ベンダ固有情報の仮設定」、「3-7 MEDIAEDGE-STBを仮接続し、IPアドレスを調べる」と同じ手順でMEDIAEDGE-STBを仮接続してください。

注意！

ファームウェアのアップデートは、MEDIAEDGEサーバーに接続されている状態 (ACTのLEDが点灯している状態) でないと行えません。

注意！

アップデート中に [ERR] の LED が点灯した場合は、書き込みに失敗したことになります。この場合、MEDIAEDGE-STB を当社へご返送いただき、当社にてファームウェアの書き込みを行う必要があります。

● アップデートの手順





① アップデートを行う MEDIAEDGE-STB の IP アドレスを調べます。


② MEDIAEDGEサーバー上でSTBファームウェアアップデートツールを実行します。

③

ACT	PLAY	REQ	ERR	
				アップデート開始

ACT	PLAY	REQ	ERR	
				アップデート中

ACT	PLAY	REQ	ERR	
				アップデート完了

 : 点灯

 : 消灯

④ 完了です。

MEDIAEDGE-SVS (Ver1.3) がインストールされているPCが存在するネットワーク上でアップデートする場合には、次の手順で「STBファームウェアアップデートツール」を起動してください。

- 1 [スタート]メニューから[プログラム]→[MEDIAEDGE]→[STBファームウェアアップデートツール]を選択してください。

ⓘ ご注意！

MEDIAEDGE-SVS (Ver1.3) がインストールされていないPCでアップデートする場合には、次の手順で「STBファームウェアアップデートツール」を起動してください。

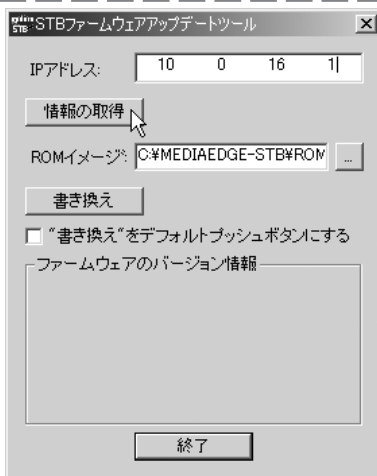
そのPCに、「MEDIAEDGE-SVS Application CD Release 1.30」のCDを挿入してください。

インストーラが起動した場合は、キャンセルして下さい。

CD-ROMドライブの、¥STB¥tools¥UpdateFirm.exe をダブルクリックします。



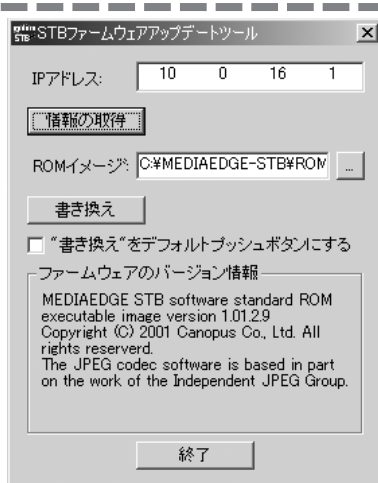
- 2 MEDIAEDGE-STBに割り当てられているIPアドレスを入力し、「情報の取得」をクリックしてください。



3

「ファームウェアのバージョン情報」のスペースに、現在のファームウェアの情報が表示され、「MEDIAEDGE STB software standard ROM executable image version 1.01.2.9」と表示されていれば、アップデートの必要はありません。[終了]ボタンをクリックして、ツールを終了してください。

- ※ これ以前のバージョンであった場合には、STBファームウェアのアップデートを行う必要があります。



4

「ROMイメージ」のブラウズボタンをクリックし、ROMイメージファイルを選択します。

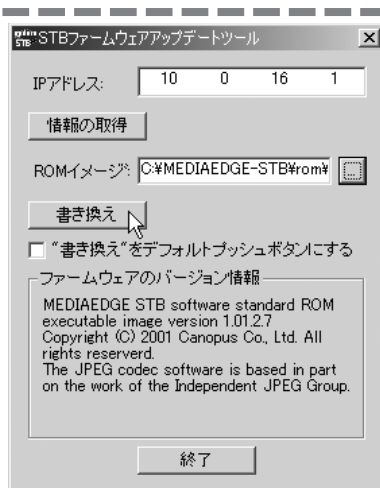
- ※ MEDIAEDGE-SVS (Ver1.3) がインストールされているPCの場合は、C:\MEDIAEDGE-STB\rom\%Stb.motにROMイメージファイルが格納されています。
- ※ MEDIAEDGE-SVS (Ver1.3) がインストールされていないPCの場合には、[CD-ROMドライブ]: %STB\rom\%Stb.motにROMイメージファイルが格納されています。



5

[書き換え]ボタンをクリックしてください。

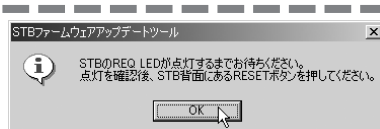
→ ROM イメージファイルが送信されます。



6

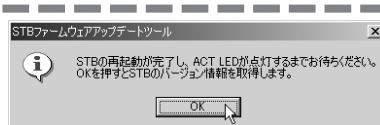
STBのREQ LEDが点灯後、STBのリセットボタンを押し、[OK]をクリックしてください。

※ MEDIAEDGE-STB 前面のPLAY LED、REQ LEDが順に点灯します。点灯まで数秒かかります。REQ LEDが点灯するまでは、MEDIAEDGE-STBの電源を切ることや、MEDIAEDGE-STBをリセットすることは、絶対にしないでください。



7

MEDIAEDGE-STBが新しいファームウェアで起動します。MEDIAEDGE-STB 前面のACT LEDが点灯してから[OK]をクリックすると、新しいファームウェアの情報が表示されますので、確認してください。



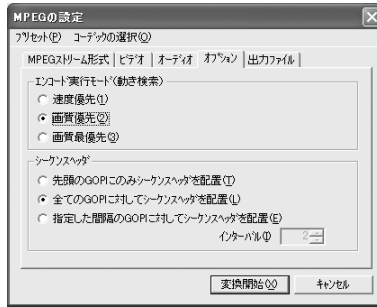
■ MPEG2 を出力する場合

MEDIAEDGE で使用する MPEG2 ファイルを作成する場合、MEDIAEDGE の仕様に準拠した MPEG ファイルを作成していただく必要があります。ここでは当社製 DVStorm-RT での MPEG2 出力を例に説明します。

- (1) MPEG2 プログラムストリーム (エレメンタリストリームの選択は不可) を選択してください。



- (2) [プロファイル&レベル]を「Main Profile & Main Level (MP@ML)」を選択してください。
- (3) [ビットレートコントロール]を入力してください。
 MEDIAEDGE-STB ユニキャスト…最大ビットレート 10000000bps 以下
 MEDIAEDGE-STB マルチキャスト…最大ビットレート 8000000bps 以下
 MEDIAEDGE-PCT…最大ビットレート 15000000bps 以下
- (4) GOP パターンで IBBP (推奨) を選択し、「ピクチャ枚数」を 15 (推奨) に設定して、「インターバル自動設定」にチェックを付けてください。



- (5) [エンコード実行モード(動き検索)]で「画質優先」にチェックを付けてください。
- (6) [シーケンスヘッダ]で「全てのGOPに対してシーケンスヘッダを配置」にチェックを付けてください。

■ビデオに関する設定(MPEG2)

パラメータ	設定値
ビデオスタンダード	NTSC, PAL
プロファイルとレベル	MP@, ML
ビデオ画素数	Standard 720x480 (NTSC) 720x576 (PAL) SIF 352x240 (NTSC) 352x288 (PAL) Half-D1 352x480 (NTSC) 352x576 (PAL)
ビットレート	Standard 4~15Mbps (STBは4~10Mbps) SIF 2~8Mbps Half-D1 2~8Mbps
符号化形式	CBR, VBR
アスペクト比	4:3, 16:9

3

ハードウェア仕様

■ MEDIAEDGE-STB ハードウェア仕様

● 入出力

ネットワーク I/F	形式：Ethernet/IEEE802.3 フレーム形式に対応 オートネゴシエーション対応 フルデュプレックス対応 端子：100Base-TX (RJ45 モジュラ) コネクタ × 1
映像出力	形式：NTSC コンポジットおよび Y/C 分離 端子：コンポジット (RCA ピンジャック) × 1 系統 S ビデオ端子 (Y/C 出力 DIN コネクタ) × 1 系統 出力インピーダンス：75 オーム 負荷インピーダンス：75 オーム
音声出力	形式：ステレオライン出力 端子：RCA ピンジャック、左右 × 1 系統 出力インピーダンス：100 オーム以下 負荷インピーダンス：10k オーム以上を推奨
リモコン	赤外線受光部 × 1 系統 リモート制御端子ミニジャック × 1 系統
汎用入出力	形式：EIA-232 シリアルポート 端子：DSUB-9 ピン (オス) コネクタ × 1 系統

● 定格

電源電圧	AC アダプタ 入力：AC 100V ~ 240V (50Hz/60Hz) 出力：DC 5V 2.0A
最大消費電力	5W

● その他

外形寸法	W:164 × D:166 × H:20.6 mm (端子、突起部、ゴム足は含まず。)
重量	約 320g

※ 製品の仕様は、将来予告無く変更する場合があります。

